

出版圖書目錄

2022年度版



中央公論美術出版

昭和31年(1956)10月、戦前・戦後と中央公論社の中核をになって活躍した栗本和夫により小社は発足・創業しました。栗本は、芸術作品に対して鋭い美意識と鑑賞眼を持ち、つねに文化の高峰を思念して出版事業に当たりました。

最初の出版は『池大雅画譜』です。後年の『浦上玉堂画譜』とともに、秀でた画人の全作品集であり、精細な印刷技術はもとより、編者による厳密な原作批判を通じて、単なる好事家の領域を越えた作品鑑賞の基本に関わる重要な問題を提起しました。

また、印刷・造本技術の粋を集めた、高見沢版の広重・北斎などの浮世絵や、良寛・斎藤茂吉・會津八一・村上華岳・安田靉彦・前田青邨・奥村土牛・上村松篁などの複製品や書画集、芥川龍之介や寺田寅彦・中谷宇吉郎などの文人画集も刊行し、江湖の好評を博しました。また芸術家自身が執筆した一次資料の収集にも力を入れて、作家の全体像を浮き彫りにしています。

一方、啓蒙書では芸術選書『ペルシアの陶器』、『中国の建築』、『インドの美術』(1964年、毎日出版文化賞)などの名著を生み、美術文化シリーズでは、学問的に裏打ちされた社寺・遺跡などの平明な案内書を刊行しました。

しかし小社の出版事業の根幹は『日本彫刻史基礎資料集成』、『日本建築史基礎資料集成』に代表される学術的な専門書であり、各種の美術史や建築史の論文集や著作集、数世紀に亘って読み継がれてきた諸外国の名著の紹介などであります。

創業60年を超えて明日への新たな出版の使命を自覚し、美術・建築はもとより我国の文化の洗練と琢磨・研究とに資すべく、基本的、古典的な学術書の刊行を企図していく所存であります。

中央公論美術出版 図書目録2022年度版

目次

著作集・叢書	1
日本・東洋美術史	16
近代日本美術史	38
西洋美術史	46
日本・東洋建築史	64
西洋建築史	78
考古・歴史	98
近代デザイン	101
美術評論・随想・文芸・画集ほか	102
オンデマンド版	104
書名索引	111
著・訳・編者名索引	116
品切書目	120

ご利用にあたって

- この目録には2022年5月現在での中央公論美術出版発行の全出版図書を取録しました。
- 目録の編成は諸分野に整理し、著者名五十音順に配列しました。
- 一書目一ヶ所掲載を原則としました。
- 巻末に書名索引、著・訳・編者名索引、品切書目を付しました。
- 各書目にはそれぞれについての内容見本がございます。別途ご請求下さい。
- 価格は定価（10%税込）を表記しました。
- ご注文にあたっての詳細は巻末をご覧ください。
- 今後とも新刊につきましては、「MUSEUM」（東京国立博物館）に毎号予告いたします。
- 小社の最新の出版活動につきましては、ホームページ（<http://www.chukobi.co.jp>）にてご案内いたしております。

著作集・叢書

稲垣栄三著作集 [全7巻]

戦後、日本住宅史、近代建築史、茶室史、神社史、都市史、建築保存などの分野で、広い視野から解決すべき多くの課題を指摘し、先駆的かつ包括的な業績を遺した稲垣栄三（東京大学名誉教授）の所論を集成し、その全仕事を通覧する。

〔第1巻〕 神社建築史研究 I

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-1483-2

藤井恵介 編

A5判上製函入 本文464頁 挿図262点 1998年2月

〔第2巻〕 神社建築史研究 II

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-1484-9

藤井恵介 編

A5判上製函入 本文432頁 挿図271点 1998年2月

〔第3巻〕 住宅・都市史研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-1485-6

伊藤 毅 編

A5判上製函入 本文420頁 挿図55点 1998年2月

〔第4巻〕 茶室・数寄屋建築研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1486-3

福田晴虔 編

A5判上製函入 本文400頁 挿図174点 1998年2月

〔第5巻〕 日本の近代建築 その成立過程

品切

鈴木博之 編

A5判上製函入 本文384頁 挿図164点

〔第6巻〕 近代建築史研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-1488-7

鈴木博之 編

A5判上製函入 本文416頁 挿図85点 1998年2月

〔第7巻〕 歴史的環境保存論

品切

陣内秀信 編

A5判上製函入 本文464頁 挿図25点

今井兼次著作集

エストベリ、ガウディ、シュタイナーなど、ヒューマンで精神的な理念の作家、建築家の先駆的な発見者、愛と祈りの建築家、『建築とヒューマニティ』の著者でもある今井兼次の建築創造と著述を集成。

作家論Ⅰ 私の建築遍歴

A5判上製函入 本文328頁 1993年5月

定価 9,292円 (税込)

ISBN978-4-8055-1439-9

作家論Ⅱ 芸術家の倫理

A5判上製函入 本文324頁 1994年1月

定価 9,292円 (税込)

ISBN978-4-8055-1440-5

関口欣也著作集 [全3巻]

建築史研究の泰斗、関口博士が、中国大陸、特に江南地方の建築を実地にて調査し、石塔や磚塔、壁面に残る木造建築を模した構造も考察の対象とし、さらに視点を広げて東アジアの建築様式が朝鮮半島を通じ、どのように日本建築の様式・技法の淵源に影響を与えてきたのかを論じた力作。

〔第1巻〕 中世禅宗様建築の研究

A5判上製函入 本文456頁 2010年9月

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0640-0

〔第2巻〕 江南禅院の源流、高麗の発展

A5判上製函入 本文432頁 2012年2月

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0641-7

〔第3巻〕 五山と禅院

A5判上製函入 本文310頁 2016年4月

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0642-4

福井利吉郎美術史論集 [全3巻]

セット定価 113,300円 (税込)

セットコード ISBN978-4-8055-1470-2

東北帝国大学教授であった氏は、日本美術史学草創期から戦後まで活躍した傑出する美術史学者であった。現在入手が困難な日本古代から近世にわたる絵画、彫刻、建築の論攷の多くが定説となっているので、基本文献として各分野の研究者はこれを避けては通れない。その学問の全容を提示する。

〔上巻〕 総説・古代仏教美術

B5判上製函入 本文440頁 挿図78点 1998年2月

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-1471-9

〔中巻〕 絵巻・水墨画

B5判上製函入 本文590頁 挿図60点 1999年2月

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-1472-6

〔下巻〕 近世美術・講義録

B5判上製函入 本文822頁 挿図80点 2000年2月

定価 49,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-1473-3

山根有三著作集〔全7巻〕

永く東京大学にあって、幾多の美術史研究者を輩出させた教育者であると共に、中世・近世絵画史研究に大きな業績を遺す日本美術史学の泰斗、山根有三氏の主要論文を系統的に編纂し、網羅したはじめての著作集。50年に及ぶ研究成果の道のりを跡づけ、日本絵画史研究に大きな指標を示す集大成。

〔第1巻〕 宗達研究一

A5判上製函入 本文380頁 挿図146点 1994年6月

定価8,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1447-4

〔第2巻〕 宗達研究二

A5判上製函入 本文354頁 挿図151点

品切

〔第3巻〕 光琳研究一

A5判上製函入 本文384頁 挿図136点 1995年5月

定価8,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1449-8

〔第4巻〕 光琳研究二

A5判上製函入 本文404頁 挿図130点

品切

〔第5巻〕 障屏画研究

A5判上製函入 本文386頁 挿図122点 1998年3月

定価10,450円(税込)

ISBN978-4-8055-1451-1

〔第6巻〕 桃山絵画研究

A5判上製函入 本文540頁 挿図126点

品切

〔第7巻〕 花道史研究

A5判上製函入 本文428頁 挿図121点 1994年6月

定価9,460円(税込)

ISBN978-4-8055-1453-5

足立康著作集〔全3巻〕

太田博太郎 編修・解説

昭和の初期に法隆寺論争、薬師寺問題をはじめ、美術史・国史・考古学を巻き込み日本建築史上、かつてない黄金時代を招来した希代の論客、足立康の俊敏な史料批判と論鋒を集成した研究・文献である。

〔第1巻〕 古代建築の研究〔上〕

A5判上製函入 本文404頁 挿図39点 1986年9月

定価9,680円(税込)

ISBN978-4-8055-1411-5

〔第2巻〕 古代建築の研究〔下〕

A5判上製函入 本文448頁 挿図39点 1987年6月

定価12,100円(税込)

ISBN978-4-8055-1412-2

〔第3巻〕 塔婆建築の研究

A5判上製函入 本文386頁 挿図68点 1987年12月

品切

アジア仏教美術論集 [全12巻]

宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲 監修

インドに興った仏教がアジアに広く伝播し、受容され、展開を遂げる大きな推進力となった仏教美術。その様相と特色を、思想や信仰、社会や政治、他地域や他宗教との関わりから読み解き、現在のアジア仏教美術研究の到達点を提示する新シリーズ全12巻。 **【バジュ・ブック・アワード企画賞受賞】**

仏教美術の始原へ

南アジア I (マウリヤ朝～グプタ朝)

定価 6,380円 (税込)

ISBN978-4-8055-1125-1

宮治 昭・福山泰子 責任編集

A5判上製カバー装 本文644頁 2020年3月

ブッダを象徴的に表す初期仏教の時代から、仏像の創始を経て、東西文化との混淆のなかで大きく花開いた南アジアの仏教美術。日本・欧米における研究の到達点を明示する19本の論考＋総論による、豊穡なる古代インド仏教世界への招待。

成熟と衰退、そしてアジア全域へ

南アジア II (ポスト・グプタ朝～パーラ朝)

定価 6,380円 (税込)

ISBN978-4-8055-1126-8

立川武蔵・森 雅秀 責任編集

A5判上製カバー装 本文644頁 2021年3月

中世以降のインド仏教美術の全体像を、ヒンドゥー教やジャイナ教など他の宗教美術や信仰、儀礼、歴史といった隣接分野、さらにはアジア全域を視野に入れて論じる20篇。

文化交流のダイナミズム

中央アジア I (ガンダーラ～東西トルキスタン)

定価 6,380円 (税込)

ISBN978-4-8055-1127-5

宮治 昭 責任編集

A5判上製カバー装 本文600頁 2017年2月

中央アジアをめぐる千年余の仏教美術史をより広い視野で捉えなおし、多様な展開を読み解く気鋭の論考19篇。

チベット美術研究の最前線

中央アジア II (チベット)

定価 6,380円 (税込)

ISBN978-4-8055-1128-2

森 雅秀 責任編集

A5判上製カバー装 本文576頁 2018年1月

通時的かつ多角的観点から、チベット仏教美術の豊穡な諸相を考究する論考17篇を収録。

海と川が育んだ多様な文化

東南アジア

定価 6,380円 (税込)

ISBN978-4-8055-1129-9

肥塚 隆 責任編集

A5判上製カバー装 本文626頁 2019年2月

わが国で初めての東南アジアの仏教美術に関する論文集。美術史・建築史のみならず、歴史、宗教、刻文、考古など幅広い専門分野の研究者による18篇を収録。

中国仏教美術の開花

東アジアⅠ（後漢・三国・南北朝）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1130-5

濱田瑞美 責任編集

A5判上製カバー装 本文592頁 2017年5月

インドに興った仏教はどのように受容されたのか。多様な「仏のかたち」を浮かび上がらせる18篇。

東アジア美術の古典

東アジアⅡ（隋・唐）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1131-2

肥田路美 責任編集

A5判上製カバー装 本文636頁 2019年3月

後世に至る模範ともいえるべき様式を創出した隋唐時代。統一王朝の動向と密接に絡み合い、反動と復興を経ながら展開された、中国仏教盛期の美術を浮かび上がらせる18篇の論考。

東アジア美術の「転換期」

東アジアⅢ（五代・北宋・遼・西夏）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1132-9

板倉聖哲・塚本磨充 責任編集

A5判上製カバー装 本文712頁 2021年2月

唐から宋へ。中国における仏教文化が大きな進展を遂げた、東アジア美術の「転換期」といえるこの時代を、遼・西夏も視野に含めて総合的に読み解く最新の論考17篇+総論を取録。

東アジア美術を俯瞰する

東アジアⅣ（南宋・大理・金）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1133-6

板倉聖哲 責任編集

A5判上製カバー装 本文696頁 2020年12月

日本にある中国美術の中でも憧憬であり続けた南宋時代、近年、急速に研究が進む大理・金。本書収録19篇の論考を通じて、仏教文物を生み出す時代の総合的な枠組みが新たな視点で描き出される。

東アジア美術の「多元性」

東アジアⅤ（元・明・清）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1134-3

宮崎法子・森 雅秀 責任編集

A5判上製カバー装 本文690頁 2022年3月

元代から清代に至る諸王朝下の仏教美術の諸相を、新たに問い直す論考16篇+総論を集録。

東アジア美術交流の結節点

東アジアⅥ（朝鮮半島）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1135-0

井手誠之輔・朴 亨國 責任編集

A5判上製カバー装 本文584頁 2018年5月

隣国で育まれた豊かな信仰の造形から、東アジアの文化交流の様相を明らかにする日韓研究者の論考17篇。

東アジアⅦ（アジアの中の日本）

予価6,380円（税込）

宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲 責任編集

A5判上製カバー装 本文600頁（予定） 2023年度刊行予定

古板江戸図集成〔全5巻〕

セット定価137,500円(税込)

セットコードISBN978-4-8055-1475-2

古板江戸図集成刊行会 編 真山青果・芦田伊人 監修

枚数十万円数百万円の市価を持つ古地図も、虫が喰っていたり、汚損していたりでは骨董品としての値打ちしかない。地図は実用品である。古地図に生命を吹き込もう、読める地図を作ろう。江戸を描き、江戸を語るのにウソがあってはいけない—この趣旨で貴重な地図を細かく写真にうつし、不明の箇所を修復した地図資料集。

〔第1巻〕長禄年間江戸図/慶長七年江戸図・十三年江戸図他 定価27,500円(税込)
B4判上製函入 本文238頁 2000年7月 ISBN978-4-8055-1476-4

〔第2巻〕寛文図/元禄三年江戸大絵図/元禄六年正方鑑 定価27,500円(税込)
B4判上製函入 本文248頁 2001年5月 ISBN978-4-8055-1477-1

〔第3巻〕延宝江戸方角安見図 定価27,500円(税込)
B4判上製函入 本文222頁 2000年9月 ISBN978-4-8055-1478-8

〔第4巻〕享保元年分道江戸大絵図/江戸切絵図集他 定価27,500円(税込)
B4判上製函入 本文226頁 2002年1月 ISBN978-4-8055-1479-5

〔第5巻〕江戸図鑑綱目/江戸特殊図/町名索引 品切
B4判上製函入 本文204頁 2001年10月

日本建築史基礎資料集成

太田博太郎 監修

国宝および重要文化財に指定された重要建造物を中心に、その様式を代表する300棟に関する永年の調査・研究の資料を統合、整理した基礎資料集成。各巻は写真、解説、図面の三部から成り、平均15棟の建造物と全般的な概説を取載する。建造物の特徴を示す重要な写真、実測図面を平均120枚も取め、歴史的・実地的な資料集として完全を期するものである。

〔第1巻〕社殿Ⅰ

定価26,400円(税込)

ISBN978-4-8055-1101-2

稲垣栄三 編

B4判上製函入 □絵66頁 図面66頁 解説140頁 1998年6月

伊勢神宮、出雲大社、神魂神社、仁科神明宮、住吉大社、春日大社、圓成寺春日堂白山堂、宇佐神宮、日吉大社東本宮、御上神社、吉備津神社、八坂神社

〔第2巻〕社殿Ⅱ

定価24,200円(税込)

ISBN978-4-8055-1102-2

稲垣栄三 編

B4判上製函入 □絵80頁 図面72頁 解説68頁 1972年6月

賀茂別雷神社、賀茂御祖神社、宇治上神社、神谷神社、苗村神社、志那神社、園城寺新羅善神堂、天皇神社、石上神宮、醍醐寺清滝宮、厳島神社・摂社客人神社

〔第3巻〕社殿Ⅲ

定価24,200円(税込)

ISBN978-4-8055-1103-9

大河直躬 編

B4判上製函入 □絵82頁 図面87頁 解説96頁 1981年8月

宇太水分神社、錦織神社、住吉神社、大笹原神社、長野神社、都久夫須麻神社、吉野水分神社、大崎八幡神社、東照宮本殿・水屋・神廬・神楽殿、輪王寺大猷院靈廟

〔第4巻〕仏堂Ⅰ

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1104-6

澤村 仁 編

B4判上製函入 □絵76頁 図面86頁 解説162頁 1981年1月/2006年11月復刊

法隆寺金堂・大講堂・東院夢殿・東院伝法堂・食堂及び細殿・西円堂、東大寺法華堂、新薬師寺本堂、興福寺北円堂・東金堂、薬師寺東院堂、唐招提寺金堂・講堂、秋篠寺本堂、栄山寺八角堂

〔第5巻〕仏堂Ⅱ

定価28,600円(税込)

ISBN978-4-8055-1105-3

澤村 仁 編

B4判上製函入 □絵80頁 図面92頁 解説104頁 2006年11月

平等院鳳凰堂、醍醐寺薬師堂、法界寺阿弥陀堂、蓮華王院本堂(三十三間堂)、淨瑠璃寺本堂(九体寺本堂)、室生寺金堂、當麻寺本堂(曼荼羅堂)、中尊寺金堂、阿弥陀堂(白水阿弥陀堂)、石山寺本堂、鶴林寺太子堂、三仏寺奥院(投入堂)、豊楽寺薬師堂、富貴寺大堂

〔第7巻〕仏堂Ⅳ

品切

関口欣也 編

B4判上製函入 □絵94頁 図面82頁 解説116頁

〔第11卷〕塔婆Ⅰ

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1111-4

工藤圭章 編

B4判上製函入 口絵66頁 図面44頁 解説108頁 1984年7月／2008年4月復刊

法隆寺五重塔、海竜王寺五重小塔、元興寺極楽坊五重小塔、室生寺五重塔、醍醐寺五重塔、海住山寺五重塔、明王院五重塔、羽黒山五重塔、瑠璃光寺五重塔、興福寺五重塔、教王護国寺五重塔、法起寺五重塔、薬師寺東塔、当麻寺東塔・西塔

〔第12卷〕塔婆Ⅱ

定価26,400円(税込)

ISBN978-4-8055-1112-1

濱島正士 編

B4判上製函入 口絵62頁 図面83頁 解説126頁 1999年11月

一乗寺三重塔、浄瑠璃寺三重塔、興福寺三重塔、明通寺三重塔、西明寺三重塔、大法寺三重塔、安楽寺八角三重塔、常楽寺三重塔、向上寺三重塔、談山神社十三重塔、石山寺多宝塔、金剛三昧院多宝塔、慈眼院多宝塔、浄土寺多宝塔、長保寺多宝塔、根来寺多宝塔(大塔)

〔第14卷〕城郭Ⅰ

品切

平井 聖 編

B4判上製函入 口絵72頁 図面102頁 解説78頁

〔第15卷〕城郭Ⅱ

品切

平井 聖 編

B4判上製函入 口絵48頁 図面113頁 解説58頁

〔第16卷〕書院Ⅰ

品切

川上 貢 編

B4判上製函入 口絵88頁 図面76頁 解説78頁

〔第17卷〕書院Ⅱ

品切

平井 聖 編

B4判上製函入 口絵78頁 図面78頁 解説80頁

〔第20卷〕茶室

定価24,200円(税込)

ISBN978-4-8055-1120-6

中村昌生 編

B4判上製カバー装 口絵78頁 図面75頁 解説112頁 1974年4月／2005年5月復刊

妙喜庵待庵、如庵、竜光院密庵席、高台寺傘亭・時雨亭・西芳寺湘南亭、春草蘆、浄土寺露滴庵、金地院八窓席、狐籠庵忘筌・山雲床、水無瀬神宮灯心亭、旧一条恵観山荘茶屋、真珠庵通徳院庭玉軒、西翁院澱看席、聚光院閑隠席付桝床席、玉林院衰庵・霞床席、仁和寺遼廓亭・飛濤亭

〔第21卷〕民家

定価24,200円(税込)

ISBN978-4-8055-1121-3

大河直躬 編

B4判上製カバー装 口絵80頁 図面68頁 解説94頁 1976年4月／2005年5月復刊

旧工藤家、旧渋谷家、旧佐藤家、旧作田家、旧伊藤家、旧広瀬家、旧山田家、曾根原家、坪川家、旧大戸家、石田家、吉村家、古井家、堀江家、旧恵利家、旧椎葉家、旧生方家、旧三沢家、大角家、今西家、木原家

日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇

実地調査に基づいた精確な解説と多様な図版によって、日本彫刻史研究において基本文献となっている『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇』第一期・第二期全16巻完結！制作年時を特定できる鎌倉時代の作品486件1721体の十分な基礎データと多様な写真を可能な限り掲載。

〔第一期・全8巻〕 文治2年（1186）から康元元年（1256）までの241件を掲載。

水野敬三郎・井上 正・西川杏太郎・田邊三郎助・副島弘道・山本 勉・根立研介 編

第1巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1021-6

阿弥陀如来像、不動明王及び二童子像、毘沙門天像 静岡・願成就院 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇200頁／解説篇298頁） 2003年4月

第2巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1022-3

不動明王像 京都・醍醐寺／金剛力士像 奈良・東大寺 他全37件

A4判上製函入 2分冊（図版篇258頁／解説篇392頁） 2004年1月

第3巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1023-0

竜灯鬼像、天灯鬼像 奈良・興福寺／不空絹索観音菩薩像 福岡・観世音寺 他全36件

A4判上製函入 2分冊（図版篇266頁／解説篇230頁） 2005年4月

第4巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1024-7

蔵王権現像 奈良・如意輪寺／地藏菩薩像 アメリカ・アジアソサエティー 他全31件

A4判上製函入 2分冊（図版篇260頁／解説篇246頁） 2006年2月

第5巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1025-4

地藏菩薩像 静岡・MOA美術館／馬頭観音菩薩像 京都・浄瑠璃寺 他全33件

A4判上製函入 2分冊（図版篇214頁／解説篇278頁） 2007年2月

第6巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1026-1

十一面観音菩薩像 兵庫・中山寺／愛染明王像 奈良・西大寺 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇234頁／解説篇246頁） 2008年2月

第7巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1027-8

弘法大師像 京都・六波羅蜜寺／玉依姫像 奈良・吉野水分神社 他全31件

A4判上製函入 2分冊（図版篇266頁／解説篇230頁） 2009年2月

第8巻

定価 44,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1028-5

中尊、千体千手観音菩薩像876体 京都・妙法院／大威徳明王像 神奈川・光明院 他補遺篇12件

A4判上製函入 3分冊（図版篇204頁／解説篇202頁／補遺篇182頁） 2010年3月

〔第二期・全8巻〕 正嘉元年（1257）から正安2年（1300年）までの213件と補遺32件を掲載。

水野敬三郎・西川杏太郎・田邊三郎助・副島弘道・山本 勉・根立研介・武笠 朗・
岩田茂樹・奥 健夫 編

第9巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1031-5

不動明王像 千葉・長徳寺／十二神将像 愛知・浄土寺 他全34件

A4判上製函入 2分冊（図版篇254頁／解説篇274頁） 2013年2月

第10巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1032-2

四天王眷属像 東京国立博物館他／弁才天像 神奈川・鶴岡八幡宮 他全24件

A4判上製函入 2分冊（図版篇240頁／解説篇216頁） 2014年2月

第11巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1033-9

十一面観音菩薩像 大阪・摩尼院／文殊菩薩及び侍者像 東京国立博物館他 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇288頁／解説篇226頁） 2015年2月

第12巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1034-6

阿弥陀如来及び両脇侍像 広島・安国寺／四天王像 奈良・薬師寺 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇270頁／解説篇212頁） 2016年3月

第13巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1035-3

阿弥陀如来像 兵庫・寿福寺／叡尊像 奈良・西大寺 他全28件

A4判上製函入 2分冊（図版篇270頁／解説篇212頁） 2017年3月

第14巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1036-0

日蓮聖人像 東京・本門寺／四天王像 奈良・薬師寺 他全28件

A4判上製函入 2分冊（図版篇220頁／解説篇168頁） 2018年3月

第15巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1037-7

聖徳太子像 米・ハーバード大学美術館／聖徳太子像 兵庫・善福寺 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇220頁／解説篇184頁） 2019年3月

第16巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1038-4

円鑑禅師像 佐賀・高城寺 他全9件／不動明王像、降三世明王像 大阪・天野山金剛寺 他補遺全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇340頁／解説篇324頁） 2020年3月

日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇 第16巻別冊

第一期・第二期（全16巻） 総目録及び作品年代順一覧

非売品

第二期完結にあたり、第一期・第二期（全16巻）の各巻に収録した486件の作品の総目録と年代順一覧を作成。PDF版を弊社HP（<http://www.chukobi.co.jp>）にても公開中。

バウハウス叢書〔新装版全14巻〕 新装版セット定価43,890円（税込）

20世紀初頭に生まれた美術・建築・工芸・デザイン・映画・写真等の新しい造形やその理論を多面的に取り扱った貴重な叢書を、初版本の趣を造本、装丁にいたるまでそのままに復刻した日本語版。

1 国際建築

定価3,080円（税込）

ISBN978-4-8055-1051-3

ヴァルター・グロピウス 著 ^{さだかね} 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文128頁 2020年7月

建築はつねに国民的なものであり、と同時に個人的なものである。人類の輪が個人、民族の二つを包含する。このような国際建築の概念規定のもとに、新しい建築精神を見出す。

2 教育スケッチブック

定価1,980円（税込）

ISBN978-4-8055-1052-0

パウル・クレー 著 ^{としみつ} 利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文66頁 2019年8月

バウハウスにおける1921、22年度の形態論の講義のエッセンスであり、当時のクレーの創作活動を理解する上でも必須の文献といえる。

3 バウハウスの実験住宅

定価2,420円（税込）

ISBN978-4-8055-1053-7

アドルフ・マイヤー 著 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文94頁 2019年10月

バウハウスの大きな課題の一つである規格住宅の建築方法について国民経済、技術、形式の三つの視点から論じ、これを現代の機械工場生産にふさわしい唯一のものとした。

4 バウハウスの舞台

定価3,080円（税込）

ISBN978-4-8055-1054-4

オスカー・シュレンマー、L・モホリ＝ナギ、ファルカス・モルナル 著

利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文108頁 2020年4月

シュレンマーの舞台芸術論を中心に、モホリ＝ナギの「演劇、サーカス、ヴァラエティー」とモルナルの劇場設計案を収める。バウハウスの舞台工場の活動を知る不可欠の文献。

5 新しい造形（新造形主義）

定価2,420円（税込）

ISBN978-4-8055-1055-1

ピート・モンドリアン 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文84頁 2020年2月

オランダの抽象絵画グループの理念的中心人物ピート・モンドリアンの芸術論集。音楽、舞踊にいたる幅広い芸術論を展開し、バウハウス理念の芸術的側面を支援するものである。

6 新しい造形芸術の基礎概念

定価2,750円（税込）

ISBN978-4-8055-1056-8

T・v・ドゥースブルフ 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文90頁 2020年2月

デ・ステイルグループの中心人物ドゥースブルフの芸術論。抽象絵画に対する一般観衆の無理解、批判に対して、芸術作品一般の原理に基づいて作品の見方を解き明かしている。

7 バウハウス工房の新製品

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-1057-5

ヴァルター・グロピウス 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文142頁 2019年10月

バウハウスの工房が活動し始めた1920年代初頭の木材、金属、織物、陶器四工房の公式作品集。巻頭にグロピウスが新しい工房の生産原則となる〈機能主義〉の宣言を掲げる。

8 絵画・写真・映画

定価 3,630円 (税込)

ISBN978-4-8055-1058-2

L・モホリ＝ナギ 著 利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文158頁 2020年7月

絵画から映画にいたる視覚造形論で、モホリ＝ナギの発案になるフォトグラムやタイポフォトが論じられており、数多くのその実作例が図版に収録される。

9 点と線から面へ

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-1059-9

W・カンディンスキー 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文212頁 2020年4月

抽象絵画の創始者カンディンスキーによるバウハウスでの講義の一部であり、抽象絵画の成立根拠を根本から論じた基礎造形理論として名高い。

10 オランダの建築

定価 2,860円 (税込)

ISBN978-4-8055-1060-5

J・J・P・アウト 著 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文102頁 2020年2月

オランダはとりわけデ・ステイル運動の設立に参加したアウトが新しいオランダ建築の本質と目的とについて書いた報告書である。

11 無対象の世界

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-1061-2

カジミール・マレーヴィチ 著 ^{おむか}五十殿利治 訳

B5判変形 カバー装 本文90頁 2020年6月

ロシア・アヴァンギャルドの代表作家マレーヴィチの著作集。その特異な造形思考は本書によりはじめて西欧に伝えられ、抽象絵画の動向に大きな影響を与えた。

12 デッサウのバウハウス建築

定価 4,180円 (税込)

ISBN978-4-8055-1062-9

ヴァルター・グロピウス 著 利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文228頁 2020年7月

グロピウスがデッサウ市で手掛けたバウハウスの校舎、住宅、その他の建物、公共職業安定所の基本構想、図面、建設中と完成後の写真などからなる建築活動報告書。

13 キュービズム

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-1063-6

アルペール・グレーズ 著 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文124頁 2020年6月

キュービズム運動開始直後の1912年『キュービズム論』を発表したグレーズが再考したキュービズム絵画の理論的解明の書であり、貴重かつ興味ある記録である。

14 材料から建築へ

定価4,290円(税込)

ISBN978-4-8055-1064-3

L・モホリ＝ナギ 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文258頁 2019年8月

1922年から28年までバウハウスの基礎課程を指揮し、本叢書の斬新なレイアウトをしたモホリ＝ナギがその成果をまとめた。機能主義的、構成主義的な基礎造形の教科書である。

バウハウス叢書別巻 バウハウスとその周辺

利光 功・宮島久雄・貞包博幸 編

20世紀初頭の全ヨーロッパを巻き込んだ芸術運動の息吹を伝えるバウハウス叢書の翻訳完了を機に、バウハウスの果たした真の意義を明らかにするため、両大戦間のドイツの文化全体をとらえて、全2巻にまとめた論文集。

I 美術・デザイン・政治・教育

定価8,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1460-3

B5判上製カバー装 本文174頁 1996年9月

II 理念・音楽・映画・資料・年表

定価8,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1461-0

B5判上製カバー装 本文176頁 1999年7月

日本美術年鑑

東京文化財研究所 編

各巻B5判上製カバー装 362～568頁

主要な事件、展覧会、物故者、発表された文献などを記載し、当該年次のわが国美術界の動向を、基本となる資料を収集整理してまとめた昭和11年の刊行以来続く美術年鑑。

平成17年版

定価9,416円(税込)

ISBN978-4-8055-1300-2

[2007年5月]

平成22年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1305-7

[2012年3月]

平成27年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1310-1

[2017年3月]

平成18年版

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-1301-9

[2008年3月]

平成23年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1306-4

[2013年3月]

平成28年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1311-8

[2018年3月]

平成19年版

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-1302-6

[2009年3月]

平成24年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1307-1

[2014年3月]

平成29年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1312-5

[2019年3月]

平成20年版

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-1303-3

[2010年3月]

平成25年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1308-8

[2015年3月]

平成30年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1313-2

[2020年3月]

平成21年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1304-0

[2011年3月]

平成26年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1309-5

[2016年3月]

令和元年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1314-9

[2021年5月]

仏教芸術

日本・中国・インドを対象とした仏教芸術の総合的研究をめざしその世界性と実証性を尊重した仏教美術研究・東洋美術研究における必携のシリーズ、堂々の刊行！ 1948年に創刊され、2017年に350号で休刊となった研究誌『佛教藝術』の伝統を受け継ぎ、仏教をはじめとするアジアの宗教に関わる絵画、彫刻、工芸、建築などの諸芸術および考古学に関する論文、資料紹介、研究ノート等の第一線の研究成果を掲載する学会誌の創刊。 [年2回配本]

各巻A4判カバー装 112～120頁

各巻定価 3,300円 (税込)

創刊号

ISBN978-4-8055-2001-7

[創刊記念座談会] 法隆寺金堂壁画をめぐって 壁画研究の現状と課題／大徳寺伝来五百羅漢図について (米沢玲)／岐阜市崇福寺所蔵「釈迦三尊十六羅漢図」について (藤元裕二)／貞和三年康俊作海雲寺釈迦如来坐像及び迦葉・阿難立像について (大河内智之) 2018年10月

第2号

ISBN978-4-8055-2002-4

中国における初期仏塔の概念とその造形についての試論 (黄盼)／十世紀の敦煌における仏画制作をめぐって (田林啓)／唐文化の受容と石位寺石仏 (竹下蘭子)／筑紫観世音寺本尊考 (松元章徳)／平安時代末期の奈良仏師による新形式・新様式の形成過程と一一七〇年代の康慶・運慶 (佐々木あすか) 2019年3月

第3号

ISBN978-4-8055-2003-1

初唐における法界仏像の「世界図」に関する一考察 (易丹韻)／中国西陲における宋代仏教図像の一受容 (橋堂晃一)／観心寺如意輪観音像と敬愛法 (高橋早紀子)／深沙大将の源流と日本での受容 (松岡久美子)／岡寺本堂脇内陣の建地割板図について (大林潤・鈴木智大) 2019年9月

第4号

ISBN978-4-8055-2004-8

雲岡石窟第五窟と民間造像 (熊坂聡美)／中国仏教美術における「白馬朱鬣」(下野玲子)／日本及び中国の仏教寺院における講堂の機能と仏像安置 (原浩史)／内山永久寺伝来東大寺持国天像と興福寺他分蔵四天王像 (塩谷(野口)景子)／新出の高岳寺蔵刺繡胎藏界中台八葉院曼荼羅図 (久保智康)／[シンポジウム報告] 平城薬師寺をめぐるシンポジウム (藤岡穰) 2020年3月

第5号

ISBN978-4-8055-2005-5

敦煌莫高窟第二八五窟西壁壁画に見られる星宿図像と石窟全体の構想について (檜山智美)／仏工志斐公万呂の一事迹 (奥健夫)／東寺講堂四天王像の像容と機能 (高橋早紀子)／幻住派の観音像 (李宜泰)／日光山輪王寺所蔵の熾盛光曼荼羅図 (宇代貴文) 2020年9月

第6号

ISBN978-4-8055-2006-2

中国南北朝時代における維摩像の展開と地域性 (齋藤龍一)／鞍馬寺毘沙門三尊像再考 (岩田茂樹)／月輪の像内納入について (佐々木守俊)／聖徳太子勝鬘經講讚図解釈法試論 (田林啓)／日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇 第三期 収録予定作品 (山本勉) 2021年3月

第7号

ISBN978-4-8055-2007-9

四川成都出土の天王像の鎧について—下同仁路出土像を中心に—（馬歌陽）／北響堂山石窟南洞の創建当初の内容に関する考察（孫千雅、訳：李梅）／中国河北地方で制作された石造法界仏像について（易丹韻）／青蓮院蔵《絹本着色不動明王二童子画像》の位相（川野憲一）／本法寺蔵《法華経曼荼羅図》の絵師に関する試論（鴈野佳世子）
2021年9月

第8号

ISBN978-4-8055-2008-6

北響堂山石窟北洞に表された弥勒下生の世界（清水真澄）／敦煌莫高窟第三二三窟と大乘菩薩戒の実践—東壁誓願画と南北壁菩薩列像を手がかりとして—（閻志翔）／先導する「崑崙奴」の図像的役割について—敦煌維摩経変相図の世俗人物群像を中心に—（平法子）／〔特別寄稿〕白鳳時代の建築は遺存するのか（鈴木嘉吉）
2022年3月

日本・東洋美術史

石山寺縁起絵巻集成

定価 74,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0765-0

相澤正彦・^{くにが}國賀由美子 編

B4判上製函入 横綴3分冊 (図版篇Iカラー 232頁、図版篇II カラー 280頁、論考・資料篇 モノクロ124頁)

鎌倉時代から江戸時代へ、時代を代表する絵師によって描き継がれた、滋賀県の古刹石山寺に伝わる重要文化財「石山寺縁起絵巻」。石山寺と滋賀県立近代美術館の全面的な協力のもと、その全場面 (図版篇I) に加え模本類も多数収録 (図版篇II) し、その全貌にせまる。図版は天地195×左右724mmの大画面で掲載、作品理解の助けとなる論考・資料も多数収録 (論考・資料篇)。 [2016年11月]

朝鮮王朝実録抄 中世美術史料

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0747-6

赤澤英二 編 鈴木廣之・高橋忠彦 監修

A5判上製函入 本文264頁 口絵4頁

『朝鮮王朝実録』の内、編者である故赤澤英二が14世紀末から16世紀前半に着目し、膨大な記事を抄出して年代順に配列。当時の美術の動向を日朝交流を基軸に考察、活用の利便性を高めるため原文の訓読と註釈が施された遺稿を再点検し、編者の論文一篇を収録した東アジア美術史研究の重要史料。

[2016年1月]

日本絵画史論攷 ^{こんたんりよくししょう}紺丹緑紫抄

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0800-8

有賀祥隆 著

B5判上製函入 本文472頁 口絵16頁

日本・東洋絵画史研究の第一人者である著者長年の研究を、主題、制作年代、筆者・筆者系統、制作背景の4篇の章に分けて収録、西洋美術に対して日本絵画とは何かを明らかにする論文集。4篇の附として「終章 日本絵画の特質」を収録。

【國華賞特別賞受賞】

[2017年12月]

日本美術史論集 その構造的把握

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0168-9

^{ひきとよ}石田尚豊 著

B5判上製函入 本文470頁 口絵16頁 挿図174点

玉虫厨子、高松塚古墳壁画、華嚴経美術、密教美術、浄土教美術、重源、洛中洛外図屏風、職人尽絵等多彩なテーマを通じて、常に人間精神の深奥なる構造とパースペクティブとの関連において捉え、考古・美術史・歴史の各分野の方法論を駆使して、その時代背景とともに解明した学際的研究の結実。

[2003年5月 (再版)]

空海の起結 現象学的史学

定価 9,240円 (税込)

ISBN978-4-8055-0477-2

石田尚豊 著

A5判上製カバー装 本文408頁

東京国立博物館資料課長を経て国立歴史民俗博物館の設立に尽力し、青山学院大学・聖徳大学で教鞭をとられてきた著者が60歳以降の研究成果のまとめと50年に及ぶ美術史学における研究生生活をふりかえり、現象学的史学の提唱をし、その醍醐味を説いた、後進への指針ともいべき書。

[2004年8月]

日本絵巻物の研究 [全2巻]

セット定価 66,000円 (税込)

セットコード ISBN978-4-8055-0405-5

秋山光和 著

多くの新知見と精緻な論証、洞察に満ちた議論によって、20世紀後半の日本学・東洋学を領導してきた秋山博士の、広範な研究対象から、科学的実証的方法・十全な史料検討・明快かつ堅固な論理構築・柔軟な思考と全体的展望をもって表された、日本古代・中世の絵巻物に関する論考を中心に編集した待望の論文集。発表時以降の新知見や論議をもとに、加筆・補注を付して完璧を期した美術史学・歴史学・国文学など人文諸学者必備の基本文献。

上巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0386-7

B5判上製函入 本文424頁 口絵4頁 挿図136点

[2000年5月]

下巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0387-4

B5判上製函入 本文446頁 口絵4頁 挿図170点

[2000年12月]

国宝 六道絵

定価 39,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0556-4

泉 武夫・加須屋誠・山本聡美 編著 金井杜道 撮影

B4判上製函入 本文204頁 口絵176頁

滋賀県大津市聖衆来迎寺に伝わる国宝六道絵15幅全てを大判のカラー図版と、各幅の詳細な場面解説を行う。3名の研究者による「伝来と研究史」「技法と表現」「図様と位置づけ」に関する論文を掲載。『往生要集』などの関係資料を収録した、美術史、仏教史、中世史においても重要な第一級史料研究。

[2007年11月]

仏画の尊容表現

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0635-6

泉 武夫 著

B5判上製函入 本文428頁 口絵28頁 挿図216点

本書は、日本絵画史の中でも最盛期の一つをなす平安から鎌倉時代にかけて制作された仏画を対象としてその表現の諸相を分析し、作品の特色、属性、様式史的現象を浮かび上がらせ、総合的理解に至らうとすることで、仏画に描き出された尊容の表現史を論じている。

[2010年10月]

中世屏風絵研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0704-9

泉 万里 著

A5判上製函入 本文420頁 口絵16頁 挿図192点

平安時代の「山水屏風」(神護寺藏)から室町時代の「競馬図屏風」(春日大社藏)まで、屏風絵などのやまと絵系大画面絵画を中心に、その特質と展開をみわたり、模本資料の積極的な活用などによって図様の解釈や推定制作時期などの定説を再検討し、得られた新知見を提示する。

【國華賞受賞】

[2013年10月]

ライト アンド カラー

Light & Color 絵画表現の深層をさぐる

定価 39,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0592-2

井手誠之輔・城野誠治・山梨絵美子 著 東京文化財研究所 編

B4判上製函入 本文28頁 口絵208頁

現在可能なコンピュータ・光学技術の粋を集めて撮影し、美術作品のはらむ多様な情報を視覚化して解析を試み、様々な可能性を示唆する。「源氏物語絵巻」、「高松塚古墳壁画」、「紅白梅図屏風」、「燕子花図屏風」などの豊富な実例も紹介、美術研究・愛好家、保存・修復科学、考古学者に必備の書である。

[2009年10月]

宮廷物質文化史

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0768-1

猪熊兼樹 著

A5判上製函入 本文384頁 口絵16頁

前近代日本の宮廷で用いられた殿舎・調度品・装飾などの物質に現れる造形様式と、それらの背景にある社会・制度・習俗などの生活様式を、物質文化史研究の手法を手掛かりに、日本の宮廷における物質文化の歴史を説き起こす。

[2017年8月]

廣隆寺史の研究

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0423-9

林 南壽 著

A5判上製函入 本文366頁 口絵6頁 挿図40点

京都最古の歴史を有する古刹、廣隆寺の飛鳥時代の創立から平安時代の移転、合併、さらに本尊の交替という400年の歴史を、文献史料、発掘成果、仏像様式などを検討、美術史の分野に限らず、日本史や仏教史、考古学などによって総合的に考察し、従来とは全く異なる新しい廣隆寺史を提示した。

[2003年2月]

光琳蒔絵の研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0666-0

内田篤呉 著

A5判上製函入 本文384頁 口絵10頁 挿図268点

図像解釈学、様式論、技術材料論を踏まえて、文化、思想、社会などに視野を拡大して光琳蒔絵の特質の解明を試みる。従来の漆工史研究では解明されなかった光琳蒔絵と光悦蒔絵の課題について、その特質と日本美術史における位置づけを明らかにし、新たな漆工史の研究方法を提言する。

[2011年12月]

国宝 紅白梅図屏風 尾形光琳筆

定価27,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0500-7

MOA美術館・東京文化財研究所 編

B4判上製カバー装 本文30頁 口絵156頁 折込図2丁

2003年東京文化財研究所はMOA美術館の依頼を受けて尾形光琳筆・国宝『紅白梅図屏風』の調査を開始した。その中間報告会では金箔も銀箔も使用されていない可能性が報告され、センセーションを巻き起こした。各部分を多数の大判カラー図版で紹介し新知見を盛り込んだ両機関による研究成果。

[2005年4月]

江戸の服飾意匠 文芸、美術、芸能との交流と近代への波及

定価27,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0732-2

大久保尚子 著

B5判上製函入 本文512頁 口絵4頁 挿図255点

文化的成熟を迎え、広汎な享受者層に支えられた近世後期・江戸。その豊潤な服飾文化は、いかに生み出されたのか。同時代の文芸(洒落本、人情本)・芸能(歌舞伎)・出版文化(浮世絵、絵本)との交流の中に成立した意匠表現に着目し、服飾文化にみられる意匠の創案と享受の特質と、その近代への波及を展望する。

[2015年1月]

てら ゆき めぐれ 大橋一章博士古稀記念美術史論集

定価33,000円(税込)

ISBN978-4-8055-0702-5

大橋一章博士古稀記念会 編

B5判上製函入 本文472頁 挿図180点

早稲田大学で永らく教鞭をとられてきた大橋一章先生が古稀を迎えるにあたり、その学恩を受けた37名の研究者によりまとめられた献呈論文集。論文の扱う地域はインド・中央アジア・中国・韓国・日本と広い範囲にわたり、研究分野は漢代画像石・仏教美術・近世絵画・博物館学・書道史等の多岐に及ぶ。

[2013年4月]

日欧美術交流史論

定価28,600円(税込)

ISBN978-4-8055-0684-4

岡 泰正 著

B5判上製函入 本文450頁 口絵40頁 挿図468点

17～19世紀、桃山、江戸、明治時代初期に及ぶ300年間、絵画はもとより陶磁器、漆器、漆工芸などのなかに見いだされる西洋起源の舶載された文物の受容により、我が国の文化がどのように変容していったのか。多様な痕跡の数々と、受容だけでなく逆の現象も「物学」を手段に検証した、交流史上上の意欲作。

[2013年2月]

常陸時代の雪村

定価22,000円(税込)

ISBN978-4-8055-0478-9

小川知二 著

B5判上製函入 本文272頁 口絵36頁 挿図141点

雪村は、15世紀末葉に常陸に生まれ育ち、200点余に上る数多くの作品を残しているが、その生涯は全く謎に包まれている。常陸時代の雪村の動向を、地誌的な伝承や地域の時代状況から基礎付けると共に、初期作品を表現様式から位置付けることから、雪村の生涯と画業に迫る意欲的な論考。

[2004年9月]

がゆう
臥遊 中国山水画—その世界

定価 47,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0454-3

小川裕充 著

B4判上製函入 本文310頁 口絵136頁 挿図1000点

南北朝時代から清代までの現存する中国山水画のうち、2000年になんなんとするその輝かしい歴史を画する135点を精選。大判の高精細カラー図版に、著者30余年の調査、研究の成果を盛り込んだ一点一点の作品に対する詳しい解説を付し、山水画の手法と原理を書き下ろした決定版・画集。

【國華賞受賞】

[2008年10月]

仏教彫像の制作と受容 平安時代を中心に

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0893-0

奥 健夫 著

A5判上製函入 本文728頁 口絵16頁

像の形だけではなく、用材、造像技法など彫像を構成する様々な要素に注目し、平安時代を主体とする彫刻史を展望する。仏像が制作のみならずその受容も含め、多様な展開を遂げたことへの再認識を緻密な検討をふまえて考究する。

【國華賞受賞】

[2019年6月]

興福寺南円堂と法相六祖像の研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0563-2

小野佳代 著

A5判上製函入 本文336頁 口絵8頁 挿図113点

興福寺南円堂と堂内に安置される6体の法相六祖像を研究テーマに、六祖像が手に執る柄香炉や座り方、さらに六祖像を安置する南円堂の八角形構造などに注目、それらの本来の意義や源流を解明することで、その根本的特質である「供養的性格」を考究し、その制作目的をも明らかにする。

[2008年1月]

仏教説話画の構造と機能 此岸と彼岸のイコノロジー

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0432-1

加須屋誠 著

A5判上製函入 本文444頁 口絵8頁 挿図288点

古代～中世期の人々が思い描いた現世と他界のイメージを現存する仏教説話画の図像解釈から探る研究。本書で主に取り上げる大画面形式の説話画は総覧できる形での鮮明な図版は刊行されておらず、こうした諸作品の詳細かつ多数の部分図に各作品の図様一覧表などの基礎データを提供する。

[2003年2月]

病草紙

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0770-4

加須屋誠・山本聡美 編

B4判上製函入 本文カラー 96頁・モノクロ144頁

平安末期にさかのぼるやまと絵の傑作「病草紙」全21点をオールカラーにて本邦初公開。また模本や異本類など周辺作例も高精細なカラー図版で掲載し、さらには先行研究を総括しつつ、最新の研究成果を踏まえた論考5編を付すことで、多角的な視点からその全貌に迫る。(英文梗概付き)

[2017年6月]

仏教説話画論集〔全2巻〕

加須屋誠 著

仏教に基づく絵画のうち、絵解きの対象となる「説話画」は絵巻・掛軸・壁画など形態が異なるため、まとまった研究書が少ない。これまでの研究を乗り越えて、これからの「説話画」研究のための基礎を提供する、図像解釈学の方法を駆使した著者永年の美術史研究の成果。

上巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0873-2

B5判上製函入 本文400頁 口絵32頁

書き下ろしを含む、古代から近代にいたる地獄表現、後白河院が関与した六道絵巻、聖衆来迎寺本六道絵の考察など、中世の六道表現を中心とした6篇の論考を収録。 [2019年11月]

下巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0874-9

B5判上製函入 本文432頁 口絵8頁

研究方法、観者の「まなざし」分析、中世の絵画芸術を総覧する9篇の論考を収録。

[2021年3月]

長谷寺銅板法華説相図の研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0687-5

片岡直樹 著

A5判上製函入 本文292頁 口絵2頁 挿図120点

奈良・長谷寺の国宝・銅板法華説相図は、表面に『法華経』見宝塔品に基づく多宝塔や仏菩薩の彫刻を施し、27行273字の銘文を刻んだ作品。美術史のみならず日本史・書道史・仏教文学といった多分野の研究者の関心を集める本銅板を、彫刻様式・銘文解釈の両面から分析。従来になかった総合的研究であり初の専著。 [2012年10月]

河合正朝絵画史論集〔全2巻〕

日本絵画史研究を長年牽引してこられた河合正朝氏の半世紀にわたる論考の中から、主要論文を系統的に編纂した集大成。国内の絵画史研究者のみならず、海外の研究者にも通読をたやすくし、美術史研究の一道標として日本美術研究の更なる深化を願うものである。

上巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0867-1

B5判上製函入 本文500頁 カラー口絵8頁 挿図380点

「室町時代の絵画」「桃山絵画と狩野派」「海北友松と長谷川等伯」を収録。 [2019年1月]

下巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0868-8

B5判上製函入 本文500頁 カラー口絵8頁 挿図420点

「琳派」「浮世絵」「江戸時代の絵画」「日本美術の見方」「補遺」を収録。

[2020年11月]

明代窯業史研究 官民窯業の構造と展開

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0631-8

金沢 陽 著

B5判上製函入 本文278頁 □絵24頁 挿図109点

本書は、著者の20年に及ぶ窯業地の実地調査に基づき、関連する先行研究の蓄積を批判的に取り入れ、産業構造の分析をもその視野に取り入れた重層的研究である。また、新たな視点のもとに達成された中国・明代における官民窯業の構造とその展開を追った窯業史研究の成果である。

[2010年7月]

京都国立博物館
須磨コレクション図版目録

中国近代絵画1 齊白石

定価 3,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0950-0

京都国立博物館 編

A4判上製カバー装 本文120頁

大正から昭和にかけて、外交の舞台で須磨弥吉郎(1892-1970)が収集した膨大な美術作品のうち、京都国立博物館が寄贈をうけた中国近代絵画を中核とする須磨コレクションをカラー図版にて、地域ごと全5巻で構成。第1巻は中国近代絵画を代表する齊白石の作品33件を掲載。

[2019年3月]

唐代龍門石窟の研究 造形の思想的背景について

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0663-9

久野美樹 著

B5判上製函入 本文556頁 □絵8頁 挿図230点

唐代龍門石窟は7～8世紀に造営された中国三大石窟の一つ。唐王朝とも関係が深いこの石窟の思想的背景の研究は、仏教美術史、仏教史、歴史研究にとって重要である。従来なおざりにされていた石窟に刻まれた全造像記の解説により本尊如来像の尊格を同定し、龍門石窟の造形思想全体の解釈を試みた労作。

[2011年11月]

狩野光信の時代

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0551-9

黒田泰三 著

B5判上製函入 本文262頁 □絵32頁 挿図151点

狩野永徳の嫡男として安土城障壁画などに従事し、永徳没後は狩野一門の中心として豊臣秀吉の肥前名護屋城の襖絵などを制作した光信は、華麗な金碧画のやまと絵の伝統に基づいた優美な叙情性を発揮し、花鳥画家と謳われた。光信の花鳥画だけではなく、人物画家としての新たな認識を喚起する。

【徳川賞受賞】

[2007年9月]

国宝 伴大納言絵巻

定価 132,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0610-3

黒田泰三・早川泰弘・城野誠治 著

B3判上製輸送ケース入 本文60頁 □絵330頁

日本美術の最高峰・国宝「伴大納言絵巻」の全画面を、現在最高の技術によって撮影し、原寸の大きさで再現する。さらに拡大した部分図を多数収録し、また史実との関わり、絵巻の伝来、伴大納言の怨霊伝説、本絵巻研究史上の問題点や光学的調査による新発見をまとめた論文を収録する決定版。

[2009年11月]

中国山水画史研究

定価 13,750円 (税込)

ISBN978-4-8055-0799-5

河野道房 著

A5判上製函入 本文407頁 口絵8頁 挿図170点

東アジア美術の中心である中国の山水画の展開と歴史を、奥行き表現を中心に作品史・言説史の両面から考察。漢代から魏晋南北朝時代にかけて成立した山水表現、それらが唐代から北宋にかけて確立した山水画にどのように変化していくのかを明らかにする。

[2018年2月]

茨城彫刻史研究

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0349-2

後藤道雄 著

B5判上製函入 本文210頁 図版212頁

茨城県には、7世紀後半の白鳳時代から多数の仏像彫刻が伝存する。著者は、県下に所在する仏像の悉皆調査の成果を踏まえ、奈良から南北朝に至る165件の仏像を時代毎、形式別に区分し、60点余の写真で明示する。個々の事例から都の仏師と地方仏師との影響関係を詳細に論証した。

[2002年5月]

米芾「画史」註解 [全2巻]

セット定価 74,800円 (税込)

古原宏伸 著

中国絵画史上屈指の鬼才が残した最重要にして難物中の難物史料『画史』待望の全文訳、成立後900年にして初の刊行。『画史』の作者・米芾は中国北宋の画家・書家・文人である。『画史』は、米芾が書画の所見の記事・来歴を中心に、巷間のお話、雑事について、若年から最晩年にかけて書き残した文章を収録したものである。この中国絵画の研究史上、屈指の重要史料の原典批判を繰り返し、多くの異本校合を通して、その内容を明らかにし、問題点を指摘した一大労作。 **【國華賞受賞】**

上巻

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0608-0

B5判上製函入 本文460頁 挿図497点

[2009年9月]

下巻

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0609-7

B5判上製函入 本文478頁 挿図598点

[2010年5月]

興福寺創建期の研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0636-3

小林裕子 著

A5判上製函入 本文242頁 口絵8頁 挿図42点

奈良時代の威容をほとんど失った、南都七大寺伽藍の名刹である興福寺がいかなる思想背景でその大伽藍を形成していったかを、文献、発掘成果、建築、現存作例といった多角的な視点によって明らかにし、多くの先行研究をふまえ、最新の成果を導入して、南都興福寺研究に新たな問題を提起する。

[2011年1月]

南蛮漆器考

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0871-8

小山真由美 著

A5判上製函入 本文342頁 カラー 42頁

16世紀、東西文化の初めての接触から形成されてきた南蛮文化は日本のみならず大航路上の異文化圏にも少なくない影響を残した。この「大航海時代の申し子」である南蛮漆器について、文献史料と在イタリアの遺品を中心にその特質を考察する。

[2019年5月]

円山応挙研究

定価 66,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0318-8

佐々木丞平・佐々木正子 著

A4判上製函入 2分冊 (研究篇516頁 図録篇554頁)

日本絵画史における巨匠円山応挙の新出作品を数多く含む作品図版931点を掲載した最大の個人画集となる図録篇、社会的背景、資料、技法解析、落款印章分析、絵画思想等の最新研究成果に基づき新たな日本絵画史研究の方法を確立する研究篇よりなる没後200年にして完成した応挙研究の決定版。

【日本学士院賞・國華賞・フンボルト賞受賞】

[1996年12月]

平安仏教彫刻史にみる中国憧憬

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0781-0

佐々木守俊 著

A5判上製函入 本文344頁 口絵8頁 挿図130点

中国仏教文化受容史の観点から、平安時代の仏教彫像の成立における諸問題、すわなち密教図像の請来とその彫像化、版画（印仏・摺仏）の受容と像内納入の流行の問題を中心に、平安彫刻史における「中国憧憬」の様相をあきらかにすることを目指した、学術研究成果。

[2017年2月]

アジャンター壁画の研究

定価 71,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0590-8

定金計次 著

B4判上製函入 2分冊 (研究篇414頁 図版篇420頁)

インド古代壁画の宝庫であるアジャンター石窟に残る壁画を未公開窟も含めほぼ総ての現存壁画を撮影し、従来全く公にされていないものを多く含むアジャンター壁画全体の図版を資料として公刊する。文献資料を援用し、その機能と主題との関係を解明、様式と技法の分析を通じて総合的に研究した。

[2009年3月]

毘沙門天像の成立と展開

定価 17,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0958-6

佐藤有希子 著

A5判上製函入 本文680頁 口絵16頁

古代インドに淵源をもつ毘沙門天が東アジア世界でどのように信仰され、また関連する美術作品を生み出してきたか。東アジアの仏教において重要視された毘沙門天が、中国、朝鮮、そして日本へと伝播した過程について検討するとともに、日本の奈良時代（8世紀）～南北朝時代（14世紀）における様々な受容の様相を明らかにする。

[2022年3月]

かばく しょう
花木の象 国宝都久夫須麻神社

定価 52,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0700-1

須賀みほ 編著 小塚直斗 画像

B4判上製函入 本文368頁 (カラー232頁 モノクロ136頁)

桃山建築の代表的遺構・国宝都久夫須麻神社 (長浜市、琵琶湖竹生島) 社殿各部の造形表現について、全容および詳細を貴重な初出の図版により紹介する画像資料集。花の造形が社殿の絵画、彫刻、蒔絵などの内観外観を埋め尽くす表現の総体を「花木」をキーワードとして提示し、桃山期の造形の基盤を明らかにする。
 [2013年2月]

武士の絵画 中国絵画の受容と文人精神の展開

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0882-4

杉本欣久 著

A5判上製函入 本文594頁 口絵8頁

江戸時代における思潮の中心であった儒教的価値観に着目することによって、どのような歴史観が構築できるかという観点から、江戸時代に生きた画家たちが憧憬した「文人」の精神や生き方を捉え、その絵画の成立背景を明らかにする。

[2020年10月]

法華経写経とその荘厳

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0740-7

須藤弘敏 著

A5判上製函入 本文594頁 口絵8頁

写経に施された装飾、特に法華経写経の見返絵を軸に、なぜ日本は大陸の写経版経装飾から離れ独自の形式を展開させたのか、その意義を明らかにする。多くの図版に加え、経絵研究の重要な基礎データである「平安時代金字写経記録」や東アジアの「写経紙高法量表」を収録。國華賞受賞論文も含む、永年の研究成果。
 [2015年6月]

書に法あり

定価 4,180円 (税込)

ISBN978-4-8055-0741-4

孫 暁雲 著 百橋明徳 監訳

B5判カバー装 本文272頁 挿図167点

現代中国書道界を代表する書家、孫暁雲氏。書道の史的考察と実践を論じた原著は10万部を越すベストセラーとなった。その間、中国各地の美術館で『孫暁雲法芸術展』、『書法有法 (書に法あり)・孫暁雲法作品展』が開催されるなど、大きな関心と呼んだ本格的「書道論」、待望の刊行である。

[2015年7月]

屏風絵にみる季節

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0581-6

武田恒夫 著

B5判上製函入 本文326頁 口絵8頁 挿図168点

日本絵画史にとって、古来季節表現がユニークな主題になってきた。季節は、花鳥風月などの自然の風物ばかりでなく、公私にわたる年間の諸行事を介しても表象される。屏風絵からみた日本人の季節と景趣表現を古代から近世までその変遷を追い、かかる古代以来の課題を絵画史的展開に投影させる。

[2008年12月]

唐宋山水画研究

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0736-0

竹浪 遠 著

B5判上製函入 本文472頁 口絵16頁

中国史上における一大転換期であった唐(618～907)・宋(960～1279)時代の山水画を対象に、主題と表現の關係に注目し、現存作品だけでなく題画詩などの多数の文献資料を駆使することでその描写に込められた多彩な意味と画風の変遷過程を解明する独創的研究成果。

【國華賞受賞】

[2015年2月]

田邊三郎助彫刻史論集 日本彫刻とその周辺

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0399-7

田邊三郎助 著

B5判上製函入 本文564頁 挿図532点

アジア全域を見渡す広い視野に立った著者の諸論考は、宗教史や芸能史などの研究成果を取り込んで、彫刻史の対象領域を拡張させてきた。本書は、日本・中国の古代から近世にわたる主として仏教彫刻に関する論考37篇を収録し、各論考にはその後の研究動向を踏まえた付記を加える。

[2001年5月]

論集 日本の仮面 [全2巻]

田邊三郎助 著

文化庁において彫刻を中心とする文化財の調査研究、保存修復及び保護行政の公務に携わり、指導的な役割を果たしてきた著者による、古代面から舞楽面、能面にいたるまでの仮面彫刻に関する論考を豊富な図版と共にまとめる。

上巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0865-7

B5判上製函入 本文280頁 カラー図版24頁 モノクロ図版106頁

「概説」と「舞楽面」「行道面」に関する論を収録。

[2019年2月]

下巻

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0866-4

B5判上製函入 本文280頁 カラー図版26頁 モノクロ図版116頁

「能面」「狂言面」に関する論を収録。

[2019年10月]

敦煌美術東西交界史論

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0960-9

田林 啓 著

A5判上製函入 本文462頁 口絵8頁

敦煌は古来より東西の様々な文化が交差する地であり、世界最大の仏教石窟寺院、莫高窟の諸石窟は時代とともに複雑な展開をたどった。中国の南朝時代から唐代を経て五代へ至る各時代の諸石窟について、最新の研究成果をもとに詳細な検討を加え、敦煌様式の特質を浮かび上がらせる。

[2022年3月]

北宋絵画史の成立

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0758-2

塚本麿充 著

B5判上製函入 本文680頁 口絵8頁 挿図400点

北宋時代に成立した文物の収蔵・公開機関である三館秘閣を中心に、北宋絵画史の成立に至るまでの過程を扱う。「文物」についてその存在意義と機能を問い、交流史を結節点に、形や意味を変容させていく過程を総体的に捉え、人間と作品の関係性により紡がれる「文物」の歴史を解明する画期的論考。

【三島海雲特別賞受賞】

[2016年3月]

かりがねやおんがちょう

雁金屋御画帳の研究

小西家伝来尾形光琳関
係資料にみる小袖文様

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0664-6

塚本瑞代 著

B4判上製函入 本文260頁 口絵176頁

尾形光琳が遺した小西家旧蔵資料の中にある小袖の雛形が描かれた「御画帳」は、江戸時代の小袖を研究する上で必須のもの。全図を掲載し、かつ「しきうつし」により文様を描き起こし、文字を解説することで、当時の小袖の在りようにとどまらず、日本のデザインや美意識を端的に語る資料の全容を明らかにする。

[2011年9月]

ボストン美術館日本美術総合調査図録

定価 46,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1000-1

辻惟雄・アン・ニシムラ・モース・高岸輝 監修

公益財団法人鹿島美術財団 編

A4判上製布装函入 (2分冊) 解説篇440頁/図版篇568頁 (カラー64頁/モノクロ504頁)

1991年から3度にわたる鹿島美術財団の支援により行われた、ボストン美術館に所蔵される日本美術悉皆調査の成果をまとめた総合図録。所蔵作品2976件の制作年代・法量・落款さらに調査者による所見など、詳細なデータを提供。また図版篇として3494点の画像を収録し、世界に類をみない貴重な日本美術コレクションの全貌を一冊にまとめた。

[2022年3月]

平安密教彫刻論

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0751-3

津田徹英 著

A5判上製函入 本文784頁 口絵16頁 挿図616点

400年にわたる平安密教彫刻がどのように展開していったのか、経典・儀軌を精密に読解するとともに、密教図像学的手法を駆使して各尊像の図像表現を解明した、密教造像の意義と展望を示す著者永年の研究成果である。

[2016年1月]

江戸期実景図の研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0686-8

鶴岡明美 著

A5判上製函入 本文432頁 口絵16頁 挿図253点

谷文晁「余探勝図」を端緒とする江戸時代後期に盛行した、記録性を重視した実景表現による作品群について、諸作例の特質を分析し、受容の背景について、歴史的事象との関連性を明示した。実景図に具体的な検討を加え、表現の系譜を解明し、表現方法が生成された背景について史的考察を試みた研究成果。

[2012年10月]

日本絵画史年記資料集成 十世紀—十四世紀

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0044-6

東京国立文化財研究所 編

A5判上製函入 本文340頁 口絵84頁

日本美術史研究の上で、作品の製作年代や作者を知るための直接的な資料として重要なものが銘文である。本書は平安時代中期から南北朝時代までの500年間に日本で制作された絵画に関する作品のうち、その年記のあるもの324点を430枚の写真と銘文の翻刻で年代順に集成したものである。

[1984年5月]

日本絵画史年記資料集成 十五世紀

定価 20,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0652-3

東京文化財研究所 編

A5判上製函入 本文720頁

『日本絵画史年記資料集成 十世紀—十四世紀』の続編として刊行する、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所企画情報部の研究プロジェクト「東アジアの美術に関する研究」の平成22年の研究成果報告書である。日本絵画史の年記資料のうち、15世紀の銘記類833件を収載する。

[2011年3月]

日本東洋古美術文献目録 昭和11年～40年定期刊行物所載附・著者名索引

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0343-0

東京国立文化財研究所 編

B5判上製函入 本文790頁

昭和11年(1936)より40年(1965)までの30年間に、わが国で発行された定期刊行物所載の論文・資料・記事・紹介文献を1200誌を対象に、4万件にわたって採録した日本・東洋全般を包括する美術文献目録。20年振りの復刊にあたり、新たに60頁に及ぶ著者名索引を付し、検索の便をはかった。

[1997年11月]

日本東洋古美術文献目録 1966年～2000年定期刊行物所載附・著者名索引

定価 55,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0503-8

東京文化財研究所 編

B5判上製函入 本文1200頁

昭和11年から40年までの文献データを収録した前著刊行より36年、昭和41年(1966)より平成12年(2000)までの諸文献4万3千件を分類整理し、日本・東洋美術はもとより広く史学・建築・民俗・考古・国文・宗教などの諸分野の研究に寄与する待望の目録。著者名索引付。

[2005年5月]

美術研究作品資料第4冊 龍華寺 菩薩半跏像

定価 20,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0547-2

東京文化財研究所 編

B4判上製函入 本文48頁 口絵48頁 挿図47点

神奈川県龍華寺に伝来した天平時代の脱活乾漆造の菩薩半跏像は平成10年に龍華寺の土蔵から偶然発見されたもので、発見時、頭、体、四肢が分離していたため、いまだ技法に不明なところを残す作例の貴重な観察をすることができた。その後、修理を経て往時の姿に復するまでの調査報告。

[2007年5月]

国宝 源氏物語絵巻

定価99,000円(税込)

ISBN978-4-8055-0585-4

徳川美術館・五島美術館 編

B4判上製帙函入 本文40頁 口絵326頁

国宝「源氏物語絵巻」の全文を解明すべく、徳川美術館・五島美術館の共同研究として進められた科学的調査の報告。学術用・鑑賞用として有効に利用できるよう全文は原寸大に収録し、各場面解説に加え、登場人物77名の拡大図や部分図を蛍光画像などと共に網羅的に紹介。

[2009年1月]

たけのじょうおう 武野紹鷗

茶と文藝

定価7,480円(税込)

ISBN978-4-8055-0533-5

戸田勝久 著

A5判上製函入 本文408頁 口絵16頁

千利休の師である武野紹鷗は、中世から近世にかかる学芸を語る上に欠かせない巨匠である。紹鷗研究の先駆となった前著『武野紹鷗研究』を基盤にすえ、侘び茶の性格とその人物像を軸とした歴史、そして和歌・連歌と茶の湯との深い関わりに解明の光を当て、更に奥深く追求した重厚な著書。

[2006年11月]

仏教美術史論

定価26,400円(税込)

ISBN978-4-8055-0375-1

どのはしあきお
百橋明穂 著

B5判上製函入 本文462頁 口絵8頁 挿図431点

仏教美術研究における説話美術に着目して、中国大陸、朝鮮半島、わが国の様々な作品を比較検討し、伝播と発展の過程を明らかにしつつ、その説話性こそが日本の仏教美術の根本的な特質であることを浮き彫りにする。さらに古代壁画、仏教美術史研究の図像と様式を詳述、東アジアの仏教美術にも論及。

[2000年2月]

あおに 丹青よし

古代美術散策

定価4,180円(税込)

ISBN978-4-8055-0788-9

百橋明穂 著

A5判上製カバー装 本文236頁 挿図90点

日本東洋古代美術史に多くの成果をもたらし、わが国はもとより諸外国の研究者に師表としてその学恩的影響の大なる学究の、50年にわたる足跡をこのたび古希の節目にあたってまとめられた佳品。

[2017年5月]

東アジア美術交流史論

定価36,300円(税込)

ISBN978-4-8055-0670-7

百橋明穂 著

B5判上製函入 本文432頁 挿図350点

日本と中国大陸における古代仏教美術史の交流と、高松塚古墳や高句麗古墳など古代墳墓壁画の密接な相関関係の諸相を解明、東アジアの古代文化の影響関係を日本古代美術という視座から考察、中国訳と英訳を併載し、国際的研究環境を形成した成果。

[2012年12月]

美術史歴参

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0701-8

百橋明穂先生退職記念献呈論文集刊行委員会 編著

B5判上製函入 本文680頁 挿図414点

長年にわたり日本と中国の古代美術史を研究し、特にシルクロード、敦煌から中国・朝鮮と日本の仏教美術史上での相互交流に関する論考を多数発表し、古代墳墓壁画における先端的な研究を披瀝してきた百橋博士。その神戸大学退職を記念して、博士の学風に触れた門下生によってまとめられた献呈論文集。

[2013年3月]

じんいそう

神異僧と美術伝播

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0888-6

百橋明穂・田林 啓 編

A5判上製カバー装 本文264頁 挿絵8頁

史実と虚構のはざまで生成されるイメージをめぐる一不可思議な事績を示した神異僧（じんいそう）を紐帯として繋がり合う仏教美術。日本と中国の研究者による9本の論考を取録し、美術伝播の様相を読み解く。本書は2017年に大和文華館で開催された、神異僧をめぐるシンポジウムをもとにした画期的な論文集である。

[2021年2月]

仏教と造形 — 信仰から考える美術史

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0898-5

長岡龍作 著

B5判上製函入 本文474頁 挿絵16頁

本書は、仏教美術はじめてとする作品を制作された「場」までを考察の対象として (1) 仏身観と表象、(2) 死後世界における祈願と造形の機能、(3) 古代日本における現世観と造形の役割、という三点の関心に応じて論を三部で構成し、人間の宗教的営為の中で果たす造形の役割を明らかにすること、造形という具体的な素材を通し、その背後にある人間精神を問い直そうとしている。

[2021年12月]

古代インド美術と民間信仰

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0754-4

永田 郁 著

A5判上製函入 本文464頁 挿絵8頁 挿図230点

古代インド美術は民間信仰という土壌の中でどのように発生し、展開していったのか。民間信仰の神ヤクシャ（葉叉、夜叉）の造像分析を通じ、仏像や菩薩像の生成に民間信仰やその造形が果たした役割を明らかにする。

[2016年2月]

中国金工史

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0737-7

中野 徹 著

B5判上製函入 本文704頁 挿図1800点

新石器時代から近世まで、中国の青銅器を中心とした金属工芸の歴史を概観する初めての通史。半世紀に及ぶ学芸員の経験からの全編書下ろしであり、通史の展覧会をイメージして構成した出土資料を多数掲載。詳細な「資料文献目録」を付す。

[2015年1月]

光琳論

定価 26,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0880-0

仲町啓子 著

B5判上製函入 本文348頁 口絵16頁

江戸時代を代表する琳派の絵師、尾形光琳（1658～1716）について、著者永年の研究を書下ろしにて集大成する。光琳の子孫の小西家に伝わった文書・画稿類、さらには同年代の資料を元に、光琳の伝記を再考することで、彼の絵画制作に対する研鑽の跡を追った。先学の研究を参照しつつも、既知の完成作品にも新たな解釈を加え、光琳の歩んだ道を描き出すことを目的とし、その全体像を新たな視点から、かつ一貫した構想によって捉えなおす。【國華賞・徳川賞受賞】 [2020年9月]

国宝 麻布著色吉祥天像

まふちやくくしよく

薬師寺所蔵

定価 20,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0570-0

奈良国立博物館・東京文化財研究所 編

B4判上製カバー装 本文36頁 口絵79頁 折込図2丁

奈良・薬師寺に遺されている光明皇后を写したといわれる、麻布に描かれた独立画像としては日本最古の気品あふれる盛唐様式を伝える天平期の優品、国宝「吉祥天像」の最新の高精細画像と科学的調査による報告書。超高精細デジタル画像の科学の眼が捉える天平美人。

[2008年5月]

奈良時代の塑造神将像

定価 25,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0601-1

奈良国立博物館 編

B4判上製カバー装 本文40頁 口絵122頁 折込図2丁

天平彫刻の頂点をなす国宝東大寺戒壇堂四天王立像と法華堂執金剛神立像を、奈良国立博物館がX線透過撮影による画像を詳細に分析し、構造を明らかにする。参考として新薬師寺の十二神将立像を付し、完璧を期す。奈良朝の仏像制作技法の研究に画期的な新知見を呈する報告書。

[2010年12月]

正倉院宝物の構造と技法

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0875-6

西川明彦 著

A5判上製カバー装 本文464頁オールカラー 挿図690点

七宝鏡、武器、武具、馬具、蒔絵、厨子、基盤……科学分析と詳細な実態調査、さらに文献史学的成果を踏まえ、豊富なカラー図版と共に多角的側面から正倉院宝物について論述。文化財の一大宝庫である正倉院の宝物の構造と技法を、永年宝物調査に携わってきた正倉院事務所の所長自らが明らかにする。

[2019年10月]

日本彫刻史論叢

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0380-5

西川杏太郎 著

B5判上製函入 本文530頁 口絵8頁 挿図478点

永年文化財行政の要職を歴任した著者の豊富な経験、知見に基づく論考の集大成。作品の実査による詳細な基礎データや解体修理時の所見と構造図面および細部の具体的な写真により、技法史的観点を中心として考察された本書は、今後の彫刻史研究の礎となるであろう。 [2000年1月]

東西交流の陶磁史

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0591-5

西田宏子 著

A5判上製函入 本文580頁 挿図408点

永らく根津美術館の学芸員を務めて、世界各地の中国陶磁をはじめとする交流史を論じた論考。くわえて陶磁器、漆器など様々な展覧会に際し執筆した論考と、オックスフォード大学で当該分野の博士号を日本人女性として初めて取得した著者の留学体験記や、研究者・学芸員としての様々な思いを綴った随筆を併録。【茶道文化学術賞受賞】

[2008年11月]

日本中世肖像彫刻史研究

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0956-2

根立研介 著

B5判上製函入 本文296頁 口絵8頁

本書は、わか国の肖像彫刻について論じた研究書である。特にその制作が本格化した鎌倉時代の肖像彫刻に焦点を当て、中世肖像彫刻史の展開の様相や、肖像彫刻の造像目的や機能などを論じるとともに、この時期に造られた肖像彫刻の特色や性格を明らかにしようとする。

[2022年2月]

初期イスラーム文化形成論

エジプトにおける
技術伝統の終焉と創造

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0795-7

長谷川奏 著

A5判上製函入 本文462頁 口絵4頁

本書は、エジプトにおける文明の歴史堆積を主題としており、初期文明からヘレニズム文明、地中海文明を経て、イスラーム文明にとってかわられていくまでの時代を対象にしており、その具体的な側面を検証するために、生活雑器をとりまく生活空間がどのように変質していったかを考察する。

[2017年12月]

東洋陶磁史研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0534-2

長谷部楽爾 著

A5判上製函入 本文624頁 挿図167点

中国陶磁史を中心とした、誠実で真摯な研究活動により、内外の陶磁関係者から信頼され、注目されてきた著者の半世紀にわたる足跡を集大成した著作集。中国・朝鮮・東南アジア・出土中国陶磁などのテーマに分け、50年にわたる著作から代表的な論考を掲載。各論考の末尾に、自註を付した。

[2006年11月]

室町水墨画論集

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0892-3

畑 靖紀 著

A5判上製函入 本文560頁 口絵8頁

室町時代にひろく愛好された水墨画は中世美術を特徴付ける分野であり、日本文化のなかでも歴史的に重要な位置を占めている。そのような意義をもつ室町水墨画について、雪舟研究を中核にすえ、絵画の受容者を対象とする視点、近代国家の枠組みを越えた中世の文化交流に注目する視点、逸失作品の積極的な復元という三つの課題を踏まえて分析考察を進めた研究成果の公開。

[2021年8月]

中国石窟美術の研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0688-2

濱田瑞美 著

A5判上製函入 本文400頁 口絵4頁 挿図194点

図像研究を通して石窟空間全体の構想を読み解くことで、石窟美術の歴史を捉える。長期の現地調査により得た図像資料と綿密な読解を加えた多くの経典・仏教史資料を駆使しており、史料の価値も大きい。南北朝期から唐宋期まで、また地域も幅広く扱う、中国石窟美術の歴史を実証的に論述した、気鋭の研究。【國華奨励賞受賞】 [2012年10月]

鎌倉仏教絵画考

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0618-9

林 温 著

B5判上製函入 本文250頁 口絵8頁 挿図129点

本書は鎌倉時代、鎌倉を中心とする地域に伝来する仏教絵画遺品の図像及び様式を分析し、禅宗寺院と西大寺系真言律寺院の二つの系列に整理して、鎌倉において京都や南都の仏画様式とは異なる「鎌倉派」ないし「鎌倉地方様式」と仮称しうる独特の様式展開がなされたことを論証した。

[2010年3月]

国宝 彦根屏風

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0557-1

彦根城博物館・東京文化財研究所 編

B4判上製カバー装 本文102頁 口絵98頁 折込図2丁

近世初期風俗画の傑作として高く評価され、人々を魅了してきた彦根屏風。この巧みな構図と精緻な描写で構築された名品の真の魅力を広く共有すべく、彦根城博物館と東京文化財研究所との共同研究により、高精細画像や顔料分析、保存修理で得られた情報など、多様な研究成果を収録する。

[2008年3月]

初唐仏教美術の研究

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0677-6

肥田路美 著

B5判上製函入 本文502頁 挿図168点

わが国の精神史と造形文化の形成に絶大な影響を及ぼした中国初唐時代の仏教美術に関する総合的研究。当時展開した仏教美術の性格と歴史的意義を時代を特徴づける観点とし、実地調査と仏典・石刻史料など文献資料の実証的検討を通して、多角的な視点と方法論で初唐仏教美術の全体像を明らかにした労作。【國華賞受賞】 [2011年12月]

絵仏師の時代

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0269-3

平田 寛 著

B5判上製函入 本文600頁 口絵16頁 挿図26点

本書は、鎌倉時代までの日本絵画史の骨格を造った仏教絵画の制作の主体をなした絵仏師達の絵画史的意義を明確にし、絵仏師の志向、動向、系譜などから技法に至るまで広く検討した研究篇と、9世紀から14世紀に至るまで絵仏師に関する事例700件を編年的に確定した史料篇からなる大著。

[1994年2月]

徳川家康の服飾

定価 7,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0793-3

福島雅子 著

A5判上製カバー装 本文320頁 口絵28頁 挿図164点

天下人が好んだ服装とは…？ 徳川家康が遺した100点以上の服飾コレクションから、辻が花染・小紋染遺品、「葵紋」の定式化を検討し、中世末から近世初頭の服飾史上の一大転換期に現れた「家康好み」ともいえる新たな武家服飾形式を明らかにする。

[2018年2月]

アジャンター後期壁画の研究

定価 31,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0724-7

福山泰子 著

B5判上製函入 本文632頁 口絵8頁 挿図475点

これまでのアジャンター石窟研究史において、壁画を石窟の造営過程の中で考察したものは数少ない。本書は数々の先行研究を踏まえた上で、5世紀以降に描かれた窟内壁画を石窟荘嚴の一要素として捉え、制作者や寄進者の視点をも取り込み、その究明に取り組んだ独創的な意欲作である。 [2014年2月]

東アジア仏像史論

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0893-0

藤岡 穰 著

A5判上製函入 本文778頁 口絵16頁

日本（飛鳥～鎌倉時代）、中国（南北朝～宋時代）、朝鮮（三国～統一新羅時代）の東アジア各地域・時代の彫塑造の様式展開をたどり、さらには科学的調査の結果に基づいた長年にわたる研究の成果から精選・集成された論考により、東アジア仏像史研究に新たな地平を開く。

[2021年7月]

校刊美術史料〔全3巻〕

セット定価 66,000円 (税込)

セットコード ISBN978-4-8055-0030-9

藤田経世 編

南都七大寺はじめ諸寺院の美術に関する重要な史料の内、未公開の史料、原本との校合が不十分な文献、入手困難な刊本など、根本史料を再校合の上、異体字を作成し集大成した。美術史・仏教学・国史学・建築史学に多大な恩恵をもたらした。各項目ごとに解題、参考文献、下巻には総索引を付す。

寺院篇〔上巻〕 七大寺日記、七大寺巡礼私記 他

B5判上製函入 本文384頁 1999年5月再刊

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0031-6

寺院篇〔中巻〕 法隆寺本古今目録抄、薬師寺史料集 他

B5判上製函入 本文518頁 1999年5月再刊

定価 26,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0032-3

寺院篇〔下巻〕 内山永久寺資料 他、総索引付

B5判上製函入 本文380頁 1999年5月再刊

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0033-0

校刊美術史料 七大寺日記 七大寺巡礼私記

定価 2,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0034-7

藤田^{つねよ}経世 編

B5判 本文50頁

『七大寺日記』は大江親通が嘉承元年（1106）に、大和の七大寺を巡礼した時の手記と推定され、『七大寺巡礼私記』は保延6年（1140）に、同じ寺々を再び巡ってから、諸種の文献を引用して作った書である。この平安後期の南都の諸寺の建築や仏像などの実状を伝える2篇を演習用に製本した抜刷。

【日本学士院賞・國華賞・メトロポリタン美術館島田賞受賞】

[1972年3月]

国宝 高松塚古墳壁画

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0470-3

文化庁 監修

B4判上製カバー装 本文30頁 口絵100頁

高松塚古墳壁画発見の衝撃から30年、最新高精細デジタル撮影によるオールカラー印刷により、今再び男女群像、四神たちがよみがえる。壁画の黒カビ、退色など文化財保護の問題や顔料・染料の問題など多くの論議をよんだ話題の書。色鮮やかな古代の遺産を子孫に護り伝えるための決定版写真集。

[2004年6月]

日本の美術と世界の美術

定価 4,620円 (税込)

ISBN978-4-8055-0528-1

前川誠郎 著

A5判上製カバー装 本文258頁 口絵8頁

永く西洋美術史研究を領導し、その普及に努めてきた著者は美術のみにとどまらず、文学への造詣は古今東西にわたって通じており、わが国各時代の美術作品や美術家を俎上にのせ、関連する西洋や中国の美術、歴史、文学、音楽と付け合わせて醍醐味を引き出ししてくれる多くの発見と卓見の好著。

[2006年8月]

院政期仏画と唐宋絵画

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0752-0

増記^{ますき}隆介 著

A5判上製函入 本文576頁 口絵16頁 挿図201点

日本の仏教絵画の中でも特に院政期を対象とし、唐代美術に深く依拠し成立した奈良や平安初期の絵画様式からの和様化が、この時期にどのように進展したかを唐代以降の東アジアにおける絵画史の展開を鑑みつつ考察することで、従来とは異なる様式形成の様相を描き出すことを目的とした気鋭の論集。

[2015年12月]

八部衆像の成立と展開

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0791-9

水野さや 著

A5判上製函入 本文444頁 口絵16頁

奈良・興福寺の脱活乾漆造八部衆像で名高い「八部衆像」。その図像と群像形式は、いかにして形成されたのか。八部衆像の源流を六世紀の中国に求め、その後の東アジア—中国、韓国、そして日本—での展開を、丹念な現地調査で得た現存作例から明らかにする、「八部衆像」論の決定版。

[2017年12月]

中国絵画の内と外

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0878-7

宮崎法子 著

A5判上製函入 本文752頁 口絵8頁

中国絵画史研究の第一人者である著者の集大成というべき論文集。第1部では中国絵画とそれを取りまく世界との関係を、主題と社会の相関、ジェンダー、日本との比較、近代における研究史やコレクション形成など多彩な観点から読み解き、第2部は、宋代から清代までの、道釈図や山水画など多岐にわたる作例について、絵画表現という豊かな情報を、関連文献資料を援用しながら検討する。[2020年3月]

インド仏教美術史論

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0619-6

宮治 昭 著

B5判上製函入 本文638頁 挿図330点

30年に及ぶ実地調査に基づき、先行研究の蓄積を批判的に取り入れ、新たな視点のもとに達成された研究成果。インドの仏教美術史を、特に図像の成立、発展、変貌という視点でとらえ、土着的・外来的な異宗教・異文化との融合によって生成する様相を明らかにした世界的成果の公開。

[2010年3月]

柳澤孝^{たか}仏教絵画史論集

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0524-3

柳澤 孝 著

B5判上製函入 本文664頁 口絵24頁 挿図489点

東京文化財研究所の美術部長であった故柳澤孝女史は、永年にわたって日本仏教絵画史研究に携わり、網羅的かつ綿密な作品調査を行い、それらの成果をもとに多くの著書・論文を著している。斯界の仏画研究そのものの水準を飛躍的に引き上げたこれまでの研究成果を一冊にまとめた。

[2006年5月]

中近世染織品の基礎的研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0733-9

山川 ^{あき} 暁 著

A5判上製函入 本文304頁 挿図170点

染織史研究における基準作比定の要件と、基準作を編年基準として応用するための分析手法を詳述。国内では研究が進んでいない織物構造分析の手法と、文書資料を駆使し、中近世の伝法衣や芸能装束など作品研究を展開。学芸員として染織史固有の分析方法を探索し観察を重ねてきた著者による、基礎研究の集大成。

[2015年2月]

海のシルクロードの染織史

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0775-9

吉田雅子 著

A5判上製函入 本文516頁 口絵16頁 挿図356点

大航海時代、海のシルクロードを通じて日本に舶載された染織品を手がかりに、それらの制作地、制作年代、制作目的、交易経路から文化交渉の営みを描き出す。調査作品には慶長遣欧使節請来品、豊臣秀吉伝来品など重要文化財を含む。染織技法、様式、史料を分析し染織品がたどった東西交渉史の実像に迫る未踏の労作。【意匠学会賞受賞】

[2017年2月]

京狩野の研究

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0639-4

脇坂 淳^{あつし} 著

B5判上製函入 本文410頁 口絵8頁 挿図156点

室町時代から幕末まで画壇に君臨した狩野派のうち、京都に留まり、公家や寺院の御用絵師として京都を中心に活躍した一派を京狩野と呼んでいる。個々の研究範囲に留まり、体系的な研究が待たれていた、近世京都画壇250年の流れの中で京狩野の画態と営為を明確にした研究の公刊。

[2010年12月]

仏伝図論考

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0679-0

渡邊里志 著

A5判上製函入 本文564頁 口絵32頁 挿図218点

仏伝図は釈迦の生涯と事蹟を描いた美術作品であり、インドから日本までアジア全体に存在する。平安時代から室町時代に日本で描かれた仏伝図を、多くの先行研究を踏まえて批判・評価し、文献記録と現存する作品から新資料も含めて網羅的に明示し、全体像と特色、仏教美術史上の意義を明らかにする意欲作。

[2012年3月]

近代日本美術史

松岡壽先生

青木 茂 解題

B5判上製函入 本文262頁 口絵136頁

松岡壽 (1862～1944) は日本近代洋画の確立に尽力した画家であり、多くの後進を育てた教育者でもある。師の齢80を祝って、教え子である東京高等工業学校工業図案科の卒業生によって昭和16年に作られた本書は、明治洋画草創期の証言として今日重要な基礎史料である。ほとんど入手不可能の稀観本の復刻。

[1995年7月]

定価 16,019円 (税込)

ISBN978-4-8055-0299-0

松岡壽研究

青木 茂・歌田真介 編

A5判上製函入 本文486頁 口絵16頁 挿図54点

松岡壽は、明治初期洋画家及び浅井忠・小山正太郎と共に明治美術会の創設に参加した主要メンバーとして近代日本美術史上に位置付けられてきた。本書は、松岡所蔵の美術資料や著作物、イタリア留学時代の含む日記類、気鋭の研究者による論文から松岡の足跡を検証する。

[2002年7月]

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0415-4

鷺湖及鼎湖

がこおよびていこ

幕末・明治画家日記

石井柏亭 編 青木 茂・石井 洋 解題

菊判上製函入 本文216頁 口絵24頁

鈴木鷺湖 (1816～70) は谷文晁に師事した日本画家であり、その子石井鼎湖 (1848～97) は明治美術会の創立に参加した画家である。本書は、鷺湖の50回忌及び鼎湖の23回忌にあたる大正8年 (1919) に、それを記念して孫の柏亭が200部の私家版として友人知己に配った稀観本の復刻である。

[2005年9月]

定価 5,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0513-7

近代彫刻の先駆者 長沼守敬

—史料と研究

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0959-3

石井元章 編

A5判上製函入 本文776頁 口絵8頁 挿図346点

本書は明治期の彫刻家、長沼守敬 (ながぬまもりよし、1857～1942) の生涯と作品をまとめた、本邦初の史料集兼、研究書である。長沼は岩倉具視や木戸孝允、渋沢栄一など明治期に活躍した人々の肖像を制作し、イタリア彫刻の最先端の技術を日本にもたらした、日本彫刻界初期の実力ある先駆者である。長沼の生涯を詳述する伝記編、54件に及ぶ長沼の作品を解説する作品編、最新の研究成果をまとめた論考編、それらに付随する膨大な史料を通して、長沼守敬の真価を問う。

[2022年2月]

美術研究作品資料 第3冊 青木繁 《海の幸》

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0501-4

石橋美術館・東京文化財研究所 編

B4判上製カバー装 本文77頁 口絵31頁 折込図8点 挿図66点

近代日本美術史を代表する青木繁の名作、重要文化財《海の幸》が描かれて100年。石橋美術館と東京文化財研究所の共同研究により撮影技術とコンピュータ技術の粋を集めて、現在可能な限りの印刷技術をもって再現する美術資料集。原寸で全図を16分割して収録、1/2大の全図を折込で掲載。[2005年4月]

岡倉天心アルバム [増補改訂]

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0706-3

茨城大学^{いづら}五浦美術文化研究所 監修 中村^{すなお} 愿 編

A5判カバー装 本文256頁 挿図600点

天心の生涯と環境・時代状況を、未公開写真を含めた当時の遺品・写真600余点で具体的に例示すると共に、簡潔なコメントによって天心の生涯を浮き彫りにする。天心の多方面にわたる活躍を具体的に例示した「岡倉天心百科事典」に、東日本大震災で流出した天心設計の『五浦六角堂』再建の過程を新たに収録。 [2013年10月]

日本近代洋画の成立 白馬会

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0496-3

植野健造 著

B5判上製函入 本文364頁 挿図241点 CR-ROM付

明治29年に結成された洋風美術団体「白馬会」は、明治43年までに13回の展覧会を開催し、翌年解散した。西洋の新しい芸術思潮と技術を基盤とした白馬会が、当時の日本美術界や社会に与えた影響は大きく、当時の資料を駆使してその活動の全貌を跡付ける。付録としてCD-ROMを付す。

【倫雅美術奨励賞】

[2005年6月]

創作版画誌の系譜 総目次及び作品図版1905-1944年

定価 55,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0569-4

加治幸子 著

B5判上製函入 本文1116頁 口絵4頁

平旦/方寸/虹/白刀/こころみ/月映など明治から大正・昭和前期に刊行された創作版画誌(版画同人誌、連刊版画集、団体の機関紙、画廊の情報誌等)を創刊順に「刊行目録」として編纂し、851冊すべての目次と貼付された版画すべてを収録する。図版枚数は7300枚にのぼり、作家は1200人以上となる。【野上絃子記念アート・ドキュメンテーション学会賞受賞】 [2008年1月]

近代日本美術教育の研究 明治時代

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0246-4

金子一夫 著

B5判上製函入 本文818頁 挿図300点

本書は膨大な資料を駆使して、明治期美術教育の展開と各時期の特性、さらに個別的な諸問題を実証的に明らかにした論集である。一方、近代日本美術史と美術教育史に新たな視点を呈示した明治美術資料集成であり、明治期の美術関係者2500人余を収録した「美術家人名事典」でもある。

[1992年2月]

工部美術学校の研究 イタリア王国の美術外交と日本 定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0637-0

河上真理 著

B5判上製函入 本文640頁 挿図81点

イタリア人を教師として設立された日本初の官立西洋美術教育機関である工部美術学校について、その創設から閉校までの経緯を、日本だけでなくイタリアに残る膨大な公文書を読み解くことによって日伊双方より解明し、文化史、美術史、美術教育史的観点から考察する。

[2011年3月]

方眼美術論 定価 5,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0072-9

久米桂一郎 著 三輪英夫 編

A5判上製函入 本文334頁 口絵16頁

黒田清輝とともにフランス外光派の技法を移入して明治洋画壇に一転機を画し、東京美術学校西洋画科の創設に参画、また方眼の筆名で健筆を揮い、理論的指導者として日本近代洋画の礎を築いた久米桂一郎が、半生に著した文章のうち主要な40余篇を収録した日本洋画史上必須の文献である。

[1984年6月]

明治前期油画基礎資料集成 東京芸術大学収蔵作品 定価 40,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0210-5

坂本一道・佐藤一郎・歌田真介他 編

A4判上製函入 2分冊 (研究篇210頁 図版篇264頁)

東京芸術大学には、明治初期の旧派(脂派)に属する高橋由一、百武兼行、山本芳翠、五姓田義松、浅井忠、小山正太郎等、14作家71点の油画作品が収蔵されている。これらの全作品を自然科学的調査を駆使して、各作家毎の絵画材料・絵画技術の基本資料を呈示、絵画作品の特質と変遷を明確にする。

[1991年2月]

明治後期油画基礎資料集成 東京芸術大学収蔵作品 定価 45,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0457-4

佐藤一郎 編

A4判上製函入 2分冊 (研究篇276頁 図版篇320頁)

わが国の近代洋画の基礎を築いた黒田清輝等白馬会、太平洋画会の画家たちの油画作品76点を、科学技術の調査方法(側光線・紫外線蛍光・赤外線・X線・顕微鏡等)を駆使して各作品の材料・技法・保存・修復に関する詳細な情報とその研究成果を呈示する。

[2004年9月]

美術史における日本と西洋 国際美術史学会 東京会議1991 定価 10,680円 (税込)

ISBN978-4-8055-0303-4

CIHA日本国内委員会 編

B5判上製函入 本文594頁

近年の美術史研究の発達は、広範な地域と時代を対象とするようになり、文学や歴史学の研究法や政治社会学の分析法などさまざまな研究法も用いるようになった。日本美術と西洋美術の相互の連関性を解明するために招聘された、内外の研究者22名による国際シンポジウムの公式報告書。英文併記。

[1995年9月]

梅原龍三郎とルノワール

定価 2,090円 (税込)

ISBN978-4-8055-0647-9

嶋田華子 著

B6判上製カバー装 本文202頁 口絵16頁 挿図39点

近代日本の画壇を牽引した洋画家、梅原龍三郎が著した『ルノワールの追憶』の復刻をベースとし、日仏の巨匠の交友と友情が、多くの図版や日記・書簡類を加え装いを新たに鮮明に蘇る。梅原を曾祖父に持つ編者の解題は、梅原とルノワールの「出会い」の真相を明らかにする。

[2010年10月]

月岡芳年伝 幕末明治のはざまに

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0854-1

菅原真弓 著

A5判上半製カバー装 本文432頁 口絵24頁

滅びゆく浮世絵の歴史の掉尾に位置し、今なお鮮烈な印象を与え続ける月岡芳年。三十歳で明治維新に立ち会った絵師は、激動の時代を直視し、変転する「浮世」をリアルに描ききった。報道、伝記・回顧録などの資料を博搜し、作品主題と構図に緻密な分析を加えることで、血肉を備えた一人の浮世絵師の人物像を浮かび上がらせる。【芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞】

[2018年10月]

題材による美術教育 「題材論的方法」の体系的研究

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0433-8

立原慶一 著

B5判上製函入 本文308頁 挿図190点

題材（制作の動機づけとして児童・生徒に与えられる授業課題）を切り口として、その「題材」を「造形表現」にもたらすことの画面に実現された内容を意識的・批判的に観取する体験によって生徒の人間形成が意識的・無意識的に行われていくための実践的方法論の確立をめざした画期的教育論考。

[2003年1月]

ごせだ 五姓田義松史料集

定価 18,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0744-5

つのだ
角田拓朗 編

A5判上製函入 本文584頁 口絵16頁

70件以上の史料から、洋画家五姓田義松の実像を探る史料集兼研究書であり、各史料の翻刻と内容分析で構成され、義松の人物像や制作背景などを解明。収録された修行記録や日記などの史料は、一人の日本人画家の克明な原資料であり、明治洋画史観の再考を促す意義をもち、文化史的基礎情報を提供する。

[2015年9月]

明治期美術展覧会出品目録

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0288-4

東京国立文化財研究所 編

B5判上製函入 本文540頁

明治期の日本画壇を代表する五美術団体（鑑画会／明治美術会／白馬会／日本青年絵画協会／日本絵画協会）の展覧会出品データ13,500件をまとめた資料集。団体ごとに展覧会別・作家別に収録し、明治期の美術家・美術作品の総覧として、美術品、美術情報処理に携わる人々に必備の書。

[1994年6月]

明治期府県博覧会出品目録 明治4年～9年

定価 34,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0456-7

東京文化財研究所 編
B5判上製函入 本文842頁

明治期の博覧会は明治4年に始まり明治半ばまで10数年間に全国で80回以上開催された。近代へ移行する美術史の研究のみならず、社会、経済史的観点からもその出品目録は重要な資料となる。本書は明治9年までに開催された42件の府県博覧会の出品データを収録。出品者索引を付す。

[2004年5月]

昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0523-6

東京文化財研究所 編
B5判上製函入 本文1090頁

明治期・大正期の美術展覧会や内国・万国・府県博覧会などの美術品出品データを丹念に収録してきた「美術品出品目録」シリーズの第6弾の刊行。本書が対象とした時代区分としての「昭和期〔戦前篇〕」という呼称は、昭和元年より昭和20年の終戦までと限定した。

[2006年5月]

大正期美術展覧会の研究

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0491-8

東京文化財研究所 編
B5判上製函入 本文760頁 挿図300点

フランス・韓国・台湾の研究者も含め、気鋭の近代美術史研究者40余名の論考により、明治44年に開設された文部省美術展覧会から昭和5年までの各種美術展覧会や美術活動の展開・特質等、大正期美術の諸相を多方面から論述する。

[2005年5月]

黒田清輝著述集

定価 17,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0550-2

東京文化財研究所 編
A5判上製函入 本文682頁 挿図36点

東京美術学校西洋画科の創設に際して指導者として参画し、日本近代洋画の確立者に位置づけられる黒田清輝。彼の遺した日記『黒田清輝日記〈全4巻〉』(小社刊)、及び文集『絵画の将来』(小社刊)の刊行に続き、当時の諸新聞、雑誌等に掲載された文献を収集し収録した著述集。

[2007年9月]

黒田清輝フランス語資料集

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0625-7

東京文化財研究所 編
A5判上製函入 本文636頁 口絵16頁 挿図10点

日本近代洋画の父、黒田清輝のパリ滞在初期(22歳)の日常生活をうかがわせ、清輝の肉声そのものを感じさせる、邦語資料とは大いにニュアンスの異なる記事を含む新出の資料集。既刊資料を補完する、重要な日記・書簡の翻訳を待望の原文併載スタイルで収録。

[2010年3月]

美術研究作品資料 第5冊 黒田清輝 《湖畔》

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0571-7

東京文化財研究所 編

A4判上製カバー装 本文98頁 口絵27頁 挿図59点

日本近代洋画壇の指導者、黒田清輝の代表作の一点《湖畔》。この名作が誕生から今日までどのように見られ、語られてきたかを、画家とモデル、創作のプロセス、作品の移動、公開保存、評価の変遷など、これまでの調査と収集してきた資料を駆使して、光学的画像解析とともに多角的に検討する。

[2008年3月]

美術研究作品資料 第6冊 横山大観 《山路》

定価 7,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0699-8

東京文化財研究所 編

A4判上製カバー装 本文96頁 (オールカラー)

近代日本絵画の巨匠、横山大観が43歳のときに描き、第5回文部省美術展覧会に出品され、大胆な筆致で“新南画”の先駆けとなった《山路》。所蔵する永青文庫と東京文化財研究所の共同研究により、近赤外線反射撮影および蛍光X線分析での定性分析、高精細画像撮影による光学的解析で多角的に本作品を検証する。

[2013年3月]

木村荘八日記 [明治篇] 校註と研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0427-7

東京文化財研究所・小杉放菴記念日光美術館 編

A5判上製函入 本文480頁 口絵24頁

木村荘八は岸田劉生らとヒュウザン会、生活社、パンの会、草土社と活動を共にし、大正、昭和期の画壇に大きな足跡を遺した。

彼の遺した詳細な日記のうち、多感な青年期の日記(明治44年から大正2年)を、詳細な註を付し、研究論文8編によって多角的に論じた資料研究を公刊する。

[2003年2月]

東京文化財研究所七十五年史 [全2巻] セット定価 80,300円 (税込)

東京文化財研究所 編

本書は、前身の帝国美術院付属美術研究所が昭和5年に設立されてから平成17年で75周年を迎えたのを機に、これまで行ってきた事業の記録と収集された資料の目録を掲載し、有形、無形の文化財に関する調査・研究・保存および関連分野への資料提供を図ろうとするものである。

本文編

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0611-0

B5判上製函入 本文560頁 挿図153点

[2010年3月]

資料編

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0573-1

B5判上製函入 本文912頁

[2008年4月]

しゃじつ

寫實の要件 [新装普及版]

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0082-8

前田寛治 著 今泉篤男・富山秀男 編

A5判上製カバー装 本文218頁 口絵16頁

理論と、それを実践した作品により、混迷する洋画壇に確固とした主義をうちたてた前田寛治は、岸田劉生と並び称される写実主義の第一人者として美術史に欠かせない存在である。この全文集によって彼の情熱と思想が明快に表出し、力強い人間像が浮かびあがる。

[1999年6月]

児島虎次郎研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0490-1

松岡智子 著

A5判上製函入 本文508頁 口絵48頁 挿図81点

わが国で最初の西洋美術館、大原美術館のコレクションの基礎的収集を行った児島虎次郎について、彼の日記や彼宛のフランスやベルギーの画家たちの未公開書簡などの新史料に基づき画家、美術品収集家、文化交流者としての3つの側面から新たに捉え直した。

[2004年11月]

藤岡作太郎「李花亭日記」〈美術篇〉

定価 19,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0855-8

村角紀子 編

A5判上製函入 本文720頁 口絵16頁

明治期の国文学者藤岡作太郎(1870～1910)の著した「李花亭日記」(石川近代文学館蔵)から、美術との関連の深い明治32～36年の日記と紀行文を選出して翻刻する。

作品鑑賞記や寺社拝観記、美術研究者や文学者らとの交流が綴られるなど、名著『近世絵画史』(明治36年刊)執筆の背景のみならず、明治期美術界の状況を知るうえで貴重な史料の公刊。 [2019年3月]

日本近代美術と西洋 国際シンポジウム1988

定価 10,680円 (税込)

ISBN978-4-8055-0248-8

明治美術学会 編

B5判上製函入 本文334頁 口絵26頁

日本の近代美術は、西欧の影響と旧来の伝統という二つの文化、二つの感受性の出会いと葛藤の産物である。1988年の国際シンポジウムは、国内外の研究者44名が会して絵画・彫刻・建築・文学等多方面から日本の近代を論じ合う画期的な試みであった。16名の研究発表を集録。

[1992年4月]

お雇い外国人キョッソーネ研究

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0373-7

明治美術学会・(財)印刷局朝陽会 編

A5判上製函入 本文422頁 口絵28頁 挿図73点

大蔵省印刷局のお雇い外国人キョッソーネは、紙幣・切手・公債等の原版を彫刻し、本格的な銅版技術を伝え、幾多の弟子を育成、本邦における近代印刷の基礎を築いた。さらには明治天皇や数多くの元勳の肖像画を制作し、原イメージを歴史上に定着させた。最新の研究と資料による基礎文献。

[1999年6月]

新訂増補 **岡倉天心と五浦**

定価 **3,080円** (税込)

ISBN978-4-8055-0891-6

森田義之・小泉晋弥 編

A5判カバー装 本文326頁 □絵8頁

近代日本を代表する思想家・岡倉天心が晩年に居を定めた茨城県五浦での事績を中心に、天心が近代日本に及ぼした影響を多面的に論じた論文集。1998年刊行の旧版を全面的に改訂し、東日本大震災による六角堂の被災と再建を経て、新しい知見を盛り込んだ5編の論考を追加しての刊行。

[2021年3月]

にながわのりたね
蜷川式胤「奈良の筋道」

定価 **14,300円** (税込)

ISBN978-4-8055-0492-5

米崎清実 編著

A5判変形上製函入 本文480頁 □絵1丁 挿図110点

「奈良の筋道」を筆録した蜷川式胤は好古家として著名であるが政府の実務官僚でもあった。彼の事蹟を明らかにすることは明治国家の形成過程や政府の文化行政を検証していくことと同様の意味をもつ。歴史学、美術史、文化財学など幅広い研究分野から待望されていた文化財調査の記録。

[2005年2月]

蜷川式胤「八重の残花」

定価 **13,200円** (税込)

ISBN978-4-8055-0853-4

米田雄介 編

A5判変形上製函入 本文268頁 □絵64頁

正倉院宝物殿の本格的調査研究の資料である、明治政府に出仕していた好古家蜷川式胤の日記「八重の残花」を翻刻、現存する正倉院所蔵の宝物とあわせて詳述する、正倉院宝物のみならず日本の文化財研究に広く貢献する一書。

[2018年4月]

西洋美術史

デューラーの遍歴時代 初期素描の研究

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0616-5

青山愛香 著

B5判上製函入 本文334頁 挿図118点

本書は謎の多いデューラーの遍歴時代に焦点をあて、第一次イタリア旅行に赴く直前の4年間で、若き画家の様式確立上大きな意味を持つこと、また従来の説を覆して、その時代の作品をデューラーのものと同定し、それらを豊富な図版と具体的な作品研究から明らかにした独創的な見解の公刊である。

【辻莊一・三浦アンナ記念学術受賞賞】

[2009年12月]

デューラーと名声 芸術家のイメージ形成

定価 25,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0397-3

秋山 聰^{あきら} 著

B5判上製函入 本文372頁 図18頁 挿図213点

生前より名声を保ち続けた画家デューラーが、いかに名声を意識し希求したかを分析する。作品中に仕掛けられた技量の誇示などを指摘、美術の展開に果たした名声のメカニズムの役割を明らかにする。巻末に15、16世紀ヨーロッパにおける「描かれた蠅」の作例を網羅した作品カタログを掲載する。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2001年2月]

アルベルティ 「芸術論」 [新装普及版]

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0638-7

L・B・アルベルティ 著 森 雅彦 編著

A5判上製カバー装 本文342頁 挿図60点

イタリア・ルネサンス期における万能人といわれる天才、レオン・バッティスタ・アルベルティの三大芸術論のうち「彫刻論」に加え、「都市ローマ記」「画家における点と線」「絵画の初程」などの小論も収録。原典の翻訳に加え、研究・解題篇としてアルベルティ学の論究をはかる労作。

[2011年5月]

アルベルティ 「絵画論」 [改訂新版]

定価 2,750円 (税込)

ISBN978-4-8055-0675-2

L・B・アルベルティ 著 三輪福松 訳

A5判カバー装 本文132頁 図8頁 挿図13点

ルネサンスの絵画に指導的な役割を果たしたレオン・バッティスタ・アルベルティの『絵画論』の全訳に、訳者永年の研究成果である注釈と解説を収める。ルネサンス芸術の原理「空間の認識」の方法を具体的に表した本書は、ルネサンスによって本流の定まった西洋芸術の特質を正しく理解する上で不可欠の書。

[2011年10月]

美術家列伝 [全6巻]

ジョルジョ・ヴァザーリ 著

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正 監修

西洋美術史における不朽の歴史的名著、待望の全訳刊行。美術史研究の第一線で活躍する研究者による新訳に加え、各伝記ごとに解説と詳細な註、可能な限り多数の写真図版を掲載した邦訳決定版。

【第一巻】 (第1回配本)

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-1601-0

森田義之・越川倫明・野村幸弘・谷古宇尚・高梨光正・吉澤早苗 訳

A4判上製函入 本文448頁 挿図200点

献辞・総序に始まり、三つの芸術（建築、彫刻、絵画）の技法論と、ルネサンスの幕開けをなす、チマブーエ、ジョットにはじまる14世紀の美術家の30編の伝記を収録。 [2014年3月]

【第二巻】 (第5回配本)

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-1602-7

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・瀬分緑・芳野明・小林もり子・京谷啓徳・飛ヶ谷潤一郎・高橋健一・盛本直美・森田優子・荒本文果 訳

A4判上製函入 本文760頁 挿図450点

ブルネッレスキ、ドナテッロ、マザッチョ、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、アルベルティ、ポッティチェリなど15世紀に西洋美術に革新をもたらした美術家の伝記54編を収録。 [2020年3月]

【第三巻】 (第2回配本)

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-1603-4

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・足立薫・石澤靖典・

飛ヶ谷潤一郎・高橋健一・深田麻里亜・坂本篤史・友岡真秀 訳

A4判上製函入 本文566頁 挿図350点

ルネサンスの最盛期を彩る16世紀の美術家たちの生涯を著した第三部のうち、その序論からレオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエッロからパルミジャーノにいたる36編を収録。 [2015年3月]

【第四巻】 (第3回配本)

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-1604-1

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・瀬分緑・飛ヶ谷潤一郎・

宇桙直子・深田麻里亜・坂本篤史・友岡真秀 訳

A4判上製函入 本文448頁 挿図320点

ヴァザーリと同時代に活躍した16世紀の画家、パルマ・イル・ヴェッキオからバッチョ・バンディネッリまで、多彩なジャンルと地域にまたがる美術家たち16編の伝記を収録。 [2016年2月]

【第五巻】 (第4回配本)

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-1605-8

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・小林もり子・飛ヶ谷潤一郎・

高橋健一・宇桙直子・深田麻里亜・坂本篤史・友岡真秀・山本樹 訳

A4判上製函入 本文448頁 挿図320点

少年時代からの友人であったサルヴィアーティをはじめ、ガローファロ、ダニエーレ・ダ・ヴォルテッラ、タッデオ・ズッカリなど16世紀の美術家の伝記17編を収録。 [2017年2月]

【第六巻】 (第6回配本 / 2022年度刊行予定)

予価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-1606-5

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・小林もり子・深谷訓子・

古川萌・友岡真秀・山本樹・竹本芽依 訳

A4判上製函入 本文560頁 挿図320点 (予定)

『美術家列伝』掉尾を飾る、ミケランジェロ、ティツィアーノそしてヴァザーリ自身の自伝など伝記10編を収録。

ベネデット・ヴァルキ **パラゴネ** 諸学芸の位階論争

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0962-3

オスカー・ベツチュマン／トリスタン・ヴェディゲン 編 清瀬みさを・小松原郁 訳

A5判上製カバー装 本文364頁

ルネサンス期、イタリア美術界で絵画を中心に美術と学問、絵画と彫刻、美術と文学との優劣比較をめぐる熾烈を極めた論争、「パラゴネ」（諸学芸位階論争）。それは、空虚な観念論ではなく、美術家たちがしのぎを削った革新的な創作活動を通じて、美術各分野の存在根拠を問う、実存的な探究であった。美術家の社会的地位向上と「美術」という概念の形成を導いた西洋美術史の結節点となるパラゴネ論争調停の要、ベネデット・ヴァルキ（1503～1565）の論著、初の完訳。 [2021年12月]

ルネサンス期トスカーナのステンドグラス

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0784-1

伊藤拓真 著

A4判上製函入 本文300頁 図説54頁

ルネサンス期トスカーナで独自の制作者層が出現したことにより、イタリアのステンドグラス芸術は北方諸国と異なる展開を見せた。現存作品や文書資料を複数の文脈で分析し、ステンドグラス芸術に関わる諸問題を個別に取り上げ、ルネサンス期トスカーナにおけるステンドグラスの展開を編年的に把握し考察。【地中海学会ヘレンド賞受賞】 [2017年2月]

ジョルジョーネ解説

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-0582-3

エドガー・ウィント 著 森田義之・甲斐教行 訳

A5判上製カバー装 本文180頁 図説4頁 挿図54点

16世紀初頭にヴェネツィアで活躍した画家ジョルジョーネの残した《テンペスタ》、《三人の哲学者》、《刺客》、フォンダコ・デイ・テデスキの壁画の4作品を、図像解釈学の泰斗であるエドガー・ウィント（1900～71）が読み解いたモノグラフ。刊行後の反響、研究などを解題で補足する。 [2009年1月]

アルブレヒト・デューラーの芸術

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0566-3

ハインリッヒ・ヴェルフリン 著 永井繁樹・青山愛香 訳

B5判上製函入 本文384頁 図説1丁 挿図155点

アルブレヒト・デューラーについて、20世紀初頭に一世を風靡したスイスの美術史家であるヴェルフリン（1864～1945）が、生涯において個人の画家のみを対象に論述した唯一の専攻研究である。偉大な2人の芸術家・芸術史家の500年スパンの対話が、時代を超えて届いた傑作である。 [2008年2月]

芸術価値論 美的価値体験

定価 34,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0672-1

ルドルフ・オーデブレヒト 著 太田喬夫 訳

B5判上製函入 本文430頁 挿図24点

1927年に刊行されたルドルフ・オーデブレヒト（1883～1945）の名著であり、その眼目は芸術創造の内的法則性を追求し、美的意識の批判的な基礎づけを企図したもの。芸術の創造性と価値を美学における現象学的芸術学の根本問題として追求し、美学史上、独自の芸術体験論を確立させた重要文献の本邦初訳。 [2011年11月]

カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0705-6

尾崎彰宏・幸福 輝・廣川暁生・深谷訓子 編・訳

B5判上製函入 本文880頁 挿図245点

本書はファン・マンデル著『絵画の書』第4巻「北方画家列伝」の翻訳・訳注・解説論文からなる。総勢94名もの画家たちについて語った、15～17世紀にいたる西洋美術を理解するための基本的文献であり、ネーデルラントの画家たちの生涯と作品について語られた貴重な歴史資料であると同時に「作品」でもある。

[2014年2月]

知性の眼 イタリア美術史七講

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-0543-4

小佐野重利 著

A5判上製カバー装 本文194頁 挿図104点

デジタル画像や動画ばかりを見るのに慣れてしまったわれわれには、美術を見るための「知性の眼」を保ち続けるのは至難のことである。日本におけるルネサンス美術史研究を代表する筆者による、「視覚の時代」15世紀イタリア美術を軸に、西洋美術を堪能するための魅惑の「扉」となる7つの思索。

[2007年4月]

新古典主義

定価 4,950円 (税込)

ISBN978-4-8055-0314-0

ヒュー・オナー 著 白井秀和 訳

A5判上製カバー装 本文312頁 挿図109点

古代への憧憬や大革命のヴィジョンなど、18世紀後期から19世紀初頭に勃興した西欧新古典主義の美学や様式を、多数の図を使って判りやすく語った本書は、ダヴィッド、カノーヴァなど絵画、彫刻、工芸、建築の多様な分野に言及し、この美術思潮の本質を説く名著である。

[1996年9月]

西洋美術史論考 北方ヨーロッパの美術

定価 26,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0520-5

勝 國興 著

B5判上製函入 本文456頁 図16頁 挿図195点

北方世界に甚大な影響を与えた画家デューラーを核にして、フランスからドイツへの美術の伝播の問題やイタリア・ルネサンスの人文主義との関係、ドイツ民族のアイデンティティの追究や表現といった北方美術の特質を中世から現代まで視野に取って論ずる著者畢生の論集。

[2006年2月]

美術史学の系譜

定価 13,750円 (税込)

ISBN978-4-8055-0798-8

加藤哲弘 著

A5判上製函入 本文484頁 図2頁

美学・比較美術論の第一人者である著者が、ドイツ語圏で展開された「新しい美術史学」の成立の過程を概観し、美術史学が誕生する背景を明らかにして、近代美術史学の「系譜」形成を包括的に多様な視点から論じる。

[2018年1月]

カント美学の根本概念

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0514-4

金田千秋 著

B5判上製函入 本文436頁

近代美学の最重要文献である『判断力批判』において著者カントが中心に据えた《ästhetisch》(アステティシユ)を徹底的に検討し、その誕生と普及、変容の過程を解き明かす。近代を生成した中心の概念の検証に他ならず、未だ乗り越えることのできない大命題について論究する。

[2005年10月]

プラートの美術と聖帯崇拝

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0494-9

金原由紀子 著

B5判上製函入 本文336頁 口絵12頁 挿図148点

イタリアの小都市プラートにあえて目をむけ、プラートが聖母マリアの遺物「聖帯」を都市の象徴として位置づけたプロセスを解明し、プラートの美術作品をその表象として読み解くという独創的な視点で、政治・社会史的コンテクストから図像・プログラム上の諸問題を論じる画期的研究。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2005年1月]

古典主義再考 [全2巻]

木俣元一・松井裕美 編

〈古典〉や〈古典主義〉といった概念の形成・受容が西洋美術史の歴史観の形成と結んでいた関係について考察。個々の作家や作品に即した緻密な事例研究と、広範囲な時代・地域の理論的著述の分析に基づく〈古典主義〉概念の再検討とを美術史、考古学、建築、文学との交差する地平から試みる、世界でも先例のない学術書の公刊。

I 西洋美術史における「古典」の創出

定価 4,950円 (税込)

ISBN978-4-8055-0886-2

A5判上製カバー装 本文480頁

古代ギリシアから20世紀初頭までの西洋美術における「古典」の創出と制度化の問題に焦点をあて、規範的な「古典主義」概念に挑戦し、その多面的で複雑な歴史の様態を浮き彫りにする13篇の論考を収録。

[2020年12月]

II 前衛美術と「古典」

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0887-9

A5判上製カバー装 本文312頁

芸術史と文学史の交差する視座から、20世紀の古典主義における多面性や矛盾、亀裂について考究し、当たり前とされてきた歴史認識について問い直す8篇の論考を収録。

[2020年12月]

ニコラ・プッサンとイエズス会図像の研究

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0537-3

木村三郎 著

B5判上製函入 本文400頁 口絵16頁 挿図179点

17世紀フランスの画家ニコラ・プッサンの描いたイエズス会図像とフランシスコ・ザビエルに関する研究を主題に、フランス近代研究と東西交渉史という観点から図像学、出版史、南蛮学、実証主義研究、「場」の理論の方法など、様々な手法を駆使して新知見を提示した、著者20年にわたる研究成果。

[2007年2月]

フランス近代の図像学

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0850-3

木村三郎 著

B5判上製函入 本文430頁 口絵12頁

フランス近代において常に美術史の中心にあったニコラ・プッサンを中心とした、フランス17世紀の絵画における図像表現のありかたと、18世紀におけるその受容に関する研究集成。神話図像、宗教図像、歴史図像、寓意図像という視点から行った、ニコラ・プッサンの物語表現とその後代への影響を明らかにする。
[2018年1月]

新古典主義美術の系譜

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0884-8

木村三郎 監修

A5判上製カバー装 本文264頁

18世紀中頃から19世紀初頭にかけての西欧の美術・建築作品について使われる批評用語である「新古典主義」。本書は1点の作品に焦点を合わせた作品分析によって、また時代を通観した視点からの、「新古典主義」時代のフランスの美術と建築の展開に迫る8篇の論考を収録。

[2020年11月]

ボルソ・デステとスキファノイア壁画

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0431-4

京谷啓徳 著

B5判上製函入 本文266頁 口絵18頁 挿図258点

フェッラーラ君主ボルソ・デステの注文により制作されたスキファノイア宮殿「12ヶ月の間」装飾壁画においていかに彼が称揚されているか、すなわち壁画における「君主称揚のレトリック」の諸相を明らかにし、美術作品がルネサンス君主のプロパガンダの場としていかに機能しているかを考究する。

【マルコ・ポーロ賞・地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2003年2月]

イメージ制作の場と環境

西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0862-6

近世美術研究会 編

A5判上製函入 本文420頁

日本大学・神戸大学・名古屋大学を中心に開催されてきた研究会に、慶應義塾大学・東京藝術大学を加えた近世美術研究会における5年に亘る研究会の成果として、近世・近代の西洋美術史における図像学による方法論と美術理論の研究を軸として、学術性の高い研究成果を広く世に問うことを目的に、20名の論考を収録する。
[2018年12月]

11世紀イベリア半島の装飾写本

“モサラベ”美術から
ロマネスク美術へ

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0671-4

久米順子 著

B5判上製函入 本文296頁 口絵48頁

10世紀の“モサラベ美術”から12世紀のロマネスク美術へ。イベリア半島独自の様式から汎ヨーロッパ的な美術様式へ。この変化は、なぜ、どのように、11世紀のイベリア半島で起こったのか。政治・社会・宗教的要因を踏まえ、多数の写本の実見調査を通して、装飾写本における様式移行の諸相を考察した労作。【辻莊一・三浦アツナ記念学術奨励賞受賞】
[2012年11月]

ローマ ある都市の肖像312～1308年

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0713-1

リチャード・クラウトハイマー 著 中山典夫 訳

B5判上製函入 本文568頁 挿図260点

ローマ研究の大家、リチャード・クラウトハイマーは、前人未到の中世ローマの建築・壁画・モザイク・彫刻について考察し、該博な知識と繊細な感性とがあいまった深い洞察のもと、中世都市ローマの肖像を生き生きと見事に描ききった。現在も美術史のみならず社会史をもゆるがす、偉大な世界的成果である。 [2013年7月]

ポッシュ「悦楽の園」の聖書における寓意的解釈

定価 44,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0545-8

ピーター・グラム 著

A4判上製函入 2分冊 (研究篇516頁 図版篇252頁)

ヒエロニムス・ポッシュの「悦楽の園」は、多くの研究者によって宗教的かつ教訓的な絵と見なされているにも関わらず、その内容は十分に解明されているとはいえない。本書は、聖書を中心に説教集や教訓書などの宗教書や当時の百科全書にあたり、作品に描かれた寓意を解き明かす。 [全篇英文版]

[2007年6月]

西洋版画の歴史と技法

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-0703-2

アントニー・グリフィス 著

越川倫明・佐藤直樹・小林亜起子・袴田紘代・伊藤彰子・武笠由以子 訳

B5判カバー装 本文190頁 挿図135点

世界最大の版画コレクションのひとつである大英博物館の版画素描部長を務めた著者が、さまざまな技法とその歴史的展開を、多くの図版と明快な文章で語る。西洋版画を知るための必携の入門書。

[2013年9月]

美術史学の歴史

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0289-1

ウード・クルターマン 著 勝 國興・高阪一治 訳

B5判上製函入 本文556頁 挿図149点

プラトンの古代から20世紀の現在に至るまでの美術史学について、その業績の本質・意義等の解題を加えつつ通史的に辿った世界で初の美術史家人名辞典の日本語版。登場する関連美術家 = 美術史家は実に1192人に達し、美術史研究者はもとより図書館等のツールとして必備の辞典である。

[1996年5月]

レオンの「960年聖書」研究

定価 21,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0782-7

毛塚実江子 著

A5判上製函入 本文416頁 口絵16頁

スペインの古都レオンのサン・イシドーロ王立参事会聖堂に所蔵されている960年の年記を持つ聖書(『960年聖書』)は、初期中世キリスト教美術を代表する写本作例である。『960年聖書』のモノグラフ研究であると同時に、新たな視点から挿絵群を分析し、制作者の意図に迫る試みである。

[2017年2月]

17世紀オランダ美術と〈アジア〉

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0859-6

幸福 輝 編

A5判上製カバー装 本文472頁 口絵8頁

フェルメール作品に描かれる中国磁器、レンブラントの版画に用いられた日本の和紙一。本書は2017年、盛会のうちに終了した国立西洋美術館主催のシンポジウムを受けた論集であり、17世紀オランダ美術について絵画のみならず、版画、磁器や漆器、カリグラフィーなど、多彩な分野にまたがってアジア、わけても日本や中国を中心にした東アジアとの関連性を考察する本邦初の試みである。 [2018年12月]

西洋美術論考

古代末期・中世から近代へ

定価 47,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0409-3

越 宏一 著

B5判上製函入 本文746頁 口絵16頁 挿図569点

著者はウィーン学派オットー・ベヒトに師事し、ライヒエナウ壁画の総合的研究で著名である。本書は著者が西洋古代末期・中世から近代までの美術について、その時々発表した論考・エッセイを集めたもので、様々な作品を頭脳と眼で考察し、様式的・図像学的課題を実証的に論証した労作である。 [2002年2月]

ルクス・アルティウム 越宏一先生退任記念論文集

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0623-3

越宏一先生退任記念論文集刊行会 編

B5判上製函入 本文400頁 挿図279点

オットー・ベヒト、オットー・デームスといったウィーン美術史学派の優れた美術史家の薫陶を受け、古代末期からビザンチンを含む広範な西洋中世美術史を学び、国内の西洋美術史研究を領導してきた東京藝術大学教授・越宏一先生の退任に際し、指導を受け、あるいは学風に接した34人の執筆者による、献呈論文集。 [2010年3月]

ロココを織る フランソワ・ブーシェによる ボーヴェ製作所のタピスリー

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0739-1

小林亜起子 著

A5判上製函入 本文464頁 口絵8頁 挿図200点

フランソワ・ブーシェは、ロココ時代を代表する画家であるとともに、一世を風靡した装飾美術のデザイナーでもあった。本書はフランスの社会史や文学史の視点を交えつつ、ブーシェがボーヴェ製作所のためにデザインした6つのタピスリー連作を詳細に考察し、多彩な芸術家の新たな姿を提示する意欲的成果。 [2015年6月]

人文学としてのアルス 西洋における人文 主義的藝術の系譜

定価 25,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0363-8

斎藤 稔 著

B5判上製函入 本文526頁 口絵24頁 挿図104点

テクネーあるいはアルスとしての芸術の根本問題を問う試みとして古代ギリシャ・ローマ、キリスト教の中世、ルネサンスの時代を主たる対象にして造形芸術の成立と展開、その歴史的検証と理論的吟味を進め、西欧の文化・文明に脈々と流れる人文主義について論究する。

[1999年1月]

ディドロ「**絵画論**」の研究

定価 44,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0693-6

佐々木健一 著

B5判函入 3分冊 (上製2冊・並製1冊) 本文976頁

本書は、詳細な全文註解とディドロの美学思想全体の展開や総括などの諸考察および対訳形式の校訂版原典という3分冊からなり、美学史上枢要な著作である『絵画論』を主題とする世界唯一のモノグラフで、著者35年にわたる研究の集大成である。

[2013年1月]

ジョットの**藝術** スクロヴェーニ礼拝堂壁画を中心として

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0184-9

佐々木英也 著

B5判上製函入 本文446頁 口絵32頁 挿図213点

中世イタリア最大の画家ジョットは、アッシジやパドヴァに遺る壁画作品によって今も多大な感銘を与え続けている。本書はジョットの生涯の活動を跡づけ、ルネサンスの先駆者といわれる所以を明らかにし、「聖母マリア伝」及び「キリスト伝」壁画を論究し、東西の図像関係を考察した労作。

【マルコ・ポーロ賞受賞】

[1989年7月]

聖痕**印刻** ジョットの後期壁画をめぐる

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0304-1

佐々木英也 著

B5判上製函入 本文392頁 口絵32頁 挿図154点

サンタ・クローチェ聖堂の聖フランチェスコの「聖痕印刻」を中心に、フランチェスコの受痕をめぐる、その神学的意義や精神史的批判、さらに原典批判、精神医学的解釈など様々な問題を視野に入れ、ジョットの後期壁画を美術史、キリスト教史に位置づける。

[1995年11月]

ファンシー・ピクチャーの**ゆくえ**

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0964-7

英国における「かわいい」美術の誕生と展開

佐藤直樹 著

A5判上製カバー装 本文520頁 口絵8頁

ゲインズバラとレノルズによって確立された、英国18世紀「ファンシー・ピクチャー」。19世紀の復興を経て、拡大する大衆文化のなかで人気を博し、版画や写真、唯美主義、あるいはバリの象徴主義やポスト印象派を経由してフィンランドの女性画家に至るまで、広範な時空にまたがるその展開は、「かわいい」に注目する現代を鏡のように映し出す。

[2022年3月]

死者を**記念する** 古代ギリシアの墓辺図研究

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0792-6

篠塚千恵子 著

A5判上製函入 本文782頁 口絵8頁 挿図344点

葬礼図像として「墓辺図」が現れるようになったのはどのような背景があったのか、アッティカの墓の美術の歴史を考古学的に考察した労作。

【地中海学会賞受賞】

[2017年11月]

アルブレヒト・デューラーの芸術

定価27,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0338-6

下村耕史 著

B5判上製函入 本文416頁 口絵8頁 挿図195点

ドイツ・ルネサンス最高の芸術家デューラーが遺した多数の作品や芸術論を手がかりに、彼が理想とした芸術の実現のための鍵となるkunst(技芸)やnatur(本質)などの様々な観念の考察を通して、理論と実践の奥義を解明した著者30年の研鑽の労作である。

[1997年10月]

デューラー 「測定法教則」 注解

定価28,600円(税込)

ISBN978-4-8055-0578-6

下村耕史 訳・編

B5判上製函入 本文362頁 挿図254点

芸術表現の奥義には、科学としての体系化が根源にあることを説いたアルブレヒト・デューラーが、絵画実践の方法論としてユークリッド幾何学や立体の四次元解析図法などを援用して考察した作図法の翻訳・注解と、この文献の美術史上の位置や数学史からも論究した不世出の画家の著述解釈。

[2008年11月]

アルブレヒト・デューラー 「築城論」 注解

定価15,400円(税込)

ISBN978-4-8055-0714-8

下村耕史 編著

A4判上製函入 本文166頁 挿図58点 折込図4図

巨匠デューラーが、ハンガリーを蹂躪したトルコ軍に対し強固な要塞を築城する必要から著した著書。単なる要塞の構築だけでなく、フィラレーテを初めイタリアで様々に語られた「理想都市」構想を含むルネサンス諸命題の系譜の探求にとっても重要な西洋美術・建築史研究に必備の難解極まる文献の本邦初訳。

[2013年6月]

美術史「ウィーン学派」 オーストリアにおけるドイツ語圏学問活動百年の回顧

定価4,180円(税込)

ISBN978-4-8055-0393-5

ユーリウス・フォン・シュロツサー 著 細井雄介 訳

A5判上製カバー装 本文220頁

ヴィクホフ、リーグルなど美術史の中の美術史ともよぶべき研究の中核を形成し、優れた人材と学的貢献を多数生み出したウィーン学派のそれぞれの学問的事跡や履歴を詳細かつ客観的に論述。168名の学派年代順人名一覧、著者の経歴、著作目録他、ゴンブリッチによる師の想い出、索引を掲載する。

[2000年11月]

美術文献解題

定価50,600円(税込)

ISBN978-4-8055-0745-2

ユリウス・フォン・シュロツサー 著 勝 國興 訳

B5判上製函入 本文960頁

シュロツサー『美術文献解題』は、西欧の美術作品に言及した美術文献(第1次文献初版本800余点)を網羅し、解説と批判を加えた解題書である。本書は1924年ドイツ語初版を底本とし、イタリア語版、フランス語版を並行参照、増補した第2次研究文献と最初の解題を収めた本邦初の『美術文献解題』の完全訳本。

[2015年10月]

ギリシア陶器

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0890-9

エリカ・ジーモン 著 芳賀京子・藤田俊子 訳

A5判上製カバー装 本文568頁 口絵8頁

全世界にちらばる名だたる古代ギリシア陶器を集成し、182件378点の図版を取めて、ひとつひとつに詳細な解説と分析を付す。刊行以来ギリシア美術鑑賞を志すすべての読者に格好の道案内となり、様々な入門書やカタログの記述に影響を与えてきた「新しい古典」の全訳。

[2021年2月]

レオナルドの手稿、素描・素画に関する基礎的研究

定価 71,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0493-2

裾分一弘 著

B5判上製函入 本文818頁 挿図203点

ダ・ヴィンチが書き遺した膨大な手稿や画帖など絵画作品以外の文化財を徹底的に点検し、内容、年代、資料としての価値、収蔵機関など、あらゆる情報を提供する著者畢生の労作。ダ・ヴィンチの全貌を研究する上で必須の、周辺の記録をも含めた500点余の図版を取める資料篇と研究篇よりなる。

[2004年12月]

古代アッティカ杯 ギリシア美術の比例と装飾の研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0576-2

関 隆志 著

A5判上製函入 本文408頁 口絵16頁 挿図80点

古代ギリシアの美意識に永らく存在すると考えられてきた「黄金分割」。著者は500点を超す、古代アッティカ杯の実測調査からその伝説を否定し、新しく星形五角形を基準とする「魔除けの分割」という比例関係を発見した。欧米の学界をも驚かせた画期的研究を一書にまとめる。

[2008年5月]

ガストン・フェビュスの『狩猟の書』挿絵研究

定価 24,200円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0877-0

高木麻紀子 著

A5判上製函入 本文602頁 口絵8頁

西洋中世美術史上で広く知られる、豪華な装飾が施された、ガストン・フェビュスの『狩猟の書』写本群を体系化した上で、この中世末期の世俗彩飾写本におけるイメージの変遷の諸相を解明することを目指す初の試みである。

【渋沢・クローデル賞奨励賞受賞】

[2019年1月]

ルチオ・フォンタナとイタリア20世紀美術

伝統性と革新性をめぐって

定価 7,480円 (税込)

ISBN978-4-8055-0767-4

谷藤史彦 著

A5判上製カバー装 本文496頁 挿図カラー 36点・モノクロ 180点

イタリア20世紀を代表する芸術家ルチオ・フォンタナ(1899-1968)が切り拓いた「新しい空間概念」とは何だったのか。同時代の美術思潮を貫く「伝統性」と「革新性」の中で、その芸術の形成と展開を紐解く。本邦初のモノグラフ。

[2016年8月]

タペストリーの保存研究 石橋財団所蔵『ヨセフ物語』 定価3,300円(税込)

ISBN978-4-8055-0572-4

タピスリー保存研究プロジェクト実行委員会 編

A4判カバー装 本文182頁 挿図163点

石橋財団の所蔵する『ヨセフ物語』タペストリーは16世紀後半のフランドル地方で制作されたと考えられ、かつての極彩色を想起させるルネサンス期の典型的なタペストリーである。この作品の修復を通して保存技術、保存科学、染織技術史、絹製糸、美術史など総合的に行われた調査研究の報告。

[2008年7月]

ビザンティン余白詩篇写本挿絵研究 定価13,200円(税込)

ISBN978-4-8055-0863-3

辻絵理子 著

A5判上製函入 本文272頁 口絵8頁

中期ビザンティン時代(9～13世紀半ば)の作例が残る、本文周囲に残した余白に挿絵を描く形式を有する写本群である余白詩篇写本を扱い、極めて複雑で入り組んだ構造をもつこれらの写本群の挿絵に、いかにアプローチし得るかを検討する気鋭の研究。

[2018年10月]

ローマ サンタ・サビーナ教会木彫扉の研究 定価41,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0446-8

辻佐保子 著 岡村 崔 写真

A4判上製函入 本文516頁 口絵44頁 挿図355点

ローマのサンタ・サビーナ教会に現在まで遺る、初期キリスト教美術の遺品である18点の木彫扉パネル1点1点について、古代末期・中世初期にわたる多数の諸作例と比較し、根拠となるキリスト教文献を探索した研究論文に、写真家・岡村崔による詳細・鮮明な木彫パネルの写真をお絵として収録する。

【地中海学会賞受賞】

[2003年11月]

ユトレヒト詩篇挿絵研究 言葉の織りなした イメージをめぐる 定価44,000円(税込)

ISBN978-4-8055-0518-2

つづみ
鼓みどり 著

A4判上製函入 本文548頁 口絵6頁 挿図278点

9世紀初頭に作成されたカロリング朝ランス派の代表作である『ユトレヒト詩篇』の見出し挿絵の画面を作りあげている仕組みに注目し、その発想の源泉を探る。166点の見出し挿絵と詳細な図様分析表を付録として併載し、広く中世キリスト教美術研究に寄与する労作である。

[2006年2月]

アレティーノまたは絵画問答 ヴェネツィア・ル ネサンスの絵画論 定価5,280円(税込)

ISBN978-4-8055-0521-2

ロドヴィーコ・ドルチェ 著 森田義之・越川倫明 訳・解説

A5判上製カバー装 本文350頁 口絵1丁 挿図40点

ヴァザーリ『美術家列伝』に対抗し執筆され、16世紀のヴェネツィア絵画批評史における最も重要な文献。ヴェネツィアの当代きつての大文筆家ピエトロ・アレティーノとトスカーナ出身の文法学者ファブリーニとの対話という形で、同時代の絵画観と画家の作品の特質を縦横に論じたものである。

[2006年5月]

セザンヌ受容の研究

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0536-6

永井隆則 著

B5判上製函入 本文400頁 口絵52頁

セザンヌが明治35年日本の美術雑誌に初めて紹介されて以来、昭和20年まで日本人によって書かれたセザンヌ論を網羅的に調査し、日本で形成されたセザンヌ像の変遷を歴史的に辿ると共に、その思想的典拠を明らかにする。日本国内の美術館所蔵のセザンヌ作品一覧(写真全80点)を添える。[2007年2月]

ピラネージ《牢獄》論 描かれた幻想の迷宮

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0743-8

長尾重武 編著 渡辺晋輔・飛ヶ谷潤一郎 執筆

A4判上製函入 ファクシミリ版30葉 解説書300頁 挿図243点

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージの最も特徴的な作品群のひとつであり、未だ多くの謎を残す版画シリーズ《牢獄》。本書では、国立西洋美術館所蔵《牢獄》全30葉(初版・再版)を原寸大ファクシミリ版(シート寸法394mm×430mm)にて再現。作品、作家、先行研究を詳細に読み解く論考とともに、その内容に迫る。 [2015年8月]

油彩への衝動

定価 8,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0746-9

蛭川順子 編

A5判上製カバー装 本文336頁 口絵32頁 挿図250点

本書は2013年に関西大学で開催された国際シンポジウムおよびポスターセッションを受けた論集であり、油彩を美術史、表象文化史、文化交渉史など、あらゆる「歴史的文脈」の中で捉える試みである。蛭川教授による各章リード文によって、油彩画の全貌をより一貫性をもって展望できる構成となっている。 [2015年9月]

時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0548-9

ピーター・バーク 著 諸川春樹 訳

A5判上製カバー装 本文308頁 挿図82点

芸術作品の研究を主とする従来の美術史の範囲を大きく拡張し、文化人類学的観点から各々の時代が生んだあらゆる媒体のイメージの根拠を、時代の目撃者の眼に徹することによって詳細に探求した、視覚イメージを通じた文明批評であり、メディアの時代といわれる現代の要請が生んだ必読の書。

[2007年10月]

ロドス島の古代彫刻

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0519-9

芳賀京子 著

B5判上製函入 本文714頁 口絵16頁 挿図407点

ロドス島の彫刻活動を解明することは、古代ギリシア・ローマ世界の芸術活動を理解する上で、最重要課題であるにもかかわらず現在に至るまでなされていなかった。本書は碑文、古文獻、出土彫刻の膨大な量の史料に詳細な考察を加え、最新の研究成果を集大成した金字塔。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2006年2月]

芸術学の根本問題

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0275-4

E・パノフスキー 著 細井雄介 訳

B5判上製函入 本文302頁 口絵24頁 挿図34点

絵画のイコノロジー研究により20世紀の美術史学界をリードした碩学、E・パノフスキーの方法論のエッセンス8篇に対論としてヴェルフリンの論文1篇を集成、その後の諸研究の一切の基盤となる根本問題を論じている。ドイツ語原本より完訳した美術史学探究の「詩と真実」を記した歴史的名著。

[1994年4月]

ギリシアの陶画家 クレイティアスの研究

定価 39,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0497-0

平山東子 著

B5判上製函入 本文388頁 折込図4頁 口絵8頁 図版82頁

アッティカ黒像式陶器の代表作として広く知られる『フランソワの壺』の陶画家であるクレイティアスを取り上げ、51点の作品カタログと数多くの写真資料、実測図を付し、その作品の総体と編年を明確化し、様式、器形、装飾方法、図像表現、作品の機能などの考察を通じ、全容の解明を試みる。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2005年4月]

ヴィッラ・マダマのロτζジャ装飾

メディチ家
皇の理想図像

定価 17,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0783-4

深田麻里亜 著

A5判上製函入 本文416頁 口絵8頁

ローマに建つヴィッラ・マダマ内「庭園のロτζジャ」のヴォールト及び壁面装飾を主要な考察対象とし、各図像の詳細な検討を行う。それにより、メディチ家の二人の君主を称揚する図像について指摘し、新たなヴィッラのロτζジャ内部における装飾プログラムの存在を明らかにする。

[2017年2月]

ジャン＝シメオン・シャルダンの芸術

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0897-8

—啓蒙の時代における「自然」と「真実」—

船岡美穂子 著

A5判上製函入 本文520頁 口絵16頁

本書はたくみな写実と魔術にも比される絵画技法を特徴とし、やがて19世紀以降の近代絵画の展開にも影響を与えていった、ジャン＝シメオン・シャルダンの全画業を対象とした国内初にして最新の学術研究書である。当時の啓蒙思想家や美術愛好家たちに高く評価され、美術史のみならず、文学・哲学・社会史といった隣接分野から高い注目を集めるこの画家についての初のモノグラフィー。

[2022年2月]

美の顕現 イタリア・ルネサンス美術論集

定価 2,970円 (税込)

ISBN978-4-8055-0773-5

カルロ・デル・ブラーヴォ 著 甲斐教行 訳

A5判上製カバー装 本文224頁

著者カルロ・デル・ブラーヴォは、長らくフィレンツェ大学で教鞭をとり、芸術家と作品に対する強い信念と審美性にあふれるそのアプローチでルネサンスから近現代に至るイタリア美術史に独自の方法論で新たな美術史の可能性を提示し続けた。現代を象徴する碩学の代表的論考を取めた日本オリジナル論文集。

[2016年10月]

ミケランジェロ研究

定価2,970円(税込)

ISBN978-4-8055-0856-5

カルロ・デル・ブラーヴォ 著 甲斐教行 訳

A5判上製カバー装 本文264頁

「包括的図像解釈」の方法論を二大巨匠ミケランジェロとラファエロに適用した本書は、われわれの図像上の「常識」が立証された史実からほど遠いものであることを思い出させる驚くべき成果である。デル・ブラーヴォが描き出す「創作的解釈」それ自体がひとつの物語であり、冒険であると言えよう。

[2018年8月]

チチェローネ 建築篇

イタリア美術作品享受の案内

定価41,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0424-6

ヤーコプ・ブルクハルト 著 瀧内楨雄 訳

B5判上製函入 本文586頁 口絵12頁 挿図554点

19世紀に生きたスイスの美術史家・文化史家ブルクハルトがイタリアの美術作品案内という体裁をとりつつ古代からルネサンスを経てバロックに至る様式史を叙述した歴史的名著。三部構成となっている原著の第一部「建築篇」を本邦初めて全訳、500点以上の挿図と詳細な訳註を加えて刊行する。

[2004年12月]

チチェローネ 絵画篇

イタリア美術作品享受の案内

定価36,300円(税込)

ISBN978-4-8055-0627-1

ヤーコプ・ブルクハルト 著 瀧内楨雄 訳

B5判上製函入 本文464頁 口絵24頁 挿図570点

19世紀に生きたスイスの美術史家・文化史家ブルクハルトがイタリアの美術作品案内という体裁をとりつつ古代からルネサンスを経てバロックに至る様式史を叙述した歴史的名著。「建築篇」に続き、「絵画篇」を訳出、刊行する。

[2011年4月]

絵具の事典 [新装普及版]

定価4,180円(税込)

ISBN978-4-8055-0624-0

ホルベイン工業技術部 編

B6判カバー装 本文247頁

今日、画家が使用している油絵具や水彩絵具・アクリル絵具など各種絵具の定義・歴史・組成・種類・使用上のポイントについて具体的に解説すると共に、絵具の色名由来・組成・使用上の特性と注意点を、製造の現場から描く人の立場を考慮して、わかりやすく解説する事典。

[1996年12月]

絵具の科学 [改訂新版]

定価2,970円(税込)

ISBN978-4-8055-0860-2

ホルベイン工業技術部 編

A5判カバー装 本文216頁

「絵具とはなんだろうか？」1900年創業の老舗画材メーカー、ホルベイン工業の技術部による絵画に携わる全ての人に贈る、絵具のハンドブック。本書は絵具を中心にして、絵画材料の組成と使用方法、使用時に生じるトラブルとその対処方法を、製造の現場から簡便に説明した、類書のないロングセラーの全面改訂版！！

[2018年11月]

アルブレヒト・デューラー 「人体均衡論四書」 注解

定価 31,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0300-3

前川誠郎 監修 下村耕史 訳・注

A4判上製函入 本文410頁 挿図142点

北方ルネサンスの巨人が、人体表現において、美と数の理想的比例を発見し、それを体系化した画技と科学の集大成の書を世界で初めて全訳、翻刻。人体図版142図を収録し、美学、美術史学に加えて、ウィトルウィウスに通ずる宇宙論的解明としての人体表現の数学的プロポーションを極限にまで追究。

[1995年11月]

美の司祭と巫女 西洋美術史論叢

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0264-8

前川誠郎先生記念論集刊行会 編

B5判上製函入 本文380頁 口絵4頁 挿図165点

[収録論文] ナウムブルクの彫刻家／アトリビューションの有効性／解釈の遠近法／デューラーの素描《オルフェウスの死》と銅版画《ヘラクレス》について／システーナ礼拝堂天井画の《ノアの物語》の制作意義／世界地図から世界風景へ／ドメニキーノの「剽窃」事件を巡る考察 他

[1992年11月]

ビザンティン聖堂装飾プログラム論

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0716-2

益田朋幸 著

B5判上製函入 本文560頁 口絵16頁 挿図285点

ビザンティンの複雑な聖堂建築をどう壁画で飾るか。その装飾の“物語”の原理を「円環」「相称性」「中軸」という3つのキーワードで考える全く新しい試み。図像学的新知見や未公開の貴重な写真など多数を収録した、欧米にも類を見ない学会を揺るがす画期的研究。

[2014年2月]

パルテノン・フリーズ 観察と考察

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0649-3

水田 ^{あきら}徹 著

B4判上製函入 本文386頁 口絵16頁 挿図900点

西洋の古代美術史上最大規模を誇る古代ギリシア・パルテノン神殿を飾った全長160メートルに及ぶ浮彫彫刻の全容を細大漏らさず観察・記述・図版化し、日本及び世界におけるパルテノン研究の深化に大いに寄与する観察と分析。通算6度にわたる現地調査・撮影の成果の報告。

[2011年3月]

オランダ集団肖像画

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0558-8

アロイス・リーグル 著 勝 國興 訳

B5判上製函入 本文496頁 挿図102点

リーグルは近代美術史学の「基礎概念」を築いたウィーン学派の始祖である。本書はレンブラントを頂点とするオランダ16～17世紀の集団肖像画の独自の絵画システムを抽出し、その「注視の倫理学」といわれる絵画解釈は、芸術作品の基調をなす普遍的思想として今に至るも不滅の功績を樹立した。

[2007年11月]

ヴァフィオの杯 アーロイス・リーグル論文集

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0565-6

アーロイス・リーグル 著 細井雄介 訳
B5判上製函入 本文270頁 口絵1丁 挿図27点

彗星のごときその夭折を惜まれた秀逸な美術史学者リーグルの論考を選びすぐり、1929年に集成した論集。編者であるゼドルマイアの巻頭序文、巻末にはドヴォジャーク、ティーツェ、ペヒトによる伝記的資料を収載して、この一代を画した偉大な美術史家の精神的肖像を明示した。

[2008年2月]

末期ローマの美術工芸

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0553-3

アロイス・リーグル 著 井面信行 訳
B5判上製函入 本文362頁 口絵31頁 挿図116点

ウィーン学派の重鎮リーグルの主著である本書は、4世紀から8世紀までの末期ローマの文化を、建築・絵画・彫刻・工芸の領域にわたり考察したもので、芸術作品の自立的発展を性格付けた「芸術意志」なる普遍的概念をもって考究された、芸術学研究の学問的方法論の模範とされる古典文献である。

[2008年8月]

造形芸術の歴史的文法

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0694-3

アーロイス・リーグル 著 細井雄介 訳
B5判上製函入 本文496頁

本書は、ウィーン美術史学派の始祖アーロイス・リーグル（1858～1905）が遺した手稿を、1966年に彼の学徒が編纂した遺著である。造形表現の「芸術言語」を、人類文化全体のなかにおける歴史的文法というメタファーとして把握した、リーグルの、そして美学全体の仰ぎ見る最終到達点である。

[2014年1月]

様式への問い 文様装飾史の基盤構築

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0769-8

アーロイス・リーグル 著 加藤哲弘 訳
B5判上製函入 本文434頁 挿図197点

唯物論的美術史に対して、内的衝動の「芸術意思」が芸術の自立的発展となると説いたウィーン学派の始祖リーグルの名著の公刊。

[2017年4月]

料理術の精神 ある美術史家の食卓

定価 2,970円 (税込)

ISBN978-4-8055-0749-0

C.F.v. ルーモール 著 中山典夫 訳
B6判上製カバー装 本文340頁 挿図8点

美術史家カール・フリードリヒ・フォン・ルーモールが、彼のお雇い料理人の名で著した本書は、素材の味を活かすヌーヴェル・キュイジーヌの源泉ともなった。一家言あるレシピから、料理術が生きることに結びついた芸術であることや、当時の文化史的考察、台所から見た社会風刺などが語られる。幻のロングセラー、本邦初訳。

[2016年1月]

初期ギリシア芸術における自然再現

定価2,750円(税込)

ISBN978-4-8055-0544-1

エマヌエル・レーヴィ 著 細井雄介 訳

A5判上製カバー装 本文112頁 挿図30点

ウィーン大学で古典考古学を学んだレーヴィは、本書において初期ギリシア芸術における彫刻再現の一般原理を分析し、初期芸術の各段階を記憶像に基づく概念的再現から、直接の対象知覚による遠近法の再現へと進む変遷の進展段階を解明した。古典ギリシア彫刻研究の秀逸な古典的名著である。

[2007年7月]

芸術論叢 [全2巻]

セット定価49,500円(税込)

ロベルト・ロンギ 著 岡田温司 監訳

20世紀の美術史学において、名著『ピエロ・デッラ・フランチェスカ』や『イタリア絵画史』など数々の研究業績を残したロンギは、著名な詩人学者であり、前世紀の最も重要な美術家であった。難解な言語上の問題や、昨今の美術史研究の方法論が図像学一辺倒なるがゆえに我が国への紹介が遅れたが、この正統なアカデミズム美術批評の邦訳とその詳細を極めた注解は待望久しい訳業である。

【ピーコ・デッラ・ミランダラ賞受賞】**I アッジジから未来派まで**

定価24,200円(税込)

B5判上製函入 本文416頁 口絵16頁 挿図80点

ISBN978-4-8055-0336-2

[1998年9月]

II 歴史・批評・方法

定価25,300円(税込)

B5判上製函入 本文440頁 口絵16頁 挿図81点

ISBN978-4-8055-0371-3

[1999年9月]

ピエロ・デッラ・フランチェスカ

定価38,500円(税込)

ロベルト・ロンギ 著 池上公平・遠山公一 訳

B5判上製函入 本文512頁 口絵20頁 挿図137点

ISBN978-4-8055-0567-0

15世紀イタリア・ルネサンス絵画を代表するひとり、ピエロ・デッラ・フランチェスカ(1415～92)には伝記的資料が欠けているため、不十分であった従来画家・作品研究を補う基本書として、現在に至るも重要な存在意義を持ち続ける古典的名著である。訳者による詳細な解説を付した。

[2008年2月]

古代・中世の挿絵芸術 その起源と展開

定価23,100円(税込)

クルト・ワイツマン 著 辻 成史 訳

A4判上製函入 本文178頁 口絵56頁

ISBN978-4-8055-0552-6

ビザンティン美術史、とくに写本研究の碩学であるクルト・ワイツマンの大著を初めて紹介する。古典学、聖書学、テキスト批評、美学といった隣接諸分野に大きな刺激を与え続け、古代・中世の挿絵芸術の発展史的経緯を追い、描写における古代・中世人の心理学的軌跡を克明にあとづけた名著。

[2007年10月]

日本・東洋建築史

日本近代の建築保存方法論

法隆寺昭和大修理と
同時代の保存理念

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0876-3

青柳憲昌 著

A5判上製函入 本文 388頁 口絵4頁

昭和時代前半期の建造物修理に焦点をあてつつ、歴史的建築の形や色の「復原」のみならず、修理工事の技術的側面を含めてその実態を解明し、当時の修理技術者たちの保存思想について、さらには建築を「保存」するという行為そのものに内在している本質的な問題についての考察を加えつつ、さらにそれが現代の保存に何を示唆しているのかを問い直す。【建築史学会賞受賞】 [2019年12月]

今井兼次に於ける建築と思想に関する研究

定価 18,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0683-7

^{あげまつ}
上松佑二 著

A5判上製函入 本文668頁 挿図カラー 80点・モノクロ336点

日本近代建築の結節点に立つ建築家・今井兼次の生涯を4期に分けて論じ、その思想とキリスト教精神の背景に至るまでを論述する。近代建築において独自の道を歩み、豊かな精神をもつ今井の全体像を建築家としてのみならず、画家、教育者、著述家、とりわけ人間として包括的に論じた建築的意味をもつ作家論。 [2012年12月]

戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開

定価 9,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0583-0

浅野純一郎 著

A5判上製函入 本文338頁 挿図86点

戦前期の全国43地方都市の沿革、成立、変遷を論じた現代につながる都市のコスモロジー。札幌・函館・仙台・新潟・富山・高岡・金沢・松本・岐阜・静岡・清水・浜松・豊橋・岡崎・津・和歌山・堺・尼崎・岡山・広島・呉・下関・高知・福岡・八幡・長崎・佐世保・熊本・大分・鹿児島など収録。 [2008年10月]

地方における戦後都市計画

戦災復興から
現在まで

定価 7,480円 (税込)

ISBN978-4-8055-0883-1

浅野純一郎 著

A5判上製カバー装 本文364頁

都市はいかに再構築されたのか。戦災によって被害を受けた地方都市に焦点をあて、戦災復興都市計画の特徴やその後の市街地形成経過への影響を明らかにしていくことで、戦後の都市計画や市街地展開の実態に迫る。 [2020年12月]

台湾ヤミの住まいの建築論

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0634-9

足立 崇 著

A5判上製函入 本文272頁 口絵8頁 挿図99点

本書は台湾の蘭嶼という小島に暮らすヤミと呼ばれる人々の「住まい」について、神話や伝説の解釈、またフィールドワークで得られた空間構成や建築に関わる儀礼などの知見を通して、建築において重視される「住まう」ことをその場所の現象に即して究明する試みである。

[2010年10月]

平安時代貴族住宅の研究

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0452-9

飯淵康一 著

B5判上製函入 本文632頁 挿図151点

平安時代貴族住宅で行われた儀式に着目し、これがどのように展開されていたのかを空間的視点から説明することにより、平安時代の貴族住宅を日本住宅史の中に位置づける。また同時に平安宮内裏および平安京をも対象とし、都市的文脈を究明する中から貴族住宅の空間的特質をより深く論じている。

【日本建築学会賞受賞】

[2004年2月]

続平安時代貴族住宅の研究

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0620-2

飯淵康一 著

A5判上製カバー装 本文154頁

平安時代貴族住宅で行われた儀式に着目し、これがどのように展開されていたのかを空間的視点から解明し、日本住宅史の中に位置づけた前著『平安時代貴族住宅の研究』（日本建築学会賞受賞）以降に発表された、「対の儀式空間」に関するテーマを中心とした研究成果の集約版。

[2010年4月]

源氏物語 その住まいの世界

定価 9,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0182-5

池 浩三 著

A5判上製函入 本文356頁 挿図90点

『源氏物語』の舞台となったさまざまな寝殿や対屋、塗籠などの平安貴族住宅の建築空間を、平安時代の婚姻制および寝殿造に関する先行研究の成果をふまえ、筋立の展開や主人公の内面を投影した象徴的本質として解明した、『源氏物語』の読解に不可欠の学際的研究書。

[1989年9月]

綱町三井倶楽部 J・コンドルの建築をめぐって

定価 4,070円 (税込)

ISBN978-4-8055-0400-0

石田繁之介 著

A5判上製カバー装 本文236頁 口絵8頁 挿図74点

英国人建築家ジョサイア・コンドルは明治期に来朝し、わが国の西洋建築の父祖といわれる。東京・港区に現存する綱町三井倶楽部もその作品の一つである。著者は建築家と施主側担当者との往復書簡や、立地取得に至る経緯や時代背景を、新出資料を元に名建築の誕生と来歴を読み解く。

[2001年6月]

フエ ベトナム都城と建築

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-0851-0

伊藤 毅 編

B5判カバー装 本文176頁 口絵16頁 挿図169点

ベトナム最後の王朝があった古都フエ。王宮の遺跡が広範囲にわたって残り、都市史・建築史上さまざまな重要な論点を含む対象であるフエの全貌を、詳細な現地調査に基づいて明らかにする共同研究成果の公開。

[2018年3月]

旧軍用地と戦後復興

定価 7,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0780-3

今村洋一 著

A5判上製カバー装 本文368頁 挿図150点

終戦によって遊休国有地となった旧軍用地が、どのように都市に組みこまれ、戦後復興が図られたのかを、全国的な動態と個別の都市の具体例から包括的に考究し、戦後史としてだけではなく、人口減少時代を迎えた現代の土地活用と都市計画の課題にも広く示唆を与える気鋭の論文集。

【日本不動産学会著作賞（学術部門）受賞】

[2017年1月]

日本建築規矩術^{きくじゅつ}

定価 23,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0753-7

おおうえ
大上直樹 著

B5判上製函入 本文416頁 挿図250点

規矩術は日本の主要な建築設計技法のひとつであるが、近代以前の規矩術は古来秘伝とされ、内容が困難なため真の技法が解明されたとはいえない。中世・近世の規矩術の変容過程を解明し、近世以前の規矩術の体系化を初めて試み、今日、常識とされている現代軒規矩術の諸問題を挙げ著者の新たな知見を示す。

[2015年12月]

近世・近代の歴史意識と建築

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0729-2

加藤悠希 著

A5判上製函入 本文320頁 挿図34点

近世・近代の日本において、過去の建築の歴史に対する関心・知識はどのようなものであったか。伊勢神宮の考証・有職故実の研究・豊臣秀吉にまつわる建築の由緒、という三つの事例から、当時の人々が建築へ向けた視線と、そこに投影される歴史意識について検討する。

【建築史学会賞受賞】

[2015年1月]

近世建築の生産組織と技術

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0008-8

川上 貢 編

A5判上製函入 本文500頁 挿図76点

幕府御用作事における中井家の職務と財政構造／大坂天満における大工の組織と営業形態／江戸時代における町屋大工の生産活動に関する一考察／播磨と淡路の集住大工について／相摸国愛甲郡半原村の大工等、12論文を収録し、建築史・経済史・技術史・生産史・流通史などに及ぶ総合的論集。

[1984年10月]

日本建築史論考

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0361-4

川上 貢 著

B5判上製函入 本文386頁 挿図60点

中世禅僧の住まいや建築生産組織などに関わる歴史的事実を解明し、さらに方丈や塔頭の性格や施設の構成、昭堂、客殿、書院そして庫裏など、その用途や形式を分類・整理し、寺院建築から城郭の殿舎、大番小屋、対面所、茶屋、会所から間面記法、町屋に至る日本建築の意匠と構造を論究した労作。

[1998年10月]

禅院の建築 禅僧のすまいと祭享 [新訂]

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-0510-6

川上 貢 著

A5判上製カバー装 本文282頁 挿図45点

禅寺における塔頭は塔のほつりを意味し、塔をまつり永く保護をするための施設である。日本中世住宅史の権威である著者が禅宗寺院における日々の生活空間であり、また儀式・儀礼も密接に関わる塔頭の建築に焦点を当て、その発生から変容への過程を明らかにする名著の改訂新版。

[2005年9月]

寝殿造の空間と儀式

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0682-0

川本重雄 著

B5判上製函入 本文452頁 挿図102点 折込図3丁

本書は「寝殿造」と儀式の関わりを研究する著者の研究の集大成であり、住まいに関する貴族の日記や部類記が多く残る11~12世紀を中心に、「寝殿造」の歴史像と空間的特質などを明らかにし、儀式の内容や列席者、儀式の舞台の変遷が、貴族の社会体制と秩序の変化に起因することを詳細に論ずる。

【建築史学会賞・紫式部学術賞受賞】

[2013年2月]

きくだきのちゅうもん 木碎之注文

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0691-2

木碎之注文研究会 編著・中川 武 監修

A5判上製函入 2分冊 (影印・釈文篇374頁/解題・現代語訳篇174頁) 挿図254点

原本として現存する最古の木割書であり、日本建築技術史上における重要な一級史料の翻刻。16世紀後半の戦国大名・大友氏に奉仕していた大工が筆録していたと考えられている大工技術書であり、影印・釈文篇と解題・現代語訳篇の2分冊を、同書研究会による長年の研究成果を踏まえた解説付きで刊行する。

[2013年2月]

町人都市の誕生 いきとすい、あるいは知

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0963-0

呉谷充利 著

A5判上製カバー装 本文282頁 口絵1頁

「都市の未来は自らの歴史を欠いて真の展望を持ち得ない。その時間軸をたしかなものにすることこそ、都市を考えるもっとも重要な一課題であろう」日本の近代化を、商都大坂がどのように誕生し、町人の街として成長してきたか、歴史資料、近世・近代文学まで視野に、上方と江戸/東京との文化的土壌を比較することで考察する新たなる都市論。

[2022年3月]

建築制作論の研究

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0757-5

建築論研究会 編 (編者代表 西垣安比古)

B5判上製函入 本文634頁 挿図123点

東日本大震災を経て、近代的技術概念を問い直すことは不可避のテーマとなった。建築技術の在り方について、世界観・自然観そのものを問い直すまで遡源することが要請されるのだ。「建築制作」という主題をめぐり、建築論の立場からその問題点を考究し、新たな展望を開く全7章25篇の論考集。

[2016年1月]

風景現象の建築論的研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0690-5

香西克彦 著

A5判上製函入 本文284頁

人間存在に関わる全事象の中への風景現象の定着と、風景論の原論の構築の探求を目的とする。『万葉集』や芭蕉の俳諧などの歴史的・文学的・経験的風景現象に詠みこまれた事例から、見るという経験を通し、風景なるものの全体的把握と見ることの主客の間に生起する人間と世界との構造を探るユニークな論考。

[2012年11月]

つまごじゆく 妻籠宿

定価 1,708円 (税込)

ISBN978-4-8055-0181-8

小寺武久 著

四六判上製カバー装 本文160頁 口絵20頁

妻籠は谷深い中仙道の途上、木曾11宿の10番目にあたる歴史的風情をよく残した美しい宿場町である。この日本で初めての町並み復原保存の調査・立案・計画・実施を行ってきた著者が、この間の事情を明快に説き明かして、美事に甦った妻籠の歴史と現在、そして未来を親しみ易く描いた。

[1989年4月]

都市・建築空間の史的研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0777-3

小寺武久 著 西澤泰彦・片木 篤・溝口正人・野々垣篤・掘田典裕 編

A5判上製函入 本文374頁 挿図75点

小寺武久博士(1933-2006)が示された都市空間の復原、都市建設の造形理念、建築と都市空間の相互関係、都市空間とそこで育まれた文化との関連など、複眼的視点に立った研究手法を後世に伝える建築史研究の成果。

[2017年2月]

近世初期上層公家の遊興空間

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0633-2

後藤久太郎 編著・松井みき子 著

A5判上製函入 本文354頁 挿図25点

『无上院日記』を研究の底本として、院を取り巻く上層公家の日常生活、人間関係、生活文化の視点から上皇や公家女性の日常的な遊興施設の用法を分析し、それを通して上層公家住宅史の一面をとらえ、近世の生き生きした日常を甦らせた、新しい視点による建築史研究。

[2010年12月]

近世建築指図の総合的研究〔全3巻〕

後藤久太郎・伊東龍一 編

本叢書では、全国の寺社などに保管されている近世建築に関する指図類を調査・撮影し、それら貴重な史料を網羅・総合的に収録した基本台帳作成を企図している。

〔第1巻〕 平面図としての「指図」の作図技法・描法の展開に関する研究

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0659-2

A4判上製函入 本文352頁 (内カラー 56頁) □絵60頁 挿図300点

[2012年2月]

〔第2巻〕 タイトル未定

価格未定

ISBN978-4-8055-0660-8

〔第3巻〕 建築指図の修補技法に関する研究

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0650-9

B5判上製函入 本文248頁 □絵8頁 挿図174点 DVD付

[2011年3月]

萩藩江戸屋敷作事記録

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0695-0

作事記録研究会 編

B5判上製函入 本文568頁 □絵4頁 附録図10枚

巨大で複合的な江戸藩邸が、各種の資源（人材・建設資材・資金等）、工期をどのようなマネジメント手法のもと建設されたのか。山口県文書館毛利家文庫に残される萩藩江戸上屋敷に関わる浩瀚な「作事記録」のうち、特に重要なものを選定・全文翻刻するとともに、解説及び関係する屋敷絵図を付す史料集成。

[2013年2月]

大名江戸屋敷の建設と近世社会

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0708-7

作事記録研究会 編

A5判上製函入 本文380頁 挿図48点

資料編にあたる『萩藩江戸屋敷作事記録』の姉妹篇として、主として同記録の分析を行った結果解明された江戸時代の大名屋敷の建設マネジメント手法に関する論文10篇を掲載。大名江戸屋敷の作事に際して作成された浩瀚な「作事記録」に基づく共同研究の成果を公刊するものである。 [2013年12月]

建築保存概念の生成史〔新装版〕

定価 6,820円 (税込)

ISBN978-4-8055-0895-4

清水重敦 著

A5判上製カバー装 本文428頁

日本近代において建築保存概念が生成していく過程を近世からの継承と転換として論じていく。文化財保存の史的再読を通して日本の建築保存の意味の拡張を意図しつつ、近世近代建築史として伝統と西洋の混濁の具体的様相を描き出し、保存から日本と東アジアの新たな建築史叙述を志向する。建築史学会賞、日本建築学会賞、日本イコモス奨励賞を受賞した『建築保存概念の生成史』（2013年刊）の新装版。

[2022年3月]

延暦寺の建築史的研究

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0595-3

清水 ^{ひろし} 擴 著

A5判上製函入 本文420頁 挿図74点

本書では「天台三千坊」と謳われた、平安時代の比叡山延暦寺について基本史料の徹底的な史料批判を行ったうえで、関係史料を博捜することによってその草創期から最盛期までの建築・美術・彫刻などについて、可能な限り総合的に明らかにした、延暦寺の歴史研究における決定的な根本文献である。

[2009年7月]

木造建築の設計技術史

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0899-2

白井裕泰 著

A5判上製函入 本文420頁 挿図74点

本書は、建築の創造の問題を取り扱うものである。木造建築の設計方法の歴史的考察による技術史の自立的な体系化を目標とし、そのうえで理念と形態を媒介する機能・生産・技術との相互の関連性を論じ、建築の本質的な「構造」を解明する。

[2021年11月]

ベトナム・フエ城宮殿建築の修復と復原

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0772-8

白井裕泰 編著

A4判上製函入 本文268頁 挿図710点

ベトナムの世界遺産「フエの建造物群」の構成遺産である隆徳殿と昭敬殿を修復・復原した際の記録を中心にまとめて収録。この研究は日越共同保存事業に重要な意味合いを有し、多大な国際貢献を果たした。今後実施されうる世界遺産の建造物修復などの事業において礎となる研究成果の公開。

[2016年10月]

近世禅宗寺院の空間構成・意匠の研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0755-1

杉野 ^{のぼる} 丞 著

A5判上製函入 本文368頁 挿図350点

近世における禅宗寺院本堂の空間構成と意匠について、全国の遺構を実証的に分析・検討し、中世における臨済の公案禅、曹洞の黙照禅に象徴された禅風が、禅の建築文化としていかに継承されたかを明示する。近世禅文化の新たな理解の端緒となる研究成果。

[2016年2月]

古代寺院僧房の研究

鈴木嘉吉建築史論集

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0762-9

鈴木嘉吉 著

B5判上製函入 本文420頁 口絵16頁 図面95点 挿図56点

鈴木嘉吉博士初の論集全2巻の第1冊。本巻は僧の住居である僧房を研究対象とする。また元興寺極楽坊本堂・禅室など、国宝・重文の解体修理に携わった経験から、諸堂の遺構を考古学的・建築史的に当初の形態に復原し古建築の検視を行い、日本建築の重要な筋道である古代住宅の実体を解明した記念碑的業績である。

[2016年4月]

古代寺院建築の研究

鈴木嘉吉建築史論集

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0763-6

鈴木嘉吉 著

B5判上製函入 本文580頁 挿図383点

鈴木嘉吉博士の初の論集全2巻の第2冊。本巻は飛鳥・白鳳時代、平安時代以降、古代建築の構造などの章立てで、明治期以来懸案の法隆寺の再建非再建論争について独自の新再建論を提示し、また薬師寺の移建の経緯などを語り、また長年の古代建築の解体修理に携わった得難い経験と歴史観から、学界に新たな刺激的提案をし続けた鈴木建築史学の詳細を提示する。

[2017年9月]

書院造と数寄屋考

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0728-5

鈴木 亘 著

B5判上製函入 本文368頁 挿図65点

寝殿造から書院造へ、そして江戸期に完成した数寄屋造へと日本住宅史における様式概念の発達史に様々な観点から検討を加え、書院造の淵源を中世禅院にまで遡って論及し、様式の発展過程とその特色を明らかにした労作。

[2014年11月]

建築史の空間

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0369-0

関口欣也先生退官記念論文集刊行会 編

B5判上製カバー装 本文224頁

わが国中世の禅宗様建築史研究をはじめ、民家はもとより東洋建築史全般に亘る徹底した方法論と遺構調査を究明・実行した関口博士。その横浜国立大学退官を記念して、門下生たち12人が「住の空間」、「寺社の空間」、「様式と技術の空間」のテーマのもとに論文を書き下ろした献呈論文集。

[1999年1月]

関野貞^{ただし}日記

定価 20,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0586-1

関野貞研究会 編

A5判上製函入 本文834頁 図4頁 挿図272点

わが国の古建築研究のパイオニアであり、近代の文化財保護の基礎を築いた関野貞(1868～1935)の手控えとしての私的・公的記録を記した日記・日録の翻刻。日本、朝鮮、中国における文化財調査・保護政策の策定から、近代日本の文化財行政の発展過程が克明かつ具体的に記述されている重要資料。

[2009年2月]

近世在方集住大工の研究

定価 52,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0617-2

高橋恒夫 著

B5判上製函入 本文644頁 挿図653点

近世の日本各地の主要な19件の在方集住大工(地方在住の大工集団)について、地道な現地調査と資料収集から、その発生の背景や要因、実態、大工の活動や組織、技術などの形態について、網羅的かつ体系的な考察を試み、従来の建築生産史研究における大工研究の隙間を埋める画期的な研究成果。

[2010年1月]

京都御所造営録 造内裏御指図御用記〔全5巻〕 セット定価154,000円(税込)

詫間直樹 編

宮内庁書陵部に所蔵される「造内裏御指図御用記」全8冊は、江戸時代後期の寛政年間に再建された京都御所造営に関する重要な基本史料の一つである。記主は朝廷において禁裏執次で内裏造営の御指図御用掛を務めた明法博士大判事の勢多章純である。この近世の京都御所研究には不可欠の史料の全文翻刻を行い、寛政度京都御所の再建過程およびその実態を明らかにする。

〔第1巻〕

B5判上製函入 本文312頁 〇絵8頁
天明八年四月七日～同年十二月三十日

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0613-4

[2010年2月]

〔第2巻〕

B5判上製函入 本文378頁 〇絵8頁
天明九年(寛政元年)正月四日～同年六月三十日

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0653-0

[2011年2月]

〔第3巻〕

B5判上製函入 本文432頁 〇絵8頁
寛政元年閏六月一日～同年十二月三十日

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0654-7

[2012年2月]

〔第4巻〕

B5判上製函入 本文390頁 〇絵8頁
寛政二年正月三日～同年六月三十日

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0655-4

[2013年2月]

〔第5巻〕

B5判上製函入 本文432頁 〇絵8頁
寛政二年七月五日～寛政四年十月三十日(付 総索引)

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0656-1

[2014年2月]

中国建築の特質 田中淡著作集1

田中 淡 著

A5判上製カバー装 本文280頁 挿図206点

稀代の歴史家が語る中国建築の精髓!「本書に収められた21本の文章は、田中淡氏が全力を傾けて解説しようと試みた中国建築の特質について、ほぼすべての中国建築を対象として、多様な方法をもちいて論じている。読者諸賢には是非心から賞味していただきたいと願うばかりである。」「解題」(藤井恵介/東京大学大学院教授)より抜粋

定価6,050円(税込)

ISBN978-4-8055-1150-3

[2018年3月]

中国古代造園史料集成 増補 哲匠録 壘山篇 定価49,500円(税込)

田中 淡・外村 中・福田美穂 編

B5判上製函入 本文806頁

中国の造園は秦、漢時代以来の悠久の歴史を擁し、明清の現存遺構とは異なる純粹卓越した伝統が培われてきた。本書は中国庭園史の初期に属する秦漢—南北朝時代の文献史料を各代の造園家別にして集成した基礎史料集であり、さらに巻末に造園家人名・庭園名・建物名・引用文献名の各種索引を付す。

定価49,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0408-6

[2003年5月 [増補改訂]]

すまいの現象学 玉腰芳夫建築論集

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0681-3

玉腰芳夫建築論集編集委員会 編

B5判上製函入 本文690頁 口絵1丁 挿図220点

著者玉腰芳夫(1938～84)は、京都大学の建築論研究の俊英として囑望されていたが、惜しくも早世した。本書は、既発表の全論考と未完の著作構想の遺稿群を編纂し、ひとが生きる場所、すなわちすまいの現象学的把握を通じて、著者がめざしたすまい研究の到達点を明らかにする。 [2013年11月]

棟持柱祖形論

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0630-1

土本俊和 著

A4判上製函入 本文384頁 挿図223点

棟持柱構造は歴史的な木造建築の一典型であり、日本建築史を貫く代表的な形である。本書はこの構造を歴史的な建造物の祖形として位置づけ、理論的・建築史的・民家研究的の三つのアプローチによって、海外の木造建築を含む多角的観点と実証的な知見を提供する。 [2011年3月]

明治期建築学史

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0869-5

角田真弓 著

A5判上製函入 本文492頁 口絵8頁

現在の「建築学」はいかに形成されたのか。明治期の西洋建築の移入と西洋技術・情報の受容過程を、一次資料の丹念な分析から跡付ける。近代工学教育における建築教育の特性、建築学の学問的領域の確立、建築とその関連領域（「工芸」「図学」「図案」）との境界を明らかにする労作。

【建築史学会賞受賞】

[2019年1月]

コー・ケーとベン・メアレア アンコール広域拠点遺跡群の建築学的研究

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0719-3

中川 武・溝口明則 監修

A4判上製函入 本文402頁 口絵2頁 挿図カラー640点・モノクロ177点 附図36枚

近年、国際的にも大きく注目され始めたクメール王国の主要な地方拠点であるコー・ケーとベン・メアレアを対象にして、広域に散在する遺跡の精確な基礎資料（遺跡目録、各地の遺跡分布図、主要寺院遺跡の伽藍平面図等）を作成し、細部調査によってクメール王国の実像に迫る研究成果の公開。

[2014年2月]

プレア・ヴィヘア アンコール広域拠点遺跡群の建築学的研究 2

定価 44,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0858-9

中川 武・溝口明則 監修

A4判上製函入 本文324頁 附図35枚

クメール王国の各地に点在する重要遺跡の建築学、岩石学、地理学、考古学など学際的な基礎資料を網羅的に収集し、クメール王国の実像に迫ることをめざした学術成果の第2巻。2012～2015年度まで行われたタイ国境の世界遺産プレア・ヴィヘア寺院の調査報告書。

[2018年11月]

世界建築史論集 中川武先生退任記念論文集

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0738-4

中川武先生退任記念論文集刊行委員会 編

B5判上製函入 2分冊

日本・東アジア篇274頁／西アジア・西洋・南アジア・カンボジア・ベトナム篇278頁 挿図390点

日本建築の生産史研究やエジプト、カンボジアの遺跡調査など多岐にわたり、早稲田大学の建築史研究を長年牽引されてきた中川武先生が退任を迎えるにあたり、その学恩を受けた研究室出身者によりまとめられた献呈論文集。 [2015年3月]

近世民家普請と資源保全

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0730-8

中村琢巳 著

A5判上製函入 本文316頁 挿図163点

江戸時代において、民家は建てられた後にどのような生涯を辿ったのか、当時の社会化された建築生産の仕組みは何か、古材リサイクルやメンテナンスなど資源保全から近世の民家普請を解明、木造建築である民家の独特なその生涯像を浮かび上がらせて、長期継続的な建築の存続を支えた当時の「建築に対する生命観」を提示する。資料「飛騨地方の居宅絵図集」を付す。【建築史学会賞受賞】 [2015年2月]

日本建築辞彙 [新訂]

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0673-8

中村達太郎 著 太田博太郎・稲垣栄三 編

A5判上製カバー装 本文626頁 挿図800点

東京帝国大学教授・中村達太郎(1860～1942)が単独で編纂、約4000語を収録し、以後の古建築用語辞典のほとんどの淵源であり、歴史学的辞書として、また民俗学的実用辞典として使用されてきた学界の一大文化遺産である名著の新訂決定版。五十音順に並び替え、多くの註を付した。

[2016年5月]

建築史研究の新視点 [全3巻]

西 和夫 著

隣接する諸領域の学際的研究により、双方の認識が深まり豊かな成果を獲得することは、学史的にも明らかである。著者の40年以上に亘る多角的視点による考察と豊富な史料博搜により、建築史と美術史はもとより文献史学、民俗学、文化財保存学等関連分野における稀有な出会いの実現を果たした。

〔第1巻〕 建築と障壁画

B5判上製函入 本文436頁 口絵9丁

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0356-0

[1999年2月]

〔第2巻〕 建築と民俗・芸能・技術・地震

B5判上製函入 本文446頁 口絵6頁

品切

〔第3巻〕 復原研究と復原設計

B5判上製函入 本文370頁 口絵8頁

品切

臨終の住まいの建築論

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0587-8

西村謙司 著

A5判上製函入 本文278頁 口絵8頁 挿図38点

古来、わが国では仏教美術における荘厳の本質を、死生の営みのあり方の問題として捉えてきた。本書は源信の『往生要集』などを対象として、「臨終行儀」や「迎講」などの行われる臨終の住まいをテーマとして、その史的展開と成立構造を明らかにした学際的成果の公刊である。

[2009年2月]

白井晟一の伝統論と和室

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0885-5

羽藤広輔 著

A5判上製カバー装 本文222頁 口絵8頁

「異端の建築家」を読み解く「原爆堂計画」や「親和銀行本店」といった作品が目され、その独特の美学が目される建築家・白井晟一（1905～83）の伝統論と和室の特徴について、残された言葉や図面、同時代の建築家との比較などから分析し、その新しい展開や真意に迫ることで、現代建築史研究に新たな視覚をもたらす。

[2021年1月]

源氏物語 その生活と文化

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0462-8

ひなた
日向一雅 著

A5判上製函入 本文340頁 挿図68点

『内裏図考証』『延喜式』等々によりながら、内裏の殿舎の構造や利用のされ方、貴族の一日の生活や国守の生活について検討、『源氏物語』の背景となっている平安貴族の生活と併せて考察することで、古記録をはじめとする文学以外の諸資料が文学を読み解く上で有効に活用できることを示す。

[2004年2月]

密教建築空間論

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0341-6

藤井恵介 著

A5判上製函入 本文426頁 口絵4頁 挿図83点

わが国における密教の開祖、最澄や弘法大師空海をはじめとする諸密教寺院において行われた灌頂や修法をキーポイントにして、それらの教義がどのように建築的空間や施設を容容していったのか、多くの史料や指図などを援用して具体的に論究し、宗教と建築が人間を核にダイナミックに展開する。

[1998年2月]

近世武家集団と都市・建築

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0411-6

藤川昌樹 著

A5判上製函入 本文304頁 挿図43点

本書は、慶長～寛永期の京都に展開された武家集団の居住の場の性格を解明することを通じて、近世武家集団の居住の特質について考察し、当該期の都市・建築像の理解に新たな知見を加え、静態的な空間分析が主流であった建築史学における都市史研究に動態的な分析を導入する意欲作である。

[2002年2月]

裏松固禪「いんぐうおよびしていのず院宮及私第図」の研究

定価 71,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0539-7

藤田勝也・京樂真帆子・岩間 香 編

A3判横上製函入 本文70頁 口絵254頁 挿図44点

江戸時代後期のわが国屈指の有職故実研究家、裏松光世(固禪、1736～1804)によって、公家の住宅やそのしきたりのあり方に関する様々な史料を収集し校訂した著書を準備したのが、『院宮及私第図』である。有職故実はもとより、建築、歴史、美術、国文学などに影響を与える史料の翻刻と解題、研究、

[2007年2月]

裏松固禪「宮室図」詳解

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0797-1

藤田勝也 著

B4判上製函入 本文152頁 口絵112頁

江戸後期の有職故実家、裏松固禪(1736～1804)が編纂した「宮室図」の全容を影印、紹介する。図版篇、本文篇の二部構成からなり、詳細な註解を施してその意義を明らかにする。美術史、国史、建築史、住宅史の分野に新知見を提示する労作。

[2018年2月]

北京の四合院 過去・現在・未来

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-0568-7

北京四合院研究会 編

B5判カバー装 本文216頁 口絵12頁 挿図169点

北京は長い歴史を有する都市であるが、一方で現代の都市としての機能も担っている。本書は北京の伝統的な四合院住宅からなる街区の歴史的な価値と雑院化した住環境の現状の問題点を再確認すると共に、現在達成されつつある都市保存政策の有効性と限界、東アジアの中での評価について検討した。

[2008年2月]

関東地方の屋敷林

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0748-3

不破正仁 著

A5判上製函入 本文308頁 口絵12頁 挿図205点

「屋敷林」は建築学や、農林学・地理学・気候学等の分野で多角的に評価されている。屋敷林全体の配置・形態について、800枚以上の明治期の銅版画を分析し景観構成要素を解明し、さらに関東地方を対象に約100件の屋敷林の現状調査を行い、景観史研究に新たな着眼点を提示する。

【日本造園学会賞(著作部門)受賞】

[2016年2月]

木造建築遺産保存論

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0861-9

マルティネス アレハンドロ 著

A5判上製函入 本文392頁 口絵8頁

従来、「木」対「石」の構図で語られてきた、日本と西洋の建築遺産保存の比較。本書は、この対立の構図を乗り越えるために、両者の木造建築遺産保存に注目し、建築遺産の評価基準の違いなどの理念的な側面を踏まえつつ、日本の特質を浮かび上がらせ、その課題と今後の展望を論じる。

【日本イコモス奨励賞受賞】

[2019年2月]

古代の神社造営

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0894-7

丸山 茂 著

A5判上製函入 本文224頁

古代の神社建築について、『日本書紀』『古事記』といった史料の記述から、古代の神社について文献史料による歴史の提示を試みることで、神社建築の形成の経緯を考察し、古代神社史から中世建築史への橋渡しを論述する。

[2021年7月]

近世寺社境内とその建築

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0403-1

光井 渉 著

A5判上製函入 本文416頁 挿図77点

日本近世の寺社境内とそこに所在した建築を対象とし、寺社境内の空間形成に携わった集団が、いかなる条件のもとで何を指向し何を創り上げたかといったプロセスを解明し、近世社会の様相を寺院境内とその建築から描く。社会・権力・民衆・寺社との相関関係を如実に表す事例を取り上げ検討。

【建築史学会賞受賞】

[2001年11月]

木割表現論

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0731-5

山岸吉弘 著

A5判上製函入 本文296頁 挿図80点

木割書とは、主に数的比例関係によって建築を表現する理論「木割」を中心に、装飾図案や生活用品の雛形など広く建築に関わる要素を記録した史料を指す。本書は「王子造り」という建築様式に着目し、多彩な原典とともに木割書の世界をより深く追求する意欲的研究である。

[2014年12月]

日本建築技術史の研究 大工道具の発達史

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0465-9

渡邊 晶 著

A4判上製函入 本文512頁 挿図800点

縄文時代から江戸時代まで大工道具の発達過程を建築生産技術と関連付けて明らかにした決定版。800点を越す写真図版と表により実証的に説明し、科学史、考古学、建築、歴史と多分野に亘り必備の書。

[2013年6月 (再版)]

建築技術比較発達史の研究 ユーラシア大陸の西と東

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0735-3

渡邊 晶 著

A4判上製函入 本文496頁 図48頁 挿図430点

前著『日本建築技術史の研究』(2013年重版)に続き、本書ではユーラシア大陸の西と東に研究対象を広げ、斧・鑿・鋸・カンナなどの建築用主要道具の発達史を明らかにし、つくられるモノ(木の建築)とつくるヒト(建築工人)の関連の中で、日本における建築技術史上の画期の背景や要因を広い視野から考察する。

[2015年2月]

西洋建築史

建築美学講義

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0555-7

上松佑二 著

A5判上製カバー装 本文260頁 挿図143点

著者は、『世界観としての建築』や『建築空間論』の執筆で著名な建築美学論者である。永年に亘り東海大学で建築空間論を講義されてきた成果を纏めた本書は、第1講「建築美学の課題」から始まり、第13講「空間美—美的空間体験」まで、西洋建築史のほとんどの領域を叙述する広範囲なものである。

[2008年3月]

建築の形態と比例の研究

古代ギリシアから現代へ

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0475-8

としお
浅野捷郎 著

A5判上製函入 本文320頁

古代ギリシアから現代にいたる建築の形態と比例の研究書。ここでいう建築比例とは、建築形態の量的規定の操作概念および方法と定義され、建築形態とは建築構成の基本形式と寸法関係を定義する。ブルネレスキヤル・コルブュジエなどを例にして、それらの建築形態の関係を分析する。

[2004年7月]

アルベルティ「建築論」

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0010-1

L・B・アルベルティ 著 相川 浩 訳

B5判上製函入 本文390頁 口絵6頁 挿図44点

アルベルティが著した建築論は、西洋建築史上2番目の古典であり、後世に大きな影響を与えてきた。建築技術の細部から都市問題まで、建築美の理想的特性を説いた本書は、古典主義建築の本質を説くとともに、ルネサンスから近世へかけての古代ローマ的装飾様式の資料としても重要である。

[1982年11月]

パルテノンの世界

その建築システムの復元的考察

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0584-7

池 浩三 著

B5判上製カバー装 本文198頁 挿図75点

世界の建築史上、永遠の規範であり、西欧文明の象徴的頂点に位置するパルテノン神殿は、古来より黄金比の完璧な原型とまで讃えられてきた。

本書は、その偶像的建築形態に対し、実地調査による欧米の学界を驚かす様々な発見・知見を実証し、認識を新たにする題目すべき数々の貢献を提示した。

[2008年11月]

様式の生成 19世紀ドイツ建築論における「様式統合」理念に関する研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0779-7

石川恒夫 著

A5判上製函入 本文432頁 挿図98点

19世紀ドイツ建築論における「様式統合」理念に関する研究の公刊。付録に「いかなる様式で我々は建築すべきか」(H・ヒュプシュ)の貴重文献を収録。

[2017年2月]

バスティード フランス中世新都市と建築

定価 4,730円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0598-4

伊藤 毅 編

B5判カバー装 本文196頁 図4頁

バスティード (bastide) とは、13世紀半ばからおよそ100年の間にかけて建設された一群のヨーロッパ中世新都市のことである。本書は2005年から「バスティード研究会」が行ってきた、創立の歴史的考察から、詳細な実地調査報告までを含む3年度にわたる一連の共同研究の成果である。

[2009年8月]

フリースラント オランダ低地地方の建築・都市・領域

定価 4,730円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0852-7

伊藤 毅 編

B5判カバー装 本文236頁 図8頁

オランダ北部に位置するフリースラント州における、中世より独自の文化的・歴史的な連繋をもって続いてきた「11都市」と呼ばれる都市群を、実地調査と古地図などの資料をもとに分析、その背景を明らかにする、数年に及ぶ詳細な言質調査をベースに学際的視点から明らかにした我が国初の成果であり、フィールド調査を通してあらたな都市史の方法論の構築を目指す。

[2020年3月]

哲学者の語る建築 ハイデガー、オルテガ、ベゲラー、アドルノ

定価 3,080円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0577-9

伊藤哲夫・水田^{かずゆき}一征 編・訳

B6判上製カバー装 本文224頁

人間存在の根底に関わる問いから建築を語るハイデガー、広く一般に生の事態として建築をわかりやすく説くオルテガ、ハイデガーをもととして建築と美しさを問うベゲラー、近代建築への真の専門家による批判的分析を唱えるアドルノ、本邦初訳の文献による、4人の哲学者たちの建築をめぐる思惟。

[2008年8月]

スペイン初期中世建築史論 10世紀レオン王国の建築とモサラベ神話

定価 17,600円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0786-5

伊藤喜彦 著

A5判上製函入 本文696頁 図8頁 挿図213点

本書は異なる文化が接触する辺境であり、社会のパラダイムが大きく変化する過渡期であった10世紀のイベリア半島初期中世におけるプレロマネスク建築を、文献資料と現存する遺構の造形・工法の分析から、知られざる初期中世の建築と社会を描き出し社会的文脈と建築的造形とから論じた本格的な研究書である。

【建築史学会賞受賞】

[2017年2月]

ウィーンのシュテファン大聖堂

定価 19,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0787-2

岩谷秋美 著

A5判上製函入 本文544頁 挿図241点

ドイツ後期ゴシックを代表する建築であるウィーンのシュテファン大聖堂。様々な要素の複合体として完成した点に注目し、独創的な形態や荘厳な作用が導き出される原理を明らかにするとともに、その背景となる動機を解き明かす。

[2017年2月]

近代建築 [特装版]

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0680-6

オットー・ヴァーグナー 著 樋口 清・佐久間博 訳

A4判布装上製函入 本文218頁 (内2色刷り188頁) 挿図570点

“建築の必要様式”を主張した近代建築の古典的教科書とされる本書は、建築が歴史様式や折衷主義の混沌たる様相を呈していた19世紀末、建築の正統に位置し、近代建築理念を真に体系化し、広範な影響を及ぼした。原書と装幀・判型を同じくし、本文全頁に図版を配置した、改訂新訳と相俟つての豪華愛蔵版。

[2012年7月]

建築講話 I

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0499-4

ヴィオレ＝ル＝デュック 著 飯田喜四郎 訳

B5判上製函入 本文424頁 口絵18頁 挿図105点

中世建築を広義の立脚点から解説していったヴィオレ＝ル＝デュックの軌跡は、結論として普遍的な建築哲学に到達している。『建築講話』は全歴史を通じて最も刺激的な建築論のひとつとなり得ている。本書は全20講よりなり、I巻は第10講までを詳細な注釈を付して訳出した名著。

[1986年4月]

ル・コルビュジェの手

定価 1,980円 (税込)

ISBN978-4-8055-0530-4

アンドレ・ヴォジヤンスキー 著 白井秀和 訳

A5判上製カバー装 本文138頁 挿図20点

著者は20年余にわたるル・コルビュジェのアトリエで後年はチーフとして、各地の著名なユニテ・ダビタシオンや数々の設計・建設に協働して携わった腹心の部下である。ル・コルビュジェ生誕100年を記念し、「手」をキーワードに師匠を偲んで書かれた生身のル・コルビュジェの追憶である。

[2006年11月]

アントニオ・サンテリア「新都市」註解

定価 57,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0541-0

鶴沢 隆 編・解説

A3判上製函入 2分冊 (カルトン入10点 解説篇104頁)

ほぼ100年前に「2000年の建築をめざして」とも謳われた「未来派建築」の中心的建築家A・サンテリア。1914年に発表された「新都市」のドローイングは、近代建築の到来を予告するメルクマールとして歴史に刻まれている。その主要作品173点の原寸オールカラーによる復刻が実現した。

[2007年2月]

パリの歴史的建造物保全

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0734-6

江口久美 著

B5判上製函入 本文288頁 口絵2頁 挿図160点

1897年設立のパリ市の諮問機関「古きパリ委員会 (CVP)」が、いかに歴史的記念物保全に都市史的視点を導入して、その後のフランスの豊かな都市景観に大きく貢献している歴史的環境保全制度の展開への基点となりえたかを明示する。

[2015年1月]

イングランド住宅史

定価 40,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0480-2

大橋竜太 著

B5判上製函入 本文700頁 挿図581点

原始時代の住居から現代建築にいたるまで、イングランドにおける、すべての時代の住居建築に関して、政治・社会史、建築史などの広い分野から全編を書き下ろして叙述、また数多くの写真や図面を掲載し、日本の「建築学」をベースにした総合的な視点から初の通史としての全体像を提示する。

[2005年2月]

ラファエッロと古代ローマ建築

定価 4,058円 (税込)

ISBN978-4-8055-0273-0

小佐野重利・^{カン}姜 ^{ウン}雄 訳・編

A5判上製カバー装 本文230頁 挿図45点

イタリア盛期ルネサンスを代表する画家ラファエッロは、サン・ピエトロ大聖堂他の建築家としても著名である。本書はパトロンの教皇レオ10世宛ての彼の古代ローマ建築遺跡の調査報告書翰の翻訳・註解を通して、壮大無比な『建築論』を構想するに至る未完の建築家像を再構築した労作。

[1993年11月]

建築オーダーの意味

古代・中世・ルネサンスの古典オーダー

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0466-6

ジョン・オナイアンズ 著 日高健一郎 監訳

A4判上製函入 本文406頁 挿図203点

古代から近世に至るオーダーの変遷を事例と史料に基づいて記述する。ウィトルウィウスやアルベルティなどを例にオーダー成立の史的背景、古典様式の理念など、形態と様式の背景にある建築思潮の系譜と発展を重視し、西洋建築のみならず美術史、文化史などの研究者にとっても重要な内容を含む。

[2004年9月]

中世後期シエナにおける都市美の表象

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0692-9

片山伸也 著

A5判上製函入 本文288頁 口絵8頁 折込地図1丁 挿図165点

都市国家文化の繚乱期にあったイタリア中部トスカーナ州シエナを対象として、都市共同体の美意識が都市空間に主体的に表出する様を建築単体のもつ芸術性も含めて「都市美」と定義し、都市国家の様態ごとの都市美の表象を明らかにする。都市国家の体制と都市空間の相関性を示した、今日の示唆にも富む労作。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2013年1月]

ゴシック様式成立史論

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0689-9

加藤耕一 著

A5判上製函入 本文356頁 挿図212点

ゴシック様式の黎明期に焦点を絞り、「構築術的空間論」と名付けた方法論でゴシックという建築様式の始まりを再定義し、その成立を明らかにする。この方法論は、建築の構法に着目した具体的な建築空間論であり、重要で独創的な視点をもつ極めて先駆的な研究として西洋建築史学に新たな方向を提示する。
[2012年11月]

ゼムパーからフィードラーへ

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0760-5

河田智成 編訳

B6判上製カバー装 本文260頁 挿図5点

ゼムパーの『建築芸術の四要素』とフィードラーの『建築芸術の本質と歴史』、二つの著名な論考を収録し解題を加えた。ゼムパーとフィードラーは、ともに建築と美術の根源的生成における近代理論付けに尽力。ゼムパーの著『様式』に先駆けた、本書の考察に淵源をもつゼムパーの重要な文献の本邦初訳。
[2016年5月]

近現代建築史論 ゼムパーの被覆／様式からの考察

定価 5,280円 (税込)

ISBN978-4-8055-0785-8

川向正人 著

A5判上製カバー装 本文296頁 挿図120点

19世紀ドイツの建築家ゼムパー（1803—1879）の思想には、建築を部分的に変化させるのではなく、現象として見える像の全体を変えてしまうほどの力がある。この場合、「現象として見える像の全体」とは様式に他ならず、それは新様式創生論とも言えるであろう。本書はその様式の本質と、わが国を初め現代建築への多大な影響を論じる。
[2017年5月]

ジェフリー・スコット 「ヒューマンイズムの建築 趣味の歴史の研究」 注解

定価 68,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0662-2

桐敷真次郎 編著

B5判上製函入 本文960頁 挿図522点

1924年刊行の本書の著者は、イタリアのルネサンス・バロック建築への深い洞察から、真に生命力のあるヒューマンな建築の本質を抽出し、現代まで版を重ねることで、様々な建築の動向を批判しながらアクチュアルな規範を提供し続けた。詳細な訳注と解説、索引を付し、余すことなく注解した定本となる決定版。
[2011年11月]

ル・コルビュジエと近代絵画 二〇世紀モダニズムの道程

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-0864-0

呉谷充利 著

A5判上製カバー装 本文352頁 図4頁

近代建築を代表する建築家であるル・コルビュジエの絵画に着目し、1910年代の初期の絵画から1950年代までのその変遷を追いながら、これと並行する建築の変化も検証することで、ル・コルビュジエの絵画と建築をひとつの統一的な芸術活動としてとらえ、彼の創造的精神を考察する。
[2018年12月]

建築論全史 古代から現代までの建築論事典〔全2巻〕 セット定価71,500円(税込)

ハンノ・ヴァルター・クルフト著 ちく かくぎょう 竺 覧 訳

本書は、ウィトルウィウスから現代までの建築論を通じて、建築がいかに建てられ、いかなる法則によって構築されてきたのか、を全史的に論じた通史である。各々の時代に著された建築論を知ることが当時の社会・政治・宗教・風土・習俗・権力構造など換言すればどのような「時代精神」によって構築されてきたかを如実に教えてくれる。これほど包括的かつ広範囲に建築理論を扱った歴史書はなく、世界各国で翻訳され、読まれている建築論事典。

第Ⅰ巻

品切

B5判上製函入 本文440頁 挿図151点

[2009年9月]

第Ⅱ巻

定価38,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0607-3

B5判上製函入 本文560頁 挿図56点

[2010年6月]

聖堂の現象学 プルーストの『失われた時を求めて』にみる

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-0517-5

黒岩俊介 著

A5判上製函入 本文370頁 挿図34点

小説という言語媒体を通して、時と空間を超越することによって、プルーストは自らの内面世界に、回想と記憶の大聖堂を構築する。本書は彼の『失われた時を求めて』に登場する聖堂を取り上げ、その建築体験の描写から建築的事象の本質を捉えようとした俊英の学際的意欲作である。

[2006年1月]

叡智の建築家 記憶のロクスとしての 16-17世紀の庭園、劇場、都市

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-0712-4

桑木野幸司 著

A5判上製カバー装 本文544頁 口絵8頁 挿図62点

未曾有の情報の洪水と伝統的世界観の崩壊を背景に、初期近代ヨーロッパの知識人、すなわち「叡智の建築家」が設計した知の建築群をめぐる「精神建築史」の旅路。建築・美術史を越え多領域を横断する独創的研究成果である。地中海学会ヘレンド賞受賞のイタリア語版を、著者自ら改稿した日本語オリジナル版。

[2013年12月]

ゴシック建築リブヴォールのルーツ

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-0794-0

五島利兵衛 著

A5判上製函入 本文268頁

ゴシック建築石造天井リブヴォールのルーツの解明に必要な施工法の問題としてその曲面（パネル、ウェブ）がフリーハンド工法 freehand method で造られたという推定を理論的に考察し、実験的に検証する力作。

[2017年11月]

建築家アンリ・ラブルースト

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-0720-9

ピエール・サディ著 丹羽和彦訳 福田晴虔編

A4判カバー装 本文104頁 挿図181点

フランス19世紀の建築家・建築教育者であり、名建築と謳われるサント・ジュヌヴィエーブ図書館の設計者であるラブルースト (1801～1875)。本書は1976年に開催されたラブルースト展を期に収集された資料を基に企画された図録であり、ラブルースト研究の一級史料。

[2014年4月]

崩壊について

定価 2,860円 (税込)

ISBN978-4-8055-0527-4

佐藤 彰著

A5判上製カバー装 本文242頁 挿図243点

「崩壊」。建造物が免れえぬこの運命に人びとはどのように対してきたか。建築や構造物は人間が造り上げた以上、生命体と同様ついには死にいたる。ピラミッド、ピサの斜塔やヨーロッパの教会堂、出雲大社や羅城門から文学作品まで、古今東西の事例の「死にいたる諸相」を検視した建築崩壊の歴史。

[2006年8月]

建築における近代

19世紀欧米の建築家・
建築産業に関する研究

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0621-9

佐藤 彰著

B5判上製函入 本文490頁 挿図217点

19世紀の欧米に建築産業が誕生する過程を主題にして、建築における近代を、建築を生み出す担い手としての建築家と建築産業の営為を通して考察した。当時の多くの雑誌の様々な広告に掲載された大工道具や機械などの図に着目して、建築産業構造の成立を論じたユニークな歴史研究。

[2010年2月]

ル・コルビュジェ書簡撰集

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0764-3

ジャン・ジャンジェ編 千代章一郎訳・註解

A4判上製函入 本文662頁 口絵16頁 挿図60点

ル・コルビュジェがその生涯で送った書簡の中から300通余りを精選し年代順に編纂、詳細な訳註を付したフランス語原著の翻訳書であり、家族への手紙や建築設計に関わる手紙、ピカソや丹下健三といった幅広い交際を示す私信、政治家への意見状などを収録。ル・コルビュジェの作品理解を深める一助となる必携書。

[2016年6月]

南イタリア都市の居住空間

定価 49,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0487-1

陣内秀信編

A4判上製函入 本文560頁 口絵16頁 挿図900点

アマルフィ (カンパーニヤ地方)、レッツェ (プーリア地方)、シャッカ (シチリア)、サルデーニャ (島) など南伊の伝統的都市を永年調査した実測図面や住宅内部の写真を駆使し、建築類型学的手法を用いて、それらがいかにか形成・変容してきたかを人間生活と建築を中心に分析考察する。[英文併記]

[2005年4月]

建築史 [全2巻]

セット定価 115,500円 (税込)

オーギュスト・ショワジー 著 桐敷真次郎 訳

フランス19世紀に活躍した才能豊かな建築家ショワジーが、世界のあらゆる建築様式の根底にある、共通の原理・法則を解明。徹底的に構築することに眼目をおいたその建築論は、ル・コルビュジエをはじめ、多くの建築家に影響を与えた現在も未来も読み継がれる世界建築史の古典的名著。原著で不透明な記述に訳注を補足、巻末には詳細な索引を作成した。

上巻

定価 49,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0561-8

B5判上製函入 本文768頁 挿図412点

[2008年1月]

下巻

定価 66,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0562-5

B5判上製函入 本文964頁 挿図455点

[2008年10月]

ルドゥー「建築論」註解 [全2巻]

セット定価 56,100円 (税込)

白井秀和 編著

クロード＝ニコラ・ルドゥーは、フランス大革命期の新古典主義建築家である。本書は彼が崩れゆく時代から後世へ向けて発信した遺言ともいえる建築論である。壮大な幾何学的図形に純化された幻視の建築であり、形態が用途を表現する「語る建築」の造形概念を現代の建築界にもたらし、永遠の未来を希求して現在も飛翔を続ける空前絶後の建築論の完訳。

I 磯崎新・序

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0267-9

B4判上製函入 本文321頁 挿図445点

[1993年11月]

II

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0268-6

B4判上製函入 本文277頁 挿図443点

[1994年10月]

パラディオ図面集

定価 110,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0274-7

O・B・スカモッツィ 著 長尾重武 編

シート寸法 (479×650mm, 479×325mm) 布貼函入 別冊解説89頁

パラディオ研究に決定的な貢献をするとともに、建築の歴史に偉大な記念碑を打ち立てた本図面集には、スカモッツィが驚くほど詳細な測量に基づいて描いた平面図、立面図、断面図の精巧なエッチング図のうち現存建物の30棟62図をすべて原寸大に複製して収録した豪華図面集のファクシミリ版。

[1994年1月]

ドイツ新古典主義建築

定価 29,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0301-0

杉本^{としまさ}俊多 著

B5判上製函入 本文492頁 挿図267点

18世紀後半から19世紀前半にかけてのドイツ新古典主義建築の様式変遷の過程に焦点を当て、その形態の単純化、体系化の論理を明らかにした労作。ヴァインブレナー、ジリー父子、とりわけシンケルの作品分析とデュランなどフランス建築思潮との比較を通し、その造形理念を明確にした労作。

【日本建築学会賞受賞】

[1996年2月]

ピエール・ル・ミユエ「万人のための建築技法」注解

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0450-5

鈴木 隆 訳・解説

A4判上製函入 本文174頁 挿図82点

17世紀にパリで刊行されたル・ミユエの建築書は、都市空間の構成要素としての一般住宅家屋の重要性に着目し、現実にしてその合理的な建築形態を追求した先駆的な作品である。その内容は現代の都市計画や住宅建築が抱える課題に対しても大きな示唆を与え、本書の資料的価値を高めている。

[2003年11月]

パリの中庭型家屋と都市空間 19世紀の市街地形成

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0489-5

鈴木 隆 著

A5判上製函入 本文456頁 挿図56点

アパートマン形式の中庭型共同住宅家屋により構成される典型的なパリの市街地の19世紀における都市空間の形成過程を通じて、その成立条件を家屋や街路などの空間的要素と、公正証書原本や土地台帳図などの一次資料から、どのような実態と特性をもっているのかを詳細に分析した都市論。

【日本不動産学会著作賞・都市住宅学会賞受賞】

[2005年2月]

フィリベール・ド・ロルム 建築書 注解

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0955-5

鈴木 隆 編・著

B5判上製函入 本文770頁

フランス人が著した先駆的な建築書として重要な位置付けをもつ、16世紀フランス・ルネサンスの建築家フィリベール・ド・ロルムが建築に関する主題を総合的に論じた二つの著作を日本語に翻訳し、さらに読解の補助となる訳注と解説を付して、その全容および意義を明らかにする。

[2022年3月]

ヴィクトリアン・ゴシックの崩壊

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0307-2

鈴木博之 著

B5判上製函入 本文450頁 挿図118点

19世紀後半、ヴィクトリアン・ゴシック末期の英国建築の状況を日本建築との関連性、当時の建築保存論、様式論の転換という三つの視点から明らかにする。コンドル、スコット、ラスキン等の建築論を通じ、体制と反体制、英国建築の精神風土、その特質の意味を問い、新しい局面を開拓した論文集。

【日本建築学会賞受賞】

[1996年2月]

回廊 KAIRO 鈴木恂写真集

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0449-9

鈴木^{まこと}恂写真・文

B4判変形カバー装 本文268頁 モノクロ写真235点

ここでいう「回廊」とは、柱廊、列柱廊、周廊、拱廊、通廊などを含めた意味で使われる。形態的、様式的、技術的な言葉の厳密さを採らず、それらがもたらす空間的または風景的な意味に重きをおいている。世界150箇所の「回廊」をつなげて235枚の写真におさめた、建築家40年の空間遍歴の記録。

[2004年9月]

建築シンボリズム 帝政ローマと中世における

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0407-9

ボルドウィン・スミス 著 河辺泰宏・辻本敬子・飯田喜四郎 訳

B5判上製函入 本文358頁 挿図210点

著者は建築史の分野で、建築のシンボリズムという極めて困難なテーマを主軸として、新たに古銭学・典札学・神話学の成果を動員し、オリエント、古代ギリシャ、ローマ、中世、ビザンティン、イスラムに及ぶ研究手法を確立した。古代から中世に及ぶ建築史の体系的な再構築を試みた歴史的名著。

[2002年2月]

建築美学

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0447-5

ヘルマン・ゼルゲル 著 吉岡健二郎 訳

A5判上製函入 本文466頁

本書は、ドイツの建築家、建築理論家ヘルマン・ゼルゲルが、1921年に「建築芸術の理論」叢書として刊行した建築美学の古典である。巻末に芸術理論家ダゴベルト・フライの高名な論文「建築の本質規定」を付して、建築美学の最初の文献であるゼルゲルの考察の高邁な本質を論じる。

[2003年11月]

ル・コルビュジエ図面撰集：美術館篇

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0759-9

千代章一郎 編

A4判上製函入 本文336頁 挿図202点

ル・コルビュジエが残した3万5千点に及ぶ図面資料のうち、重要な図面の背景・主題・手法の解釈などを行い研究。本巻ではアムダバード、東京、チャンディガールの美術館の制作過程を復元・再編し図面を収録。またド・カンシーなどの美術館論を考察し、ル・コルビュジエ独自の「美術館」の位置づけを行う。【日本建築学会賞受賞】

[2016年3月]

新しい住居 つくり手としての女性

定価 2,750円 (税込)

ISBN978-4-8055-0473-4

ブルーノ・タウト 著 斉藤^{ただし}理 訳

B5判変形カバー装 本文104頁 挿図65点

第二次世界大戦前到来日し、桂離宮の評価などにおいて日本・世界の建築界に多大な影響を与えた建築家ブルーノ・タウトによって著された本書は、女性を対象として建築的視点から煩雑な家事作業をいかに軽減できるかを説く。建築家タウトの住宅論を理解する「概説編」として刊行する。

[2004年8月]

一住宅

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0474-1

ブルーノ・タウト 著 斉藤 理 訳

B5判変形カバー装 本文138頁 図8頁

ブルーノ・タウトがベルリン郊外に計画した自邸の設計プロセスを、始めから終わりまで事細かに解説した本書は、建築家タウトの住宅論の「実践編」として読み解くことができる。原書にはない彩色図版・記者撮影の現状写真を参考として付し、本邦初訳にて刊行する。

[2004年8月]

都市の冠

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0676-9

ブルーノ・タウト 編著 杉本俊多 訳

B5判変形カバー装 本文176頁 挿図83点

建築、都市に関する自らの論文と設計案中核としつつ、表現主義の詩人でSF小説家のシェーアバルト、政治ジャーナリストのパロン、美術評論家であったベーネという3人の支持者の文章を加え、タウト自身が独特の編集を行った、彼の作品ともいえる書籍。邦訳にあたっては、原著の構成を忠実に再現した。

[2011年12月]

建築講義要録

定価 8,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0722-3

ジャン・ニコラ・ルイ・デュラン 著 丹羽和彦・飯田喜四郎 訳

B5判上製カバー装・横開き 本文232頁 挿図78点

本書は、フランス国立理工科学学校において、1799年から1834年まで建築概論の講義を担当した建築家・美術理論家デュラン教授の講義録全2巻を邦訳し、多くの図版を補足として加えて1冊にまとめたものである。建築の経済性及び実用性を強調し、ヨーロッパ全体に影響を与えた革命的な建築理論を示す。

[2014年7月]

アカデミーと建築オーダー

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0486-4

土居義岳 著

B5判上製函入 本文580頁 挿図489点

西洋建築において古典主義の5つのオーダーという造形の文法的体系はその奥義とみなされている。フランスの王立アカデミーにおいて、制度としての建築のオーダーの体系あるいは雛形が編纂されていった実態を多くの現地資料を駆使して明らかにするオーダー論の労作。

[2005年4月]

知覚と建築

クロード・ペロー『五種類の円柱』とその解説史

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0778-0

土居義岳 著

A5判上製函入 本文468頁

17世紀に出版されたクロード・ペロー「太古人たちの方法による五種類の円柱のオルドナンス」の翻訳とともに、ペローを論考した主要論文の解題を収録。訳者自身の読みを追加して、ペローを核とする西洋建築思想の展開をとりまとめた文章も掲載。

[2017年2月]

建築家ガウディ全語録

定価 39,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0554-0

鳥居徳敏 編・訳・注解

B5判上製函入 本文660頁 挿図408点

世界の建築史上、アントニオ・ガウディの存在ほどその建築意匠・構想が、独創的かつ秘密に満ちた建築家はいない。本書は焼失を免れ現存する全てのガウディ直筆の文章に、公文書や、周囲の人間が記録したコメントや会話を網羅・収集し、詳細な注を加えた。ガウディ初の全語録の公刊である。

[2007年9月]

建築論の射程 [全2巻]

セット定価 46,200円 (税込)

中村^{うずし}貞志 著

「建築の理論」については、西欧の世界で2000年以上の時代におよぶ諸思想の蓄積がある。本書はアリストテレス、キケロ、プラトンから、アルベルティ、カント、デカルト、ハイデッガー、ル・コルビュジエに至るまで、世界的視野に立ち諸々の建築思想を包括。ディアテシスのアイデア（適所性の理念）という建築論の根元的な課題に集成しようとする新しい建築論の誕生。

ディアテシスのアイデア I

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0377-5

B5判上製函入 本文328頁 挿図14点

[2000年2月]

ディアテシスのアイデア II

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0378-2

B5判上製函入 本文390頁 挿図36点

[2001年2月]

フィッシャー・フォン・「歴史的建築の構想」注解

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0296-9

エルラッハ

中村恵三 編著

B4判上製函入 本文304頁 挿図168点

1721年ハプスブルグ家の宮廷建築家フィッシャーにより出版された史上初の世界建築史銅版画集「歴史的建築の構想」は、バロック的コスモポリタニズムから新古典主義に至る世界観と建築思潮の変遷を理解する上で欠くことのできない貴重な研究資料である。その全図版を翻刻し、全貌を解明する。

[1995年2月]

シトー会建築のプロポーション

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0488-8

西田雅嗣 著

B5判上製函入 本文526頁 口絵2頁 挿図115点

フランス中世のシトー会教会堂20件の詳細な実測データ・実測図を基に、尺度・寸法という欧米においても十分に研究されてはいない視点を持ち込み、現代の建築に対しても多くの示唆を含みうる中世建築のプロポーションの具体的な姿を論じる。

【建築史学会賞受賞】

[2005年5月]

フランス・クリュニー地方のロマネスク教会堂建築群

定価 26,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0870-1

西田雅嗣 著

A4判横上製函入 本文320頁 口絵24頁

ロマネスク教会堂が数多く遺るフランス・ブルゴーニュ地方クリュニー群を中心とした地域の村落に散在する、あまり知られていない21のロマネスク教会堂について、10年間にわたる建築考古学調査の成果として、実測図面と写真に解説を付す。仏語併記し、日本だけではなくロマネスク建築研究の基礎資料とすべく刊行する。

[2019年2月]

盛期ルネサンスの古代建築の解釈

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0535-9

飛ヶ谷潤一郎 著

B5判上製函入 本文442頁 口絵4頁 挿図191点

ルネサンスの建築家たちが設計において手本とした古代建築が、彼らの作品にいかなる理由で、そしてどのように表現されているのかという問題を設定し、古代建築の解釈を検討することにより、誤解という否定的側面が、新たな建築の創造という側面で重要な役割を果たしたことが論じられる意欲作。

【地中海学会ヘレンド賞・日本建築学会著作賞・建築史学会賞受賞】

[2007年1月]

ハギア・ソフィア大聖堂学術調査報告書

[改訂版]

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0479-6

日高健一郎・佐藤達生 編

B4判上製函入 本文326頁 付図9点

ビザンティン様式の教会堂として最大最美の建築であるトルコ、イスタンブールのハギア・ソフィア大聖堂の実測調査の報告書。各国の専門調査官を動員し、光学測量を駆使して、世界遺産に登録された歴史的建築物の現状記録とその分析的考察として、きわめて大きな学術的意義をもつ。[英文併記]

【建築史学会賞受賞】

[2004年8月]

対比

定価 8,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0790-2

A・ウェルビー・N・ピュージン 著 佐藤 彰 訳編

A4判上製カバー装 本文140頁 折込1丁 挿図76点

A・ピュージン (1812～1852) は、現在のイギリスの国会議事堂に携わった建築家である。本書は、ゴシック建築の構造だけではなく、主に宗教的道德性の優劣を表明した歴史上、著名な文献である。その崇高な建築と悪しき建築を対比し、彼の信条告白を図化した図版の文字を、訳・編者が世界ではじめて全文解説し、解題を付して本書の歴史的意義を位置づけた一級史料である。

[2017年7月]

都市への給水 W・K・バルトンの研究

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0750-6

平山育男 編著 金出ミチル 訳

A5判上製函入 本文588頁 挿図258点

明治20年に英国より派遣され、我が国の近代上下水道及び衛生施設の調査・設計と日本人技術者の育成に尽力したバルトンの衛生工学における業績について、著書『都市への給水』の初の邦訳及び解説によりその全貌を明示する。

[2015年11月]

イタリア・ルネサンス
建築史ノート〈1〉 **ブルネッレスキ**

定価7,150円(税込)

ISBN978-4-8055-0667-7

福田晴虔 著

A5判上製カバー装 本文344頁 挿図179点

いまだに多くの妄説と誤解に包まれたイタリア初期ルネサンスの建築家ブルネッレスキ(1377-1446)を、史料と遺構の徹底的な再検討を通じて洗い直し、「建築」の独自性追求という視点から捉え直す試み。

【建築史学会賞受賞】

[2011年9月]

イタリア・ルネサンス
建築史ノート〈2〉 **アルベルティ**

定価7,150円(税込)

ISBN978-4-8055-0668-4

福田晴虔 著

A5判上製カバー装 本文432頁 挿図193点

15世紀後半、市民社会の理想が急速に色褪せてゆく「初期ルネサンスの危機」の中にあつて、「万能の天才」とされ、また容易には素顔を顕さない「仮面の人」ともされる孤高の人アルベルティを、殊更に「建築家」という営みに向寄せたもの、またそこに彼が求めたものはなんであつたか。その多面的な活動の中での建築の位置を、新たな視点から著作と作品の再解釈を通じて探つてゆきたい。[2012年8月]

イタリア・ルネサンス
建築史ノート〈3〉 **ブラマンテ**

定価7,150円(税込)

ISBN978-4-8055-0669-1

福田晴虔 著

A5判上製カバー装 本文456頁 挿図198点

16世紀初頭のローマを中心とした「盛期ルネサンス」建築の創始者として位置づけられるドナート・ブラマンテ。ブルネッレスキが先鞭をつけアルベルティがその体系化を試みた建築技術の独自性追求という課題を、ブラマンテやその世代の人々がいかに受け継ごうとしたか。

[2013年9月]

ヴィラール・ド・オヌクール画帖の研究Ⅲ 定価31,900円(税込)

ISBN978-4-8055-0718-6

藤本康雄 著

B5判上製函入 本文348頁 口絵1丁 巻末口絵132頁 挿図224点

画帖の各図版並びに諸図柄の寸法構成理念に着目し、当時の尺度格子による図形解析を試みながら緻密に独自の解釈を拡げてきた著者によるシリーズ3作目にして、渾身の集大成。巻末に著者作成の全面帖ローマ時/マニユアリス時共通格子解析図を載録し、画帖全体に及ぶ幾何学的精密度を一層輝かせる。

[2014年3月]

ル・コルビュジエ みずから語る生涯

定価5,060円(税込)

ISBN978-4-8055-0889-3

ジャン・プティ 著 田路貴浩・松本 裕 訳

A5判上製カバー装 本文594頁 口絵16頁

本書はJean Petit: Le Corbusier lui-même, Éditions Rousseau, 1970の全訳であり、ル・コルビュジエ自身が承認した伝記としてきわめて特異な資料である。前半はル・コルビュジエの年譜、後半は各種資料やリストとなっている。年譜はル・コルビュジエ自身による回顧や手紙などを中心に編年体でまとめられている。「訳者あとがき」より抜粋

[2021年2月]

ゴシック建築大成

定価 63,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0661-5

パウル・フランクル 著 ポール・クロスリー 校訂 佐藤達生・辻本敬子・飯田喜四郎 訳

B5判上製函入 本文796頁 口絵8頁 挿図336点

フランクル (1878～1962) は、美術史家ヴェルフリンの高弟であり、本書はその様式理論を450年にわたる全ヨーロッパのゴシック建築に適用し、総合的な理論の構築を体系化した、数あるゴシック研究において並ぶもののない労作である。校訂者クロスリーの15年に及ぶ詳細を極めた注釈・解説付き決定版。 [2011年9月]

ゴシックとは何か

8世紀にわたる西欧の自問

定価 52,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0761-2

パウル・フランクル 著 黒岩俊介 訳

B5判上製函入 本文1000頁 口絵32頁 挿図4点

ゴシック芸術の創始であるサン・ドニ修道院シュジェールから現代までの800年に亘るゴシック史料を丹念に読み解き編纂、その基本原理にかかわる評価や注釈を集成した一大資料集である。本書では800年間遺された歴史史料を網羅、徹底的に史料批判を行い、遺構と史料が相俟ってのゴシック研究を完結させた。 [2016年5月]

ブラマンテ

ルネサンス建築の完成者

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0412-3

アルナルド・ブルスキ 著 稲川直樹 訳

B5判上製函入 本文388頁 挿図204点

ブラマンテはルネサンス史上最大の建築家である。サン・ピエトロ大聖堂やバチカン宮の原設計を始めとする作品によって、ルネサンス建築は初期から盛期へと決定的に移行した。それまでの研究成果を総合してより広範な読者のために歴史的文化的側面を補いつつ書き下ろされた、基本的文献の全訳。

【ピーコ・デッラ・ミランダラ賞受賞】

[2002年2月]

建築タイプの歴史 [全2巻]

セット定価 14,850円 (税込)

ニコラウス・ペヴスナー 著 越野 武 訳

本書は碩学ニコラウス・ペヴスナーがナショナル・ギャラリー（ワシントンD.C.）で行った講演が元となっている。幅広い聴衆に向けられた講演であったため、難解な議論や論理展開は含まず、平明に建築類型（タイプ）ごとの歴史が語られており、書籍化にあたっては多くの図版が加えられた。各建築についての歴史的・文化的背景を知ることで、建築の類型化の背後にある社会の近代化による変化を透かし見ることができ一冊である。

I 国家と偉人の記念碑から刑務所まで

定価 7,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0725-4

菊判上製カバー装 本文344頁 挿図410点

[2014年10月]

II ホテルから工場まで

定価 7,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0726-1

菊判上製カバー装 本文376頁 挿図343点

[2015年4月]

十九世紀の建築著述家たち

定価 9,680円 (税込)

ISBN978-4-8055-0766-7

ニコラウス・ペヴスナー 著 吉田綱市 訳

菊判上製カバー装 本文594頁 口絵44頁 挿図5点

ペヴスナーは、20世紀を代表する英国の美術史家、建築史家、建築批評家であり、ペリカン美術叢書の編集主幹である。19世紀を代表する歴史上、著名なピュージン、ラスキンなど建築家、建築・美術著述家たち31名の、建築史、美術史、建築論、建築・美術批評にまつわるエッセンスを詳述する。

[2016年7月]

ゴシック大聖堂の建築工匠

定価 29,150円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0879-4

坊城俊成・坊城ガブリエラ知子 著

A5判上製函入 本文852頁 口絵64頁

完成まで数百年を要するゴシック大聖堂建設の過程を明らかにする！ 中世末期、ストラスブール聖母大聖堂の建築工匠を努めたハンス・ハマー・フォン・ヴェルドが遺した、大聖堂に関する製図図面と文書で構成された画譜を基盤とし、さらに各地に残された大聖堂の建築史を丹念に追うことで、中世ゴシック大聖堂の設計術の内容を解明する。

[2020年1月]

建築的場所論の研究

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0339-3

前川道郎 編

B5判上製函入 本文438頁

従来の建築デザインの空間論的手法を超え、空間のように次元としての分割が不可能な実存的場所論の命題のもと、風水・地霊などを含むより総合的な考察を試みた前川道郎博士以下の俊英19名の労作論文集である。

[1998年1月]

パリ都市建築の意味—歴史性

定価 48,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0483-3

松政貞治 著

A4判上製函入 本文590頁 口絵80頁

都市において各時代の様々な設計行為により歴史的に積み重ねられ、また再生されてきた空間的、形態的な表現内容、伝統として受け継がれ人々に共有されてきた意味という都市の歴史性を取り戻すための新たな視点を、パリの都市建築を事例としながら提示する。

[2005年1月]

フランク・ロイド・ライトの建築思想

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0696-7

水上^{ゆたか}優 著

B5判上製函入 本文318頁 口絵1丁

20世紀最大の建築家の一人、ライト（1867～1959）。多く遺された彼の言説への独特な着目を通して、キーワードとなる「言葉」の内へ分け入り、「内から外への建築」を目指した彼の有機的建築思想の指向的な記述・分析を検証して基本概念を明らかにし、その思索と制作および造形思考の主題を解明する。

[2013年2月]

アール・デコ博建築造形論

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0614-1

三田村哲哉 著

B5判上製函入 本文472頁 口絵8頁 挿図259点

アール・デコ様式の主要な一源泉と解釈される近代建築史上最も重要な博覧会の一つである1925年パリ現代裝飾美術・工芸美術国際博覧会(アール・デコ博)の会場計画に焦点を当て、計画過程と、計画段階において生じた各展示館の建築設計を規定し得る諸条件を日本の出品事情を含めて詳述した。

[2010年3月]

イタリア建築の中世主義 交錯する過去と未来

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0589-2

横手義洋 著

A5判上製函入 本文280頁 挿図118点

イタリアが国家統一を成し遂げた19世紀半ばに、ミラノを中心に活躍した建築史家カミッロ・ポイド(1836~1914)をイデオログとして発展した「中世主義」という観点をもって、ヨーロッパ全体の史的考察から浮き上がらせ、初めて統一的にイタリア近代建築の変換点を論究した労作。

【建築史学会賞受賞】

[2008年3月]

トニー・ガルニエ「工業都市」注解

定価 77,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0461-1

吉田綱市 編・訳・著

A3判上製函入 本文112頁 図面164枚

バロック的都市計画を初めて克服し、近代の理想都市の姿をあますところなく提示した近代都市計画史上、画期的な作品とされる164枚の大型の図版からなる図面集。その全ての図面をオリジナル図版と同じ寸法で複製、全図面の索引とデータ一覧を付した詳細な解説を別冊にして刊行する完全版。

[2004年2月]

自伝〔全2巻〕

セット定価 36,300円 (税込)

フランク・ロイド・ライト 著 樋口 清 訳

ル・コルビュジエやミースと並ぶ世界三大建築家の一人ライトが、波瀾万丈の自らの半生を赤裸々に語った文字通りの芸術的自伝。幼年より少年時代への感性の遍歴から、建築家としての生いたちと思想形成への道程、ラーキンビルやユソニア住宅、旧帝国ホテル設計の経緯や浮世絵の収集など、わが国の文化事情にも詳しい記述がなされる、仕事と生活・芸術を愛した建築家が有機的・統合的哲学の円熟と情熱を語る、不世出の一代記の完訳。

ある芸術の形成

B5判上製函入 本文436頁

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0174-0

[1988年12月]

ある芸術の展開

B5判上製函入 本文446頁 挿図94点

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0365-2

[2000年4月]

テストメント

定価27,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0632-5

フランク・ロイド・ライト 著 樋口 清 訳

B5判上製カバー装 本文260頁 挿図200点

建築家ライトの死の2年前に出版され、人間性のスケール観に基づく設計理念や、著作活動などの建築的キャリアの全ての総和として、数多くの自作建築の図版を掲げて、ライトの思索が結実した結果がその建築=哲学であることを実例・実証的に表明した、時代を超えた渾身の提言である。

[2010年10月]

石による形と建設

中世石切術から19世紀截石術まで

定価30,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0602-8

エンリケ・ラバサ・ディアス 著 入江由香 訳

B5判上製函入 本文328頁 挿図296点

本書は、古代から近代における石造建築構造の特色を綴った石の加工の通史である。著者は豊富な遺構の実地調査や理論的方法的知識の素養を基本に、石組構造の技術史を精緻に著述し、どう設計・建設されたのか、建築を構成する石材を加工する技術である石切術の歴史の変遷をもとに解明する。

[2009年9月]

建築史とは何か

定価2,090円(税込)

ISBN978-4-8055-0774-2

アンドリュウ・リーチ 著 横手義洋 訳

四六判カバー装 本文212頁 挿図18点

現代を代表する気鋭の建築史家による、建築史の全般的な研究をわかりやすく概説する入門書。過去から近年までの建築史学の流れ・建築史家への批評的研究を俯瞰し、太古から現代まで、建築にまつわる様々な主題を論じた知の形式を対象に、建築史の展開、方法、課題を手際よくまとめている。

[2016年10月]

ル・コルビュジエ事典

定価66,000円(税込)

ISBN978-4-8055-0540-3

ジャック・リュカン 監修 加藤邦男 監訳

A4判上製函入 本文680頁 カラー図版54点 モノクロ図版547点

ポンピドーセンターの企画のもとに、ル・コルビュジエの生誕百年を記念する一大文化・学術事業として、フランスの文化省が威信をかけて刊行。20世紀最大の建築家といわれるル・コルビュジエの145の主要な項目を代表的研究者61名による詳細な論考と多彩な図版による決定版事典の完訳。

[2007年2月]

建築へ

〔新装普及版〕

定価4,950円(税込)

ISBN978-4-8055-0657-8

ル・コルビュジエ=ソーニエ 著 樋口 清 訳

B5判変形カバー装 本文244頁 挿図194点

1923年に刊行された近代・現代建築理念の不朽のバイブルであり、ル・コルビュジエの30数冊ある著作の中の主著である。ル・コルビュジエ財団の全面的協力を得て、ほぼオリジナル初版本と同じ判型・レイアウト・装丁で流麗な新訳とともに、ル・コルビュジエのエスプリ・センスのままに刊行する。

[2011年4月]

イタリア・ルネサンス建築研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0580-9

ヴォルフガング・ロッツ 著 飛ヶ谷潤一郎 訳

A5判上製函入 本文468頁 挿図233点

イタリア・ルネサンスの建築と都市計画の研究に建築素描や版画を用いるという資料解釈における美術史学と建築史学の融合を試みた新しい方法論を確立した碩学、ヴォルフガング・ロッツ (1912～1981) の建築論集。重要な研究書にもかかわらずわが国にまだ紹介されていない巨匠の基本文献。

[2008年11月]

パラディオの時代のヴェネツィア

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0615-8

渡辺真弓 著

A5判上製カバー装 本文372頁 挿図215点

16世紀のヴェネツィアにおける都市景観の完成過程と、その過程に貢献した建築家たちの活動について、建築家アンドレア・ルクスを中心に据え、かつ同時代の建築家たちの活動を通して、ヴェネツィアにおける都市形成史において16世紀が最も重要な時代であったことを詳細に論証した。

【建築史学会賞受賞】

[2009年12月]

古代ローマの記念門

定価 29,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0320-1

渡辺道治 著

A4判上製函入 本文260頁 口絵28頁 挿図147点

350件におよぶ古代ローマの記念門・凱旋門について、多くの写真、実測図を掲げ、その全体像を体系づけ世界でも初めて明らかにする書。都市内における配置、意匠的な発展過程、設計における比例システムの発展過程などを建築学的に実証し、歴史的建造物としての記念門の意味を総合的に解明した。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[1997年4月]

西洋建築史 [全2巻]

セット定価 68,200円 (税込)

デイヴィッド・ワトキン 著 白井秀和 訳

ケンブリッジ大学で教鞭をとった現代を代表する建築史家である著者による、古代から現代までの多様な世界建築史の流れを、独特かつ柔軟な観点から考察した出色の通史。情熱溢れる記述が随所に現れる個性豊かな見解を特徴とする。訳者の明解・周到な翻訳とあいまっての名著の公刊。

I メソポタミアとエジプト建築からバロック建築の発展まで

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0709-4

B5判上製函入 本文450頁 口絵16頁 挿図536点

[2014年3月]

II 18世紀新古典主義建築から現代建築まで

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0710-0

B5判上製函入 本文512頁 口絵24頁 挿図446点

[2015年8月]

建築史学の興隆

定価 17,087円 (税込)

ISBN978-4-8055-0242-6

デイヴィッド・ワトキン 著 桐敷真次郎 訳

A5判上製函入 本文502頁

17世紀初頭から現代に至る建築 = 美術史家の主要文献だけで450書を越す著作を、国別・年代別に位置付け、歴史的評価を施した、西洋建築史および美術史の成立の全貌を把握するに不可欠の建築史自体を対象とした初の必備の試みである。原著にはない新たな項目を追加した80頁を越す索引を付す。

[1993年5月]

考古・歴史

フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合的研究

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0460-4

小川 勝 編

A4判上製函入 本文288頁 口絵32頁 挿図1300点

北海道積丹半島の付け根、余市町に位置する国指定史跡「フゴッペ洞窟」に残る、わが国でも最も本格的な先史美術作品である「岩面刻画」の真価を明らかにする。カラー写真を多用し、美術史学、考古学、地質学、歴史学の各分野の研究者の論考を付した初めての総合的研究成果の報告。 [2003年12月]

若い読者のための仏教

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0531-1

フランク・ライナー・シュック/マンフレート・ジェルゲン 著 中山典夫 訳

A5判上製カバー装 本文272頁 挿図204点

北インドの一人の賢者から生まれた仏教が、さまざまな風土に影響を受けて変容する、精神世界の一大スペクタクル。専門的な抽象概念や難解な用語を出来るだけ避けて、仏教という深遠な教えの中心へ読者を見ちびく、仏教理解のマインドマップ。西洋人から見た世界宗教としての仏教入門。

[2007年3月]

絵で見る哲学の歴史

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0629-5

ギュンター・シュルテ 著 勝 道興 訳

A5判上製カバー装 本文256頁 口絵8頁 挿図150点

古代ギリシアから現代まで200点あまりの画像と共に、あたかも画廊をめぐるかのように2500年にわたる西洋哲学の歴史を概説する。 [2010年4月]

東京国立博物館図版目録

東京国立博物館 編

東京国立博物館所蔵文化財の全貌を示す分野別総目録。[英文併記]

朝鮮陶磁篇 (土器・緑釉陶器)

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0471-0

B5判上製カバー装 本文216頁 (カラー8頁 モノクロ152頁)

青銅器時代から朝鮮時代までの、朝鮮半島で作成された土器・陶器427件を収録。 [2004年5月]

弥生遺物篇 (金属器) 増補改訂

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0502-1

B5判上製カバー装 本文242頁 (カラー8頁 モノクロ164頁)

銅鐸・銅剣・銅戈など貴重な資料262件を収録。 [2005年5月]

日本中世土師器の研究

定価 30,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0651-6

中井淳史 著

B5判上製函入 本文570頁 挿図32点

土師器とは低火度で焼成した素焼きの土器で、日本各地の中世遺跡から大量に出土し、年代を知る上での指標とされる。この土師器について、全国の視野からその様相を解明するとともに、その機能や用途、生産体制、さらには文化史的背景について考察を加えた研究成果。

[2011年1月]

伊万里焼の生産流通史

近世肥前磁器における
考古学的研究

定価 30,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0776-6

野上建紀 著

B5判上製函入 本文664頁 口絵16頁 挿図176点

ヨーロッパから中南米まで、国際的な工業製品として世界中を駆け巡った伊万里焼（近世肥前磁器）。生産から流通・廃棄までのプロセスを考古学資料や文献史料を用いて丹念に跡づけ、近世肥前磁器をめぐるグローバルなライフヒストリーを描き出す、新知見を含む研究成果の公刊。

[2017年2月]

若い読者のためのメルヘン

定価 3,960 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0532-8

ヴァインフリート・フロイント 著 木下康光 訳

A5判上製カバー装 本文248頁 挿図142点

「昔、むかし……」にはじまるメルヘンの「不思議な詩と謎」の意味を説き起こす。メルヘンの楽園をより深く知るためのガイドブック。著者はロマン派や幻想文学を中心とするドイツ文学者で、メルヘンを人類の普遍的メッセージが籠められたものとして、読者の生の現実に惹きつけようとしている。

[2007年3月]

エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書 [全2巻]

吉村作治 監修 アメンヘテプⅢ世王墓 (KV22) 報告書刊行委員会 編

本書は1989年から2000年に行なわれた早稲田大学エジプト調査隊による調査報告書であり、墓域の出土物や壁画装飾などの正確かつ組織的な実測や、精細なデジタル写真測量などの映像資料化や、貴重なすべてのヒエログリフの解説など、世界的に高い評価をされた成果の報告の全容である。

[I] アメンヘテプⅢ世王墓 (KV22) を中心として

定価 41,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0574-8

A4判上製函入 本文342頁 口絵61頁 挿図166点

[2008年5月]

[II] KVAとアメンヘテプⅢ世王墓(KV22)に隣接する地域

定価 30,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0665-3

A4判上製函入 本文206頁 口絵40頁 挿図141点

[2012年2月]

永遠に生きる ～Eternal Life～ 吉村作治先生古稀記念論文集

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0698-1

吉村作治先生古稀記念論文集編集委員会 編

B5判上製函入 本文640頁 口絵4頁 挿図280点

エジプト研究の第一人者であり、当地におけるさまざまなプロジェクトのマネジメントや人材育成およびエジプト考古学の向上に活躍し、2013年に満70歳を迎える早稲田大学名誉教授吉村作治博士。これを機会に吉村博士の学恩を受けた執筆者によってまとめられた古稀記念論文集。

[2013年1月]

絵とたどるモードの歴史

定価 4,620円 (税込)

ISBN978-4-8055-0674-5

ゲルトルート・レーネルト著 黒川祐子 訳

A5判上製カバー装 本文280頁 挿図227点 (オールカラー)

西洋服飾史・服装史を学ぶ上で基本的な図像、ファッション・プレート、写真などを全図版カラーで網羅。モード論、ジェンダー研究、精神分析学など幅広く教鞭をとる著者が、豊富な図版とともに古代から20世紀までを軽快に辿った、モード史の入門書として必備の一冊。

[2011年12月]

近代デザイン

日本のステンドグラス黎明期

木内家資料による
デザインと近代建築

定価 25,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0789-6

金田美世 著

A4判上製函入 本文134頁 図絵112頁

ステンドグラスは、明治の日本に移植されたのち、西洋とは明らかに違う表情を見せていくこの国の光と風景とにあわせて。本書はその流れを制作者の側からつぶさに解き明かしている。実作者でもある著者のステンドグラスに寄せる愛情が、全く新しい日本近代建築史を描き出すことに成功した。(京都工芸繊維大学教授 石田潤一郎) [2018年10月]

リヒャルト・パウル・ローゼの構成的造形世界

スイス派、ニューグラフィック
デザイン運動の旗手

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0453-6

多摩美術大学ポスター共同研究会 編

B5判上製カバー装 本文240頁 挿図223点

バウハウス以後の構成的グラフィックデザインと絵画を発展させた最も重要な芸術家・デザイナーそして理論家であるローゼの全貌と作品を紹介する。テキストと絵画を含む彼の全体像に迫り、彼の作品と方法・思想の紹介に解説を加え、その重要性和魅力を解き明かす。

[2004年1月]

ヴァイマルの国立バウハウス 1919-1923

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0603-5

利光 功 訳

245×250mm上製函入 本文236頁

1923年にヴァイマルで開催された最初のバウハウス展のうちに刊行された重要な記念出版書。グロピウス、パウル・クレー、カンディンスキー、モホリ＝ナギ、オスカー・シュレンマーらの7本の論文と色彩図版20を含む全167の作品図版によってヴァイマルのバウハウスの全容を紹介する。

[2009年8月]

美術評論・随想・文芸・画集ほか

続 画室の中から

小倉遊亀 著

A5判カバー装 本文310頁 口絵2頁

定価 3,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0110-8

闊秀画家の第一人者として、格調高い華麗な意欲作を描き続けてきた画伯が綴った日記体随想集。作画の喜びや苦しみ、恩師安田毅彦とのめぐり合い、さらには現代画壇への厳しい提言、宗達・良寛・御舟・古径等、敬愛する先達への思慕が、日常身近の出来事と共に語られていく。

[1979年1月]

[新編] 芸術家の肖像 片山攝三写真集

217×245mm 上製カバー装 写真・図版91頁 解説等26頁

定価 3,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0324-9

井上靖／大佛次郎／小林秀雄／志賀直哉／辻邦生／中川一政／東山魁夷／武者小路実篤／山田耕筰等88名に及ぶ、作家、芸術家たちの気高い精神を香気あふれるモノクロームの世界に凝縮した写真集。肖像芸術の白眉、昭和文化史の貴重な記録。

[1997年4月]

浜口陽三全版画作品集

国立国際美術館 監修 三木哲夫 編

B4判上製函入 カラー図版166点 モノクロ図版147点

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0381-2

20世紀を代表する世界的な銅版画家・浜口陽三の初期(1937年頃)から晩年(1994年)までの全版画を収録したカタログレズネ。銅版にて赤・黄・青などの着色を試みたカラーメゾチントの創始者の全貌が明らかにされる愛蔵本。全版画作品180点、約300カットを収録。

[2000年7月]

パブリックアートについて語り合う。日本に「1%フォー・アーツ」の実現を

滝 久雄 編

A5判カバー装 本文300頁 カラー図版101点 モノクロ図版104点

定価 2,530円 (税込)

ISBN978-4-8055-0727-8

公共空間への芸術作品設置を推進する(公財)日本交通文化協会発行の『くれあーれにゆーす』に収録された座談会及び特別寄稿の全10篇を再編。隈研吾、高階秀爾、宮田良平をはじめとする総勢27名の各界識者らとともに、芸術から教育、科学など幅広い領域を語り合い、日本の文化の未来を考える一書。

[2014年9月]

文化財の保存環境

定価 2,090円 (税込)

ISBN978-4-8055-0648-6

東京文化財研究所 編

A5判カバー装 本文184頁 挿図131点 (オールカラー)

博物館法施行規則の改正に伴って平成24年4月より大学における学芸員養成課程に新設された「博物館資料保存論」を受講し、学芸員資格の取得をめざす学生へ向けられた本書は、文化財保存に関わる科学的な基礎知識を身につけることを目的としている。

[2016年4月]

博物館の未来を考える

定価 2,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0896-1

「博物館の未来を考える」刊行会 編

A5判カバー装 本文184頁

2021年3月2日に開催されたシンポジウム「今後の博物館制度を考える 博物館法改正を見据えて」における発表をもとに、国際的な動向も踏まえた多角的な視点から、今後の博物館制度と、その制度の根幹となる博物館法の在り方における課題を問う。

[2021年8月]

随筆集 道は瓦^{がへき}壁に在り

定価 3,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0626-4

長谷部楽爾 著

B6判上製カバー装 本文292頁

中国陶磁史研究の得難い業績を残された著者の永年に亘る事跡を述べた初の随筆集。敬愛する先人や陶磁研究を巡る海外各地の調査記録など、焼物を追求する真摯な姿がそのまま温かい人柄を偲ばせる人物評となって読者を誘う。

[2010年1月]

近代建築は何を創ったか 生活の場の芸術としての建築

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-0721-6

樋口 清 著

A5判カバー装 本文208頁 挿図122点

フランク・ロイド・ライトやル・コルビュジエをはじめ、近代の俊英たちの著作を邦語にもたらしてきた著者による建築への手引書。幾何学と有機、生活と芸術、人間と自然などといった視点をもとに彼らの多彩な創造性に迫る論考のほか、自らも建築家である著者の建築や生活にまつわる随想も多数収録。

[2014年6月]

彫刻の美

定価 3,410円 (税込)

ISBN978-4-8055-0504-5

本郷 ^{しん}新 著

A5判カバー装 本文216頁 口絵40頁 挿図76点

「わだつみのこえ像」「風雪の群像」などのヒューマニズムあふれる記念碑の制作で知られる著者の人と彫刻の関わりを説いた名著『彫刻の美』に、彫刻に関する随想「彫刻雑感」、信仰告白ともいえる「彫刻十戒」の語文を収録した文集。彫刻への核心を平易な言葉をもって愛情込めて語る。

[1981年5月]

オンデマンド版【美術資料叢書】

オンデマンド出版とは書籍の内容をデータで保存し、注文が入った時点で印刷・製本するシステムです。受注生産ですので、お届けまでに1週間ほどお時間をいただきます。ご了承下さい。

自註鹿鳴集

定価 4,620円 (税込)

ISBN978-4-8055-1230-2

會津八一 著

A5判カバー装 本文252頁 口絵8頁

生涯にわたって大和の古寺と仏像を詠った會津八一が歌集『鹿鳴集』に自ら註を施し、作品の理解と古都奈良の美術への手がかりとして書かれたもので、歌の註釈だけにとどまらず、長年にわたる東洋美術研究の成果がおりこまれ、学問と芸術とが渾然一体となった名著である。

[初版刊行年1965年／2005年6月]

渾齋随筆

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1233-3

會津八一 著

A5判カバー装 本文218頁 口絵16頁

「渾齋」というのは、秋艸堂とともにしばしば用いられる會津八一の齋号である。『渾齋随筆』は『南京新唱』『鹿鳴集』等の古典的な歌集で知られる著者が、南都の風物に触れながら自作の歌を主題別にして執筆した随想集で、大和路の古寺巡歴のみならず、文学や古美術の絶好のエッセイ集である。

[初版刊行年1968年／2005年6月]

山光集

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1231-9

會津八一 著

A5判カバー装 本文234頁 口絵6頁

昭和15年にはじまって敗戦の直前、昭和19年にいたる歌230首を年次にしたがって編纂し自ら註を施した八一の第二歌集である。「望遠」「紅白」等、強く戦争の影響を受けたものから「榛名」「歌碑」等日常的な主題のものまで、八一の内面の激動を映して余さない。

[初版刊行年1971年／2005年6月]

寒燈集

定価 4,620円 (税込)

ISBN978-4-8055-1232-6

會津八一 著

A5判カバー装 本文258頁 口絵8頁

『山光集』と並んで八一の戦時下の暗い日常生活から敗戦まで、苛酷な運命を豊かな詩藻で詠い高く評価されている本集は、昭和19年6月から20年6月にいたる歌212首を年次にしたがって編纂し、巻末に自註會を施したものである。この新版には寒燈集以後の作品をも取めた。

[初版刊行年1971年／2005年6月]

高橋由一油画史料

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1220-3

青木 茂 編

A5判カバー装 本文490頁 口絵16頁

「鮭」や「花魁」で知られる高橋由一の文書や関連史料は東京芸術大学に所蔵されている。画論、技法、美術学校・美術館構想の建白書、各種舶来洋美術の翻訳など、洋画の日本定着に生涯をかけた由一の実像を知る必須の史料であると共に、幕末・明治文化史の貴重な基礎資料を刊行。

[初版刊行年1984年／2004年5月]

明治洋画史料〔懷想篇〕

定価 8,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-1221-0

青木 茂 編

A5判カバー装 本文324頁 口絵6頁

日本近代美術の揺籃期である明治時代の油画や彫刻・版画・写真等に直接関与した人々が懐想し、遺した幾多の資料の中から、「画伯高橋由一翁伝」「明治初年の洋画研究」「洋風美術家伝」等32篇を厳選して収録する。「高橋由一油画史料」と併せて、近代日本文化史研究に不可欠の一等史料。

[初版刊行年1985年／2004年5月]

明治洋画史料〔記録篇〕

定価 9,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-1222-7

青木 茂 編

A5判カバー装 本文356頁

懷想篇に続き、明治期の重要な記録史料30篇余を精選し、編者の克明な註を付す。〔内容〕高橋由一油画史料1冊37点(未発表新資料)／銅版・石版関係史料(5篇)／書ハ美術ナラス…小山正太郎／工芸叢談／油画道志留辺…本多錦吉郎／横山先生履歴／写真事歴…下岡蓮枝／他。

[初版刊行年1986年／2004年5月]

柏亭自伝

定価 6,820円 (税込)

ISBN978-4-8055-1229-6

石井柏亭 著

A5判カバー装 本文414頁 口絵12頁

明治末年から太平洋戦争までの日本洋画壇を領導した画家のひとり石井柏亭は、写実的で温和な作風を数多く残す一方文筆に秀で多くの著書がある。本書は著者が山本鼎らと美術誌「方寸」を刊行するなど先駆的な美術活動を行い、さらに2年間の欧州修行を経て二科会結成まで綴った700枚の自伝。

[初版刊行年1971年／2005年6月]

フランスの画家たち

定価 3,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-1219-7

岡鹿之助 著

A5判カバー装 本文198頁 口絵6頁

20年近い滞仏生活と戦後の旅を通じて、ボナール、ユトリロ、ヴラマンク、マルケ、カルズウ、ポーシャン、ルドン、また恩人藤田嗣治など交流のあった画家たちの苦しい美術への修練を、日々の生活の断面からさりげない繊細な筆致で綴る。当時のパリの匂いを漂わせる珠玉のウッセイ集である。

[初版刊行年1974年／2004年5月]

彫刻真髓 荻原守衛全文集

定価 5,170円 (税込)

ISBN978-4-8055-1208-1

荻原守衛 著 宮川寅雄 解説

A5判カバー装 本文326頁 口絵22頁

近代彫刻の門戸を開き、日本におけるロダニズムの先駆者となった荻原守衛は、高村光太郎とともに黎明期の彫刻界の基石として見逃すことのできない作家である。本書は、彼の真価を正しく彫刻史上に位置づける資料として、覚書、論文、紀行文などを漏れなく収載した貴重な文化史文献である。

[初版刊行年1964年／2004年5月]

美術科教育の方法論と歴史 [新訂増補]

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-1234-0

金子一夫 著

B5判カバー装 本文250頁

美術の方法論の理解を軸に、美術科教育の目的・内容と方法、個々の題材目標や指導方法までを、「美術と教育の本質」を現実から導き、解き明かす。併せて、明治期から現在に至るまでの美術科教育の方法と思想の変遷を論ずる。平成10年学習指導要領の改訂に鑑み、新訂・増補を施した新訂増補版。

[初版刊行年2003年4月／2012年5月]

天心岡倉覚三

定価 5,940円 (税込)

ISBN978-4-8055-1228-9

清見陸郎 著

A5判カバー装 本文354頁 口絵8頁

近代日本美術の理論的指導者であり、近代思想史の上でも特異な位置を占める岡倉天心の生涯は、激動する明治の日本そのままに波瀾に富んだものであった。天心の評伝の先駆をなす本書は、昭和20年1月に刊行、大半が災火に消えた幻の書で、天心研究の基本書であるが故に復刊を試みた。

[初版刊行年1980年／2005年6月]

黒田清輝日記 [全4巻]

黒田清輝 著 隈元謙次郎 編

日本近代文化史に欠かせぬ存在である黒田清輝の明治17年フランス留学に始まり大正12年に至る40年間の日記。

一巻 (明治17年～26年)

A5判カバー装

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1204-3

[初版刊行年1966年／2004年5月]

二巻 (明治27年～36年)

A5判カバー装

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1205-0

[初版刊行年1967年／2004年5月]

三巻 (明治36年～大正4年)

A5判カバー装

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1206-7

[初版刊行年1967年／2004年5月]

四巻 (大正4年～12年)

A5判カバー装

定価 5,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-1207-4

[初版刊行年1967年／2004年5月]

絵画の将来

定価 5,280円 (税込)

ISBN978-4-8055-1212-8

黒田清輝 著 陰里鉄郎 編

A5判カバー装 本文320頁 口絵8頁

19世紀中葉のフランスの明るい外光描写を移入し明治洋画壇に一転機を作り、美術界に多大の功績を残して日本近代洋画の確立者に位置づけられる黒田清輝。その半生の画業や美術院長、貴族院議員など幾多の顕職の折々に語った文章は多数にのぼるが、それを分類し収録する。

[初版刊行年1983年／2004年5月]

油絵の新技法

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-1209-8

小出楯重 著 岡畏三郎 解説

A5判カバー装 本文300頁 口絵16頁

自らの芸術が急速に開花し円熟味を増した大正末期から晩年にかけて、小出楯重はすぐれた文章によって芸術に対する態度や意見などを多く書き遺した。この長く人々に愛されつづける文章の中から、楯重の芸術を知る上の手がかりとなる絵画に関する文章を収録。

[初版刊行年1964年／2004年5月]

写実と空想 古賀春江全集

定価 5,720円 (税込)

ISBN978-4-8055-1213-5

古賀春江 著 古川智次 編

A5判カバー装 本文368頁 口絵12頁

川端康成の名篇「末期の眼」でその才能と夭逝を痛惜された古賀春江は、大正から昭和期への変動目まぐるしい世相を反映して写実から前衛へと多彩な作品を表した。それと相俟って文学作品としても今日高く評価される100余篇の詩・自画解題を中心に、画論・随想・書簡等も、可能な限り収録した。

[初版刊行年1984年／2004年5月]

横山大観

定価 5,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-1227-2

斎藤隆三 著

A5判カバー装 本文314頁 口絵14頁

明治・大正・昭和の三代に亘って日本画壇の巨匠であった大観画伯の91年の波瀾の生涯は、近代日本絵画史の歩みそのものであった。本書は、日本美術院の経営の支柱として、永年画伯を助け、苦業をともにしてきた著者が、大観の人と作品の全貌を正確な資料と、数々の体験から書き上げた労作。

[初版刊行年1982年／2005年6月]

日本美術院史

定価 7,920円 (税込)

ISBN978-4-8055-1226-5

斎藤隆三 著

A5判カバー装 本文466頁 口絵24頁

明治・大正・昭和の三代に亘り、多くの巨匠と名作を生みだした日本美術院の前期院展の草創から、大正3年の再興後昭和18年までの変遷史。筆者は再興以来、終生その経営に参画しており、近代日本画史において極めて貴重な記録である。昭和18年以降の記録を補い、戦前史としての完全を期した。

[初版刊行年1985年／2005年6月]

近代絵画とレアリスム

須田国太郎文集

定価 4,950円 (税込)

ISBN978-4-8055-1217-3

須田国太郎 著 河北倫明 編

A5判カバー装 本文314頁 口絵8頁

美学者であると同時に、洋画家としては独立美術協会で活躍し、精神的にもっとも深奥なものをもとめつつ、日本においては特異な芸術的立場を保持した須田国太郎の、色彩論に立脚した造詣深い論考と随想。透徹した思考と広い知識にささえられ、絵画の核心へせまる優れた近代絵画論でもある。

[初版刊行年1978年／2004年5月]

芸術の書

絵画技法論

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-1224-1

C・チェンニーニ 著 中村 彝・藤井久栄 訳

A5判カバー装 本文212頁 口絵4頁

ルネサンス芸術の絵画技法と精神を詳細に説き明かし、専門家にも必要書とされた本書は、ルノアールを歓喜させ、日本洋画の黎明期の画家たちにも大きな示唆を与えた。早逝した天才画家、中村彝の病床の労作をもとに、新たな訳文を加えて完全な訳本となった、今や貴重な古典的な文献でもある。

[初版刊行年1976年／2004年5月]

芸術の無限感

定価 6,930円 (税込)

ISBN978-4-8055-1215-9

中村 彝 著 小熊虎之助 編

A5判カバー装 本文454頁 口絵20頁

近代絵画史上に残る「エロシエンコ像」を始め不朽の作品を描いて去った中村彝の、文章の全てを収載する。幼時から病弱の身を、芸術の悠久と信仰を糧に生きた彼の文章は、その自然観照の深さと美の本質を求めてやまぬ真摯さをもって我々を魅了する。

[初版刊行年1989年／2004年5月]

芸術のエスプリ

定価 5,060円 (税込)

ISBN978-4-8055-1210-4

藤島武二 著 匠 秀夫 編

A5判カバー装 本文326頁 口絵10頁

藤島武二は、洋画家として、また日本洋画壇の指導者として我が国に油絵を定着、発展させた。本書は、折々に発表した文章のうち主要なものを美術一般・西洋美術・日本美術・思い出・紀行・語録に分類した、彼の芸術、また日本近代洋画史の背景を理解する上で、不可欠の基本文献である。

[初版刊行年1982年／2004年5月]

本阿弥行状記と光悦

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-1225-8

正木篤三 著

A5判カバー装 本文298頁 口絵16頁

古来、刀剣の鑑定、研磨を業としていた本阿弥家は、自己の芸術精神で統一した芸術集団を結成したが、「本阿彌行状記」は光悦の諸芸はもとより、ひろく平生の言行の類を、主として孫の光甫が記述した本阿弥家の家記である。本書は、諸写本を校合して成ったもので、伝記と光悦論を付す。

[初版刊行年1965年／2004年5月]

十三松堂日記〔全4巻〕

正木直彦 著 隈元謙次郎 編

東京美術学校長、帝国美術院長等の要職にあり、近代美術の進展に多大な功績を遺した正木直彦の30年間にわたる日記。

一巻（明治41年～大正15年）

A5判カバー装

定価5,610円（税込）

ISBN978-4-8055-1200-5

[初版刊行年1965年／2004年5月]

二巻（昭和2年～6年）

A5判カバー装

定価5,610円（税込）

ISBN978-4-8055-1201-2

[初版刊行年1965年／2004年5月]

三巻（昭和7年～11年）

A5判カバー装

定価5,390円（税込）

ISBN978-4-8055-1202-9

[初版刊行年1966年／2004年5月]

四巻（昭和12年～15年・年譜）

A5判カバー装

定価4,620円（税込）

ISBN978-4-8055-1203-6

[初版刊行年1966年／2004年5月]

感情と表現

三岸好太郎 著 匠 秀夫 編

A5判カバー装 本文256頁 口絵16頁

三岸好太郎は、鋭敏な感受性で前衛絵画の先駆をなし、絵筆で画布に詩を表現し得た稀有な画家であった。詩情溢れる絵画とあいまって、その情熱的な詩文は今も鮮烈な光彩を放っている。彼の文章を画論、批評、随想、詩、自伝に分類、夫人宛の書簡も収録して、三岸芸術の内面に光をあてた文集。

[初版刊行年1983年／2004年5月]

定価4,180円（税込）

ISBN978-4-8055-1218-0

画論

村上華岳文集

村上華岳 著 村上常一朗 編

A5判カバー装 本文430頁 口絵16頁

厳しい内省とひたすらな精進の生涯であった村上華岳は、近代日本絵画史に不滅の業績を刻んだ。本書は彼が生前に雑誌に発表した感想や作画態度の覚えから思考メモにいたるまでを、子息常一朗氏が、克明に整理収録した全文集で、彼の絵画作品の深さを理解するための道標でもある。

[初版刊行年1977年／2004年5月]

定価6,710円（税込）

ISBN978-4-8055-1216-6

画想

安田鞞彦文集

安田鞞彦 著 安田建一 編

A5判カバー装 本文310頁 口絵12頁

たゆまぬ精進と研鑽から「夢殿」「黄瀬川陣」「王昭君」等、歴史画をはじめ数多くの優作を遺した氏は、小林古径、前田青邨と共に明治末から昭和にかけて次々と新風を展開、院展の中枢にあって近代日本画の発展に尽した。折にふれて綴った文章から主要な著作50余篇を収録して画伯の美の心を示す。

[初版刊行年1982年／2004年5月]

定価4,840円（税込）

ISBN978-4-8055-1211-1

フェノロサ美術論集

定価9,460円(税込)

ISBN978-4-8055-1223-4

山口静一 編

A5判カバー装 本文312頁

日本近代美術に深甚なる影響を与えたアーネスト・F・フェノロサの主張は、当時、翻訳者を介して新聞や雑誌に掲載されたものである。本書は「美術真説」をはじめ、26篇の日本美術に関する邦文を収録した近代日本文化史研究の上に重要な基本的文献である。

[初版刊行年1988年／2004年5月]

鉄人画論

萬鉄五郎全文集

定価6,160円(税込)

ISBN978-4-8055-1214-2

よるす

萬鉄五郎 著 土方定一・陰里鉄郎 編

A5判カバー装 本文410頁 口絵8頁

「鉄人」と号し、大正洋画壇の指導者として活躍した萬鉄五郎は、絵画芸術の可能性を真摯に追求し、幾多の傑作を遺した。後期印象派からフォービズム、キュビズム、さらに南画へと展開する彼の画論はその激しい苦闘の表白であり、自由闊達な芸術論として現代にまで多くの問題を投げかけている。

[初版刊行年1985年／2004年5月]

書名索引

ア		エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書〔I〕〔II〕	99
アール・デコ博建築造形論	94	絵で見る哲学の歴史	98
青木繁《海の幸》〔美術研究作品資料〕	39	江戸期実景図の研究	27
丹青よし	29	江戸の服飾意匠	19
アカデミーと建築オーダー	88	絵とたどるモードの歴史	100
アジア仏教美術論集	4-5	絵具の科学〔改訂新版〕	60
アジャンター後期壁画の研究	34	絵具の事典〔新装普及版〕	60
アジャンター壁画の研究	24	絵仏師の時代	33
足立康著作集〔全3巻〕	3	延暦寺の建築史的研究	70
新しい住居	87	岡倉天心アルバム〔増補改訂〕	39
新しい造形芸術の基礎概念〔新装版 パウハウス叢書6〕	11	岡倉天心と五浦〔新訂増補〕	45
新しい造形（新造形主義）〔新装版 パウハウス叢書5〕	11	お雇い外国人キョッソネ研究	44
油絵の新技法〔オンデマンド版〕	107	オランダ集団肖像画	61
アルブレヒト・デューラー「人体均衡論四書」注解	61	オランダの建築〔新装版 パウハウス叢書10〕	12
アルブレヒト・デューラー「築城論」注解	55		
アルブレヒト・デューラーの芸術 ヴェルフリン	48	カ	
アルブレヒト・デューラーの芸術 下村耕史	55	カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解	49
アルベルティ〔イタリア・ルネサンス建築史ノート〕	91	絵画・写真・映画〔新装版 パウハウス叢書8〕	12
アルベルティ「絵画論」〔改訂新版〕	46	絵画の将来〔オンデマンド版〕	107
アルベルティ「芸術論」〔新装普及版〕	46	回廊	87
アルベルティ「建築論」	78	鷺湖及鼎湖	38
アレティーノまたは絵画問答	57	ガストン・フェュユスの『狩猟の書』挿絵研究	56
アントニオ・サンテリア「新都市」注解	80	画想〔オンデマンド版〕	109
石による形と建設	95	花道史研究〔山根有三著作集7〕	3
石山寺縁起絵巻集成	16	狩野光信の時代	22
イタリア建築の中世主義	94	花木の象 国宝都久夫須麻神社	25
イタリア・ルネサンス建築研究	96	鎌倉仏教絵画考	33
イタリア・ルネサンス建築史ノート〔全3巻〕	91	臥遊	20
一住宅	88	雁金屋御面帳の研究	27
稲垣栄三著作集〔全7巻〕	1	画論〔オンデマンド版〕	109
茨城彫刻史研究	23	河合正朝絵画史論集〔全2巻〕	21
今井兼次著作集	2	感情と表現〔オンデマンド版〕	109
今井兼次に於ける建築と思想に関する研究	64	寒燈集〔オンデマンド版〕	104
伊万里焼の生産流通史	99	関東地方の屋敷林	76
イメージ制作の場と環境	51	カント美学の根本概念	50
イングランド住宅史	81	木碎之注文	67
院政期仏画と唐宋絵画	35	木村莊八日記〔明治篇〕	43
インド仏教美術史論	36	キュービズム〔新装版 パウハウス叢書13〕	12
ヴァイマルの国立パウハウス 1919-1923	101	旧軍用地と戦後復興	66
ヴァフィオの杯	62	宮廷物質文化史	18
ウィーンのアムステルダム大聖堂	80	教育スケッチブック〔新装版 パウハウス叢書2〕	11
ヴィクトリアン・ゴシックの崩壊	86	京狩野の研究	37
ヴィッラ・マダマのロココ装飾	59	京都国立博物館須磨コレクション図版目録 中国絵画 I 齊白石	22
ヴィーラール・ド・オヌクール画帖の研究III	91	京都御所造営録〔全5巻〕	72
海のシルクロードの染織史	36	ギリシア陶器	56
梅原龍三郎とルノワール	41	ギリシアの陶画家クレイティアスの研究	59
裏松固禪「院宮及私第図」の研究	76	木割表現論	77
裏松固禪「宮室図」詳解	76	近現代建築史論	82
永遠に生きる 吉村作治先生古稀記念論文集	100	近世・近代の歴史意識と建築	66
叡智の建築家	83	近世建築指図の総合的研究〔全3巻〕	69

書名索引

近世建築の生産組織と技術	66	光琳蒔絵の研究	18
近世在方集住大工の研究	71	光琳論	31
近世社境内とその建築	77	コー・ケーとベン・メアレア	73
近世初期上層公家の遊興空間	68	国際建築 [新装版 バウハウス叢書 1]	11
近世禅宗寺院の空間構成・意匠の研究	70	国宝 源氏物語絵巻	29
近世武家集団と都市・建築	75	国宝 紅白梅図屏風	19
近世民家普請と資源保全	74	国宝 高松塚古墳壁画	35
近代絵画とレアリズム [オンデマンド版]	108	国宝 伴大納言絵巻	22
近代建築 [特装版]	80	国宝 彦根屏風	33
近代建築史研究 [稲垣栄三著作集]	1	国宝 麻布著色吉祥天像	31
近代建築は何を創ったか	102	国宝 六道絵	17
近代彫刻の先駆者 長沼守敬	38	五山と禅院 [関口欣也著作集 3]	2
近代日本美術教育の研究 明治時代	39	ゴシック建築大成	92
空海の起結	17	ゴシックとは何か	92
黒田清輝《湖畔》[美術研究作品資料]	43	ゴシック様式成立史論	82
黒田清輝著述集	42	ゴシック建築リブヴォールトのルーツ	83
黒田清輝日記 [オンデマンド版] [全4巻]	106	ゴシック大聖堂の建築工匠	93
黒田清輝フランス語資料集	42	児島虎次郎研究	44
芸術学の根本問題	59	五姓田義松史料集	41
芸術価値論 美的価値体験	48	古代アッティカ杯	56
[新編] 芸術家の肖像	102	古代インド美術と民間信仰	30
芸術のエスプリ [オンデマンド版]	108	古代建築の研究 [上] [下] [足立康著作集 1・2]	3
芸術の書 [オンデマンド版]	108	古代寺院建築の研究 [鈴木嘉吉建築史論集]	71
芸術の無限感 [オンデマンド版]	108	古代寺院僧房の研究 [鈴木嘉吉建築史論集]	70
芸術論叢 [全2巻]	63	古代・中世の挿絵芸術	63
源氏物語 その住まいの世界	65	古代の神社造営	77
源氏物語 その生活と文化	75	古代ローマの記念門	96
建築オーダーの意味	81	古典主義再考 [全2巻]	50
建築家アンリ・ラブルースト	84	古板江戸図集成 [全5巻]	6
建築家ガウディ全語録	89	渾斎隨筆 [オンデマンド版]	104
建築技術比較発達史の研究	77		
建築講義要録	88	サ	
建築講話 I	80	材料から建築へ [新装版 バウハウス叢書 14]	13
建築指図の修補技法に関する研究 [近世建築指図の総合的研究 3]	69	作家論 [I] [II] [今井兼次著作集]	2
	3	山光集 [オンデマンド版]	104
	85	ジェフリー・スコット「ヒューマニズムの建築」注解	82
建築史 [全2巻]	97	死者を記念する	54
建築史学の興隆	94	時代の目撃者	58
建築史研究の新視点 [全3巻]	74	自註鹿鳴集 [オンデマンド版]	104
建築史とは何か	95	自伝 [全2巻]	94
建築史の空間	71	シトー会建築のプロローグ	89
建築シンボリズム	87	写実と空想 [オンデマンド版]	107
建築制作論の研究	68	寫實の要件 [新装普及版]	44
建築タイプの歴史 [全2巻]	92	ジャン＝シメオン・シャルダンの芸術	59
建築的場所論の研究	93	11世紀イベリア半島の裝飾写本	51
建築と障壁画 [建築史研究の新視点 1]	74	十九世紀の建築著述家たち	93
建築における近代	84	十三松堂日記 [オンデマンド版] [全4巻]	109
建築の形態と比例の研究	78	17世紀オランダ美術と〈アジア〉	53
建築美学	87	住宅・都市史研究 [稲垣栄三著作集 3]	1
建築美学講義	78	書院造と数寄屋考	71
建築へ [新装普及版]	95	正倉院宝物の構造と技法	31
建築保存概念の生成史 [新装版]	69	障屏画研究 [山根有三著作集 5]	3
建築論全史 [全2巻]	83	昭和期美術展覧会出品目録 [戦前篇]	42
建築論の射程	89	初期イスラーム文化形成論	32
校刊美術史料 寺院篇 [全3巻]	84	初期ギリシア芸術における自然再現	63
江南禅院の源流、高麗の発展 [関口欣也著作集 2]	2	ジョットの藝術	54
興福寺創建期研究	23	初唐仏教美術の研究	33
興福寺南円堂と法相六祖像の研究	20	書に法あり	25
工部美術学校の研究	40	ジョルジョーネ解説	48
廣隆寺史の研究	18	白井晟一の伝統論と和室	75
光琳研究一 [山根有三著作集 3]	3		

書名索引

日本の美術と世界の美術	35	フェノロサ美術論集 [オンデマンド版]	110
日本美術院史 [オンデマンド版]	107	福井利吉郎美術史論集 [全3巻]	2
日本美術史論集	16	フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合的研究	98
日本美術年鑑	13	藤岡作太郎「李花亭日記」〈美術篇〉	44
		武士の絵画	25
		仏画の尊容表現	17
八		仏教芸術	14-15
バウハウス叢書 [新装版 全14巻]	11-13	仏教説話画の構造と機能	20
バウハウス工房の新製品 [新装版 バウハウス叢書 7]	12	仏教説話画論集 [全2巻]	21
バウハウスとその周辺 [I] [II] [バウハウス叢書別巻]	13	仏教彫像の制作と受容	20
バウハウスの実験住宅 [新装版 バウハウス叢書 3]	11	仏教と造形	30
バウハウスの舞台 [新装版 バウハウス叢書 4]	11	仏教美術史論	29
ハギア・ソフィア大聖堂学術調査報告書 [改訂]	90	仏伝図論考	37
萩藩江戸屋敷作事記録	69	プラートの美術と聖帯崇拜	50
柏亭自伝 [オンデマンド版]	105	ブラマンテ ルネサンス建築の完成者	92
博物館の未来を考える	103	ブラマンテ [イタリア・ルネサンス建築史ノート]	91
バステード	79	フランク・ロイド・ライトの建築思想	93
長谷寺銅板法華説相図の研究	21	フランス近代の図像学	51
八部衆像の成立と展開	35	フランス・クリュニー地方のロマネスク教会堂建築群	90
パブリックアートについて語り合う。	102	フランスの画家たち [オンデマンド版]	105
浜口陽三全版画作品集	102	フリースラント	79
パラゴーネ 諸学芸の位階論争	48	ブルネッレスキ [イタリア・ルネサンス建築史ノート]	91
パラディオの時代のヴェネツィア	96	ブレア・ヴィヘア	73
パラディオ図面集	85	文化財の保存環境	103
パリ都市建築の意味-歴史性	93	平安時代貴族住宅の研究	65
パリの中庭型家屋と都市空間	86	純平安時代貴族住宅の研究	65
パリの歴史的建造物保全	81	平安仏教彫刻史にみる中国憧憬	24
パルテノンの世界	78	平安密教彫刻論	27
パルテノン・フリーズ	61	米芾「画史」註解 [全2巻]	23
ピエール・ル・ミユエ「万人のための建築技法」注解	86	平面図としての「指図」の作図技法・描法の展開に関する研究 [近世建築指図の総合的研究 1]	69
ピエロ・デッラ・フランチェスカ	63	北京の四合院	76
東アジア I (後漢・三国・南北朝) [アジア仏教美術論集]	5	ベトナム・フエ城宮殿建築の修復と復原	70
東アジア II (隋・唐) [アジア仏教美術論集]	5	崩壊について	84
東アジア III (五代・北宋・遼・西夏) [アジア仏教美術論集]	5	方眼美術論	40
東アジア IV (南宋・大理・金) [アジア仏教美術論集]	5	北宋絵画史の成立	27
東アジア V (元・明・清) [アジア仏教美術論集]	5	法華経写経とその荘嚴	25
東アジア VI (朝鮮半島) [アジア仏教美術論集]	5	ボストン美術館日本美術総合調査図録	27
東アジア美術交流史論	29	ボッシュ「悦楽の園」の聖書における寓意の解釈	52
東アジア仏像史論	34	ボルソ・デステとスキファノイア壁画	51
ビザンティン聖堂装飾プログラム論	61	本阿弥行状記と光悦 [オンデマンド版]	108
ビザンティン余白詩篇写本挿絵研究	57		
毘沙門天像の成立と展開	24	マ	
美術科教育の方法論と歴史 [新訂増補] [オンデマンド版]	106	松岡壽研究	38
美術家列伝 [全6巻]	47	松岡壽先生	38
美術史「ウィーン学派」	55	末期ローマの美術工藝	62
美術史学の系譜	49	円山応挙研究	24
美術史学の歴史	52	ミケランジェロ研究	60
美術史における日本と西洋	40	密教建築空間論	75
美術史歴参 百橋明穂先生退職記念献呈論文集	30	南アジア I (マウリヤ朝-グプタ朝) [アジア仏教美術論集]	4
美術文献解題	55	南アジア II (ポスト・グプタ朝-パーラ朝) [アジア仏教美術論集]	4
常陸時代の雪村	19	南イタリア都市の居住空間	84
美の顕現 イタリア・ルネサンス美術論集	59	明代窯業史研究	22
美の司祭と巫女	61	無対象の世界 [新装版 バウハウス叢書 11]	12
屏風絵にみる季節	25	棟持柱祖形論	73
ピラネージ《牢獄》論	58	室町水墨画論集	32
ファンシー・ピクチャーのゆくえ	54	明治期建築学史	73
フィッシャー・フォン・エルラッハ「歴史的建築の構想」注解	89	明治期美術展覧会出品目録	41
フィリパール・ド・ロルム 建築書 注解	86	明治期府県博覧会出品目録	42
風景現象の建築論的研究	68	明治後期油画基礎資料集成	40
フェ	66		

明治前期油画基礎資料集成	40
明治洋画史料〔懷想篇〕〔オンデマンド版〕	105
明治洋画史料〔記録篇〕〔オンデマンド版〕	105
木造建築遺産保存論	76
木造建築の設計技術史	70
ヤ	
柳澤孝仏教絵画史論集	36
病草紙	20
山根有三著作集〔全7巻〕	3
油彩への衝動	58
ユトレヒト詩篇挿絵研究	57
様式の生成	79
様式への問い	62
横山大観〔オンデマンド版〕	107
横山大観《山路》〔美術研究作品資料〕	43
ラ	
Light & Color	18
ラファエッロと古代ローマ建築	81
リヒャルト・パウル・ローゼの構成的造形世界	101
龍華寺 菩薩半跏像〔美術研究作品資料〕	28
料理術の精神	62
臨終の住まいの建築論	75
ルクス・アルティウム 越宏一先生退任記念論文集	53
ル・コルビュジエ事典	95
ル・コルビュジエ書簡撰集	84
ル・コルビュジエ図面撰集：美術館篇	87
ル・コルビュジエと近代絵画	82
ル・コルビュジエの手	80
ル・コルビュジエ みずから語る生涯	91
ルチオ・フォンタナとイタリア 20 世紀美術	56
ルドゥー「建築論」註解〔全2巻〕	85
ルネサンス期トスカーナのステンドグラス	48
レオナルドの手稿、素描・素画に関する基礎的研究	56
レオンの「960年聖書」研究	52
ローマ ある都市の肖像 312～1308 年	52
ローマ サンタ・サビーナ教会木彫屏の研究	57
ロココを織る	53
ロドス島の古代彫刻	58
論集 日本の仮面〔全2巻〕	26
ワ	
若い読者のための仏教	98
若い読者のためのメルヘン	99

著・訳・編者名索引

ア			
相川 浩		伊東龍一	69
相澤正彦	78	稲垣栄三	1, 7, 74
會津八一	16	稲川直樹	92
アウト	104	井上 正	9
青木 茂	12	猪熊兼樹	18
青柳憲昌	38, 105	井面信行	62
青山愛香	64	茨城大学五浦美術文化研究所	39
赤澤英二	46, 48	今井兼次	2
秋山 聰	16	今泉篤男	44
秋山光和	46	今村洋一	66
上松佑二	17	林 南壽	18
浅野純一郎	64, 78	入江由香	95
浅野捷郎	78	岩田茂樹	10
芦田伊人	6	岩間 香	76
足立 薫	47	岩谷秋美	80
足立 康	3	印刷局朝陽会	44
足立 崇	65	ヴァーグナー	80
アドルノ	79	ヴァザーリ	47
アメンヘテプ三世王墓報告書刊行委員会	99	ヴィオレニル＝デュック	80
	99	ウィント	48
	99	植野健造	39
	99	ヴェルフリン	48
荒本文果	47	ヴォジヤンスキー	80
有賀祥隆	16	鶴沢 隆	80
アルブレヒト・デューラー	55, 61	歌田眞介	38, 40
アルベルティ	46, 78	内田篤呉	18
アレハンドロ	76	宇笠直子	47
ア (一) ロイス・リーグル	61-62	江口久美	81
アントニオ・ガウディ	89	MOA 美術館	19
アンドリュウ・リーチ	95	エルラッハ	89
アン・ニシムラ・モース	27	大上直樹	66
飯田喜四郎	80, 87-88, 92	大河直躬	7-8
飯淵康一	65	大久保尚子	19
池上公平	63	太田喬夫	48
池 浩三	65, 78	太田博太郎	3, 7, 74
石井柏亭	38, 105	オーデブレヒト	48
石井 洋	38	大橋一章博士古稀記念会	19
石井元章	38	大橋竜太	81
石川恒夫	79	岡 畏三郎	107
石澤靖典	47	岡 鹿之助	105
石田繁之介	65	岡田温司	63
石田尚豊	16-17	岡村 崔	57
石橋美術館	39	岡 泰正	19
泉 武夫	17	小川知二	19
泉 万里	18	小川裕充	20
磯崎 新	85	小川 勝	98
板倉聖哲	4-5	荻原守衛	106
井手誠之輔	5, 18	奥 健夫	10, 20
伊藤彰子	52	小熊虎之助	108
伊藤拓真	48	小倉遊亀	102
伊藤 毅	1, 66, 79	尾崎彰宏	49
伊藤哲夫	79	小佐野重利	49, 81
伊藤喜彦	79	オスカー・ベツェマン	48
		オットー・ヴァーグナー	80
		オナー	49
		オナイアンズ	81
		小野佳代	20
		五十殿利治	12
		オルテガ	79
カ			
		カーレル・ファン・マンデル	49
		甲斐教行	47-48, 59-60
		ガウディ	89
		陰里鉄郎	107, 110
		加治幸子	39
		加須屋誠	17, 20-21
		片岡直樹	21
		片木 篤	68
		片山伸也	81
		片山攝三	102
		勝 國興	49, 52, 55, 61
		勝 道興	98
		加藤邦男	95
		加藤耕一	82
		加藤哲弘	49, 62
		加藤悠希	66
		金井杜道	17
		金沢 陽	22
		金出ミチル	90
		金子一夫	39, 106
		金田千秋	50
		金田美世	101
		金原由紀子	50
		ガルニエ	94
		カルロ・デル・ブラーヴォ	59-60
		河合正朝	21
		河上真理	40
		川上 貢	66-67
		河北倫明	108
		河田智成	82
		河辺泰宏	87
		川向正人	82
		川本重雄	67
		姜 雄	81
		カンディンスキー	12
		木碑之注文研究会	67
		木下康光	99
		木俣元一	50
		木村三郎	50-51
		京谷啓徳	47, 51
		京都国立博物館	22
		京樂真帆子	76
		清瀬みさを	48
		清見陸郎	106
		桐敷真次郎	82, 85, 97

近世美術研究会	51	佐久間博	80	千代章一郎	84, 87
工藤圭章	8	佐々木健一	54	副島弘道	9-10
國賀由美子	16	佐々木丞平	24	外村 中	72
久野美樹	22	佐々木英也	54	孫曉雲	25
隈元謙次郎	106, 109	佐々木正子	24		
久米往一郎	40	佐々木守俊	24		
久米順子	51	定金計次	24		
クラウドハイマー	52	貞包博幸	11-13		
グラム	52	サディ	84		
グリフィス	52	佐藤 彰	84, 90		
ククターマン	52	佐藤一郎	40		
クルフト	83	佐藤達生	90, 92		
クレー	11	佐藤直樹	52, 54		
グレーズ	12	佐藤有希子	24		
呉谷充利	67, 82	澤村 仁	7		
黒岩俊介	83, 92	サンテリア	80		
黒川祐子	100	CIHA日本国内委員会	40		108-109
クロスリー	92	ジーモン	56		25
黒田清輝	42-43, 106-107	シェック	98		26
黒田泰三	22	ジェルゲン	98		47
グロピウス	11-12	篠塚千恵子	54		91
桑木野幸司	83	嶋田華子	41		4
毛塚実江子	52	清水重敦	69		41
建築論研究会	68	清水 擴	70		72
小泉晋弥	45	下村耕史	55, 61		9-10, 26
小出樹重	107	ジャン・ジャンジェ	84		56
香西克彦	68	ジャン・ニコラ・ルイ・デュラン	88		26, 30
高阪一治	52	シュルテ	98		タピスリー保存研究プロジェクト実
河野道房	23	シュレンマー	11		行委員会
幸福 輝	49, 53	シュロツサー	55		玉腰芳夫建築論集編集委員会
肥塚 隆	4	ジョルジョ・ヴァザーリ	47		73
古賀春江	107	ショワジー	85		多摩美術大学ポスター共同研究会
国立国際美術館	102	白井秀和	49, 80, 85, 96		101
越川倫明	47, 52, 57	白井裕泰	70		チェンニーニ
越 宏一	53	城野誠治	18, 22		108
越野 武	92	陣内秀信	84		竺 覚暁
越宏一先生退任記念論文集刊行会	53	須賀みほ	25		83
五島利兵衛	83	スカモッツィ	85		塚本麿充
小杉放菴記念日光美術館	43	菅原真弓	41		5, 27
小塚直斗	25	杉野 丞	70		塚本瑞代
小寺武久	68	杉本俊多	86, 88		27
後藤久太郎	68-69	杉本欣久	25		辻 絵理子
五島美術館	29	スコット	82		57
後藤道雄	23	鈴木嘉吉	70-71		辻 佐保子
小林亜起子	52-53	鈴木 隆	86		63
小林もり子	47	鈴木博之	1, 86		27
小林裕子	23	鈴木廣之	16		辻本敬子
古原宏伸	23	鈴木 恂	87		87, 92
古板江戸図集成刊行会	6	鈴木 亘	71		津田敏英
小松原郁	48	裾分一弘	56		27
小山真由美	24	須田国太郎	108		土本俊和
コルビュジェ	84, 95	須藤弘敏	25		73
		スミス	87		鼓 みどり
		関口欣也	2		57
		関口欣也先生退官記念論文集刊行会			41
		関 隆志	71		73
		関野貞研究会	56		77
		ゼルゲル	71		鶴岡明美
		瀬分 緑	87		27
			47		ディヴィ(ッ)ド・ワトキン
					96-97
					ディドロ
					54
					デル・ブラーヴォ
					59-60
					デューラー
					55, 61
					デュラン
					88
					土居義岳
					88
					ドゥースブルフ
					11
					東京国立博物館
					98
					東京国立文化財研究所
					28, 41
					東京文化財研究所
					13, 18-19,
					28, 31, 33, 39, 42-43, 103
					遠山公一
					63
					徳川美術館
					29

著・訳・編者名索引

利光 功	11-13, 101	パノフスキー	59	マ	
戸田勝久	29	濱島正士	8	マイヤー	11
百橋明穂	25, 29-30	濱田瑞美	5, 33	前川誠郎	35, 61
百橋明穂先生退職記念献呈論文集刊		早川泰弘	22	前川誠郎先生記念論集刊行会	61
行委員会	30	林 温	33	前川道郎	93
富山秀男	44	パラディオ	85	前田寛治	44
友岡真秀	47	ピーター・パーク	58	正木篤三	108
鳥居徳敏	89	ピエール・ル・ミュエ	86	正木直彦	109
トリスタン・ヴェディゲン	48	飛ヶ谷潤一郎	47, 58, 90, 96	増記隆介	35
ドルチェ	57	樋口 清	80, 94-95, 103	益田朋幸	61
ナ		彦根城博物館	33	松井みき子	68
中井淳史	99	土方定一	110	松井裕美	50
永井繁樹	48	肥田路美	4-5, 33	松岡智子	44
永井隆則	58	日高健一郎	81, 90	松政貞治	93
長尾重武	58, 85	日向一雅	75	松本 裕	91
長岡龍作	30	平田 寛	33	真山青果	6
中川 武	67, 73	平山育男	90	丸山 茂	77
中川武先生退任記念論文集刊行委員会	74	平山東子	59	マレーヴィチ	12
永田 郁	30	廣川暁生	49	三岸好太郎	109
中野 徹	30	ピュージン	90	三木哲夫	102
仲町啓子	31	ファン・マンデル	49	水上 優	93
中村貴志	89	フィリベール・ド・ロルム	86	水田一征	79
中村恵三	89	深田麻里亜	47, 59	水田 徹	61
中村 愿	39	深谷訓子	47, 49	水野敬三郎	9-10
中村琢巳	74	福井利吉郎	2	水野さや	35
中村達太郎	74	福島雅子	34	溝口明則	73
中村 彝	108	福田晴虔	1, 84, 91	溝口正人	68
中村昌生	8	福田美穂	72	三田村哲哉	94
中山典夫	52, 62, 98	福山泰子	4, 34	光井 涉	77
奈良国立博物館	31	藤井恵介	1, 75	宮川寅雄	106
ニコラウス・ベヴスナー	92-93	藤井久栄	108	宮崎法子	5, 36
西 和夫	74	藤岡 穰	34	宮治 昭	4-5, 36
西垣安比古	68	藤川昌樹	75	宮下規久朗	47
西川明彦	31	藤島武二	108	宮島久雄	11-13
西川杏太郎	9-10, 31	藤田勝也	76	三輪英夫	40
西澤泰彦	68	藤田経世	34-35	三輪福松	46
西田宏彦	32	藤田俊子	56	武笠 朗	10
西田雅嗣	89-90	藤本康雄	91	武笠由以子	52
西村謙司	75	プティ	91	村角紀子	44
蛭川式胤	45	船岡美穂子	59	村上華岳	109
蛭川順子	58	フランク	92	村上常一郎	109
丹羽和彦	84, 88	フランク・ロイド・ライト	94-95	明治美術学会	44
根立研介	9-10, 32	古川智次	107	モホリ=ナギ	11-13
野上建紀	99	古川 萌	47	森田優子	47
野々垣篤	68	ブルーノ・タウト	87-88	森田義之	45, 47-48, 57
野村幸弘	47	ブルクハルト	60	森 雅彦	46
ハ		ブルスキ	92	森 雅秀	4-5
パーク	58	フロイント	99	盛本直美	46
ハイデ(ツ)ガー	79	不破正仁	76	モルナール	11
芳賀京子	56, 58	文化庁	35	諸川春樹	58
袴田紘代	52	ベヴスナー	92-93	モンドリアン	11
朴 亨國	5	北京四合院研究会	76	ヤ	
「博物館の未来を考える」刊行会	103	ベケラー	79	谷古宇尚	47
長谷川奏	32	ベネデット・ヴァルキ	48	安田建一	109
長谷部楽爾	32, 103	坊城ガブリエラ知子	93	安田鞆彦	109
畑靖紀	32	坊城俊成	93	柳澤 孝	36
羽藤広輔	75	細井雄介	55, 59, 62-63	山川 暁	36
		堀田典裕	68	山岸吉弘	77
		ホルベイン工業技術部	60		
		本郷 新	103		

山口静一	110
山梨絵美子	18
山根有三	3
山本 樹	47
山本聡美	17, 20
山本 勉	9-10
横手義洋	94-95
吉岡健二郎	87
吉澤早苗	47
吉田綱市	93-94
吉田雅子	36
芳野 明	47
吉村作治	99
吉村作治先生古稀記念論文集編集委 員会	100
米崎清実	45
米田雄介	45
萬鉄五郎	110

ラ

ライト	94-95
ラバサ・ディアス	95
リーグル	61-62
リーチ	95
リュカン	95
ルーモール	62
ル・コルビュジエ	84, 95
レーヴァイ	63
レーネルト	100
ロッツ	96
ロンギ	63

ワ

ワイッツマン	63
脇坂 淳	37
渡邊 晶	77
渡邊里志	37
渡辺晋輔	58
渡辺真弓	96
渡辺道治	96
ワトキン	96-97

品切書目

2022年5月現在

ア

アーネスト・F・フェノロサ 久富 貢 1980
 会津八一全歌集 会津八一 1965
 会津八一の法帖 会津八一 1978
 会津八一の洋画 会津八一 1965
 会津八一俳句私解 会津八一 1983
 秋篠寺【美術文化シリーズ】 水沢澄夫 1968
 あぎのゝ 黒野清宇・川口霽亭 編 1991
 芥川龍之介遺墨 1960
 飛鳥寺【美術文化シリーズ】 坪井清足 1964
 麻生三郎全油彩 麻生マユ 編 2007
 新しい造形芸術の基礎概念[バウハウス叢書6]
 ドゥースブルフ 1974
 新しい造形(新造形主義)[バウハウス叢書5]
 モンドリアン 1991
 荒井寛方人と作品 野中退蔵 1974
 アルベルティ「絵画論」 三輪福松 訳 1992
 アルノルフィーニの婚約 エドウィン・ホール 2001
 アルブレヒト・デューラー「絵画論」注解
 下村耕史 2001
 アンデスの芸術 泉 靖一 1964
 池大雅画譜[全5輯] 山中蘭徑 他編 1956
 池大雅作品集 山中蘭徑 他編 1960
 石山寺【美術文化シリーズ】 猪川和子 1972
 伊勢神宮・大宮宮建築史論 林 一馬 2001
 イタリア・アルネサンス芸術論研究 裾分一弘 1986
 一図書館の由来記 栗本和夫 1980
 一水会五十年史 田中 譲 1988
 井戸尻 藤森栄一 1965
 井戸尻遺跡【美術文化シリーズ】 藤森栄一 1965
 いのちの泉を描いた画家 佐藤洋子 2008
 今井兼次著作集一 概論 1995
 今井兼次著作集四 旅記随想 1994
 いまのいま(麻生三郎詩文集) 麻生三郎 2004
 岩下洞穴の発掘記録 麻生 優 1968
 岩戸山古墳【美術文化シリーズ】 森貞次郎 1970
 印象 会津八一 1975
 飲中八仙歌 会津八一 1975
 インドの細密画 上野照夫 1971
 インドの美術 上野照夫 1964
 ヴィラルール・ド・オヌクール画帖の研究Ⅱ 藤本康雄 2001
 ヴィラルール・ド・オヌクールの画帖に関する研究 藤本康雄 1991
 上村松篁写生集・花鳥篇 1979
 上村松篁写生集・鳥篇 1973
 上村松篁写生集・花篇 1973
 ヴェネツィアの石[全3巻] ラスキン 1994-1996
 浮世絵随想 高橋誠一郎 1966
 浮世絵二百五十年 高橋誠一郎 1961
 浮世絵六大家名品撰全24図 高見沢忠雄 版 1960
 臼杵石仏【美術文化シリーズ】 谷口鉄雄 1966

歌をよむには 会津八一 1982
 浦上玉堂画譜[全3輯] 田中一松 他編 1977
 雲岡と龍門 長広敏雄 1964
 エーゲ美術 村田数之亮 1979
 营造法式の研究[全3巻] 竹島卓一 1997
 英文浮世絵二百五十年 高橋誠一郎 1965
 絵そして人、時 麻生三郎 1994
 絵具材料ハンドブック ホルベイン工業技術部 編 1997
 越天楽 川田 順 1967
 江戸時代洋風画史 成瀬不二雄 2002
 江戸城【美術文化シリーズ】 西 和夫 1982
 エトルリアの芸術 三輪福松 1968
 エドワード・S・モース ウェイマン 1976
 絵のある手紙[普及版・特装版] 木村荘八 1970
 絵仏師の作品 平田 寛 1997
 絵巻における神と天皇の表現 山本陽子 2006
 絵巻物叢考 梅津次郎 1968
 円覚寺【美術文化シリーズ】 貫 達人 1996
 大浦天主堂 桐敷真次郎 1968
 大阪府の博物館 千地万造 編 1983
 黄檗禅林の絵画 錦織亮介 2006
 大森貝塚 東京都大森貝塚保存会 編 1967
 岡倉天心アルバム 中村 愿 2000
 岡倉天心と五浦 森田義之・小泉晋弥 編 1998
 岡倉天心をめぐる人びと 岡倉一雄 1998
 思い出の我 有島生馬 1976
 オランダの建築[バウハウス叢書10] アウト 1994

カ

絵画・写真・映画[バウハウス叢書8] モホリ=ナギ 1993
 絵画に現れた光について
 ヴォルフガング・シェーネ 2009
 絵画の真生命 速水御舟 1996
 海住山寺【美術文化シリーズ】 工藤圭章 1968
 画家東遊録 ラファージ 1981
 画家フォンタネージ 井関正昭 1994
 各務鉦三作品集 各務鉦三 1987
 覚園寺【美術文化シリーズ】 井上 章 1965
 画材と素材の引き出し博物館 目黒区美術館 1995
 画材の博物館(新装普及版) 森田恒之 1994
 画室の中から 小倉遊亀 1979
 歌書一元 田辺古邨 1992
 假象の創造(増補版) 青木 繁 2003
 上総菅生遺跡 大場磐雄・乙益重隆 編 1980
 加曾利貝塚【美術文化シリーズ】 杉原荘介 1966
 加曾利貝塚Ⅰ 武田宗久 1971
 加曾利貝塚Ⅳ 滝口 宏 編 1977
 加曾利北貝塚 杉原荘介 編 1977
 加曾利南貝塚 杉原荘介 編 1976
 桂離宮【美術文化シリーズ】 藤園通夫 1965
 神奈川県の博物館 神奈川県博物館協会 編 1978
 鎌倉【美術文化シリーズ】 三山 進 1963
 ガラスの生長[普及版・特装版] 各務鉦三 1983

- 川村清雄研究 高階秀爾・三輪英夫 編 1994
元興寺【美術文化シリーズ】 岩城隆利 1982
韓国の建築 尹 張斐 2003
[新訂]観古図説一城郭之部一 蛭川式胤 1990
関西の近代建築 石田潤一郎 1996
関西モダンデザイン史 宮島久雄 2009
関西モダンデザイン前史 宮島久雄 2003
願成就院【美術文化シリーズ】 久野 健 1972
観世音寺【美術文化シリーズ】 谷口鉄雄 1964
漢代画像の研究 長広敏雄 1965
閑庭帖 會津八一 1969
寒燈集歌解 西世古柳平 1983
観音堂 會津八一 1970
記憶の中の古代 小佐野重利 1992
聞き小出橋重 小出龍太郎 1981
岸田劉生 東 珠樹 1978
木曾馬籠 菊池重三郎 1977
木曾馬籠【特装本】 菊池重三郎 1977
北野聖廟絵の研究 真保 亨 1994
きのふの空 芳賀 徹 1992
規範と形式 ゴンブリッチ 1999
キュービズム[バウハウス叢書13] グレーズ 1993
教育スケッチブック[バウハウス叢書2] クレー 1991
教会建築論叢 前川道郎 2002
経塚論考 保坂三郎 1971
京都御所【新訂】 藤岡通夫 1987
京都御所【美術文化シリーズ】 藤岡通夫 1967
ギリシアの陶器 村田敦之亮 1972
銀閣寺【美術文化シリーズ】 川上 貢 1977
金史研究【全3巻】 三上次男 1970-1972
近世近代町家建築史論 大場 修 2005
近世建築史論集 藤岡通夫 1969
近世都市空間の原景 伊藤裕久 2003
近世の建築 藤岡通夫 1971
近世の敷寄空間 西 和夫 1988
近世民家の成立過程 草野和夫 1995
近代建築 オットー・ヴァーグナー 1985
近代建築解体新書 木村 勉 1994
近代中国関係文献目録 同書刊行会 編 1980
近代日本版画の諸相 青木茂 監修 2002
近代日本美術教育の研究 明治・大正時代 金子一夫 1999
近代の神社景観 神道文化会 編 1998
近代の洋画人 隈元謙次郎 編 1959
近代ロンドン物語 ラスマッセン 1992
金鈴塚【美術文化シリーズ】 保坂三郎 1963
くがみ【限定版】 良寛 1973
窓筈引 會津八一 1970
熊本城【美術文化シリーズ】 藤岡通夫 1976
久米桂一郎日記 1990
鞍馬寺【美術文化シリーズ】 中野玄三 1972
鞍馬寺経塚遺物 保坂三郎 1971
呉建画集 呉 守一・山下一郎 編 1978
黒田清輝《智・感・情》 美術研究作品資料第1冊 東京文化財研究所 編 2002
桑山玉洲 松下秀磨 1957
芸術学の基礎概念 シュマルゾー 2003
芸術家の肖像 片山攝三 1994
芸術と進歩 ゴンブリッチ 1991
源氏物語絵にみる近世上流住宅史論 赤澤真理 2010
現代の記念物崇拜 その特質と起源 アロイス・リーゲル 2007
- 現代美術の作家たち1 今泉篤男 1972
現代美術の作家たち2【普及版・特装版】 今泉篤男 1975
建築医たちの神戸北野 建築修復学会 編 1998
建築家アルベルティ 相川 浩 1988
建築家・遠藤新作品集 遠藤 新 1991
建築家ガウディ 鳥居徳敏 2000
建築家シンケルとバルリン プント 1985
建築史攷 鈴木博之先生献呈論文集刊行会 編 2009
建築指図を読む 川上 貢 1988
建築史の脈脈 大河直躬先生退官記念論文集刊行会 編 1995
建築序説 ブロンデル 1990
建築試論 ローゼ 1986
建築史論叢 稲垣栄三先生還暦記念論文集刊行会 編 1988
建築心理学序説 ヴェルフリン 1988
建築と劇場 福田晴虔 1991
建築と民俗・芸能・技術・地震【建築史研究の新視点2】 西 和夫 2001
建築の五つのオーダー ヴィニョーラ 1984
建築の誕生 竺 覚暁 1985
建築の歴史・様式・社会 藤井恵介先生献呈論文集編集委員会 編 2018
建築論全集 第1巻 クルフト 2009
建築保存概念の生成史 清水重敦 2013
工芸の領分 樋田豊次郎 2003
構成的ポスターの研究 多摩美術大学ポスター共同研究会 2001
江南画冊 小杉放庵 1962
校本歴代名画記 谷口鉄雄 1981
高麗集 安田毅彦 1975
広隆寺【美術文化シリーズ】 水沢澄夫 1965
光琳研究二【山根有三著作集4】 山根有三 1997
黄金塚古墳【美術文化シリーズ】 森 浩一 1971
国際建築[バウハウス叢書1] グロピウス 1991
国宝 絹本著色十一面観音像 奈良国立博物館・東京文化財研究所 編 2006
こしかたの記【普及版・特装版】 鏡木清方 1961
続こしかたの記【普及版・特装版】 鏡木清方 1967
ゴシック建築の設計術 シェルビー 1990
ゴシック建築のリブ・ヴォールト 飯田喜四郎 1989
ゴシックの芸術 ヤンツェン 1999
古代ギリシアの建築家 クールトン 1991
古代都市ローマ 青柳正規 1990
古代美術史 ヴィンケルマン 2001
ゴットフリート・ゼムパーの建築論的研究 大倉三郎 1992
古典主義建築の系譜 サマーソン 1989
古都北京 北川桃雄 1969
小西家旧蔵光琳関係資料 山根有三 1962
小林古径画集 小林古径 1960
分冊小林古径画集 安田毅彦 他編 1960
古板江戸図集成 第5巻 古板江戸図集成刊行会 編 2001
是川遺跡 保坂三郎 1972
是川遺跡【美術文化シリーズ】 清水潤三 1966
コンドル建築図面集【全3巻】 河東義之 1980-1981
- サ
災害から文化財を守る【英文版】 国際シンポジウム組織委員会 編 1999
歳月の碑 宮川寅雄 1984
西国三十三所霊場寺院の研究 元興寺文化財研究所 編 1990
西大寺【美術文化シリーズ】 長谷川誠 1965
斎藤茂吉全画集 斎藤茂吉 1969

品切書目

西方浄土変の研究	大西磨希子	2007	大雅の書【普及版・特装版】	池 大雅	1970
材料から建築へ【バウハウス叢書14】	モホリ=ナギ	1992	醍醐寺【美術文化シリーズ】	清水善三	1974
坂本繁二郎	河北倫明	1974	大正期美術展覧会出品目録	東京文化財研究所 編	2002
座談五十年 飯彦先生の話	重田哲三	1989	大聖堂の生成	ゼーデルマイヤ	1995
作歌四十年	斎藤茂吉	1974	大同の古寺	北川桃雄	1969
さまざまな技能について	テオフィルス	1996	当麻寺【美術文化シリーズ】	北川桃雄	1966
山光集歌解	西世古柳平	1983	多賀城【美術文化シリーズ】	岡田茂弘	1977
三色すみれとなかなかまど(リトグラフ)	岡鹿之助		高橋由一油画の研究	歌田真介	1994
三千院【美術文化シリーズ】	三山 進	1970	武野紹鷗研究	戸田勝久	2001
サン・ドニ修道院長シュジェール	森 洋訳・編	2002	竹原古墳【美術文化シリーズ】	森貞次郎	1968
三人の革命的建築家	カウフマン	1994	多胡碑【美術文化シリーズ】	尾崎善左雄	1967
残燈集稿本	会津八一	1972	立籠【額装・軸装】	佐多芳郎	1992
潮見台遺跡	久保常晴	1971	田中一松絵画史論集【全2巻】	田中一松	1985
自画像【普及版・特装版】	高村豊周	1968	近くの顔	中川一政	1967
色彩論の基本法則	キュッパース	1997	筑前御抱え絵師	小林法子	2004
関谷学校【美術文化シリーズ】	城戸 久	1967	智積院【美術文化シリーズ】	山根有三	1964
自伝 ある芸術の形成	ライト	1988	竹喬挿画【普及版・特装版】	小野竹喬	1971
シャルトル大聖堂のステンドグラス	木俣元一	2003	千葉県の博物館	千葉県博物館協会 編	1978
修学院【美術文化シリーズ】	重森完途	1964	中近世都市形態史論	土本俊和	2003
秋仲道人の書	会津八一	1965	中国絵画史研究	島田修二郎	1993
続 秋仲道人の書	会津八一	1980	中国画卷の研究	古原宏伸	2005
秋草道人墨戯帖	会津八一	1965	中国画論の研究	古原宏伸	2003
集約江戸絵図【全3巻】	真山青果 編	1963	中国湖南省の漢族と少数民族の民家	土田充義・楊 慎初 編	2003
春日抄 三上次男隨筆集	三上次男	1988	中国の建築	竹島卓一	1970
瀟湘八景扇面帖	池 大雅	1970	中国の銅器	樋口隆康	1967
曙梅【木版画】	安田靉彦	1991	中国美術の図像と様式	曾布川寛	2006
勝常寺【美術文化シリーズ】	佐藤昭夫	1976	〈中世の秋〉の絵画	前川誠朗	1991
上代裂集成	澤田むつ代	2001	中尊寺【美術文化シリーズ】	保坂三郎	1962
縄文式土器	藤森栄一	1969	彫刻	ウイトコウア	1994
縄文土器の技術	新井司郎	1973	彫刻の生命【新装普及版】	中原悌二郎	1993
浄瑠璃寺【美術文化シリーズ】	水沢澄夫	1964	朝鮮の「すまい」	西垣安比古	2000
昭和期美術展覧会の研究	東京文化財研究所	2009	頂戴物図録	会津八一	1973
初期南画の研究	田中喜作	1972	坪内逍遙・会津八一往復書簡		1990
初期ネーデルラント絵画	バノフスキー	2001	鶴岡八幡宮【美術文化シリーズ】	貫 達人	1976
書想 文化の中の書道	平勢雨村	1995	出島図	長崎市出島史跡整備審議会 編	1987
白き山	斎藤茂吉	1977	デッサウのバウハウス建築【バウハウス叢書12】	グロピウス	1995
城と城下町	藤岡通夫	1988	デューラーの手紙 付家譜・覚書		1999
神護寺【美術文化シリーズ】	久野 健	1964	寺田寅彦画集【普及版・限定版】	寺田東一・山下一郎	1985
神社建築史論	丸山 茂	2001	天神縁起の系譜	須賀みほ	2004
寝殿造の空間と儀式	川本重雄	2005	転身の顔	江夏崎之助	1972
神仏習合像の研究	長坂一郎	2005	点と線から面へ【バウハウス叢書9】	カンディンスキー	1995
素顔の佐伯祐三	山田新一	1980	天目一中国黒釉の美	大阪市立東洋陶磁美術館 編	2020
図録ペルシアの陶器	三上次男	1962	東亜香料史研究	山田憲太郎	1976
続図録ペルシアの陶器	三上次男	1964	東海道分間絵図【全2巻】	真山青果 編	1960
諏訪大社【美術文化シリーズ】	藤森栄一	1965	東京国立博物館図版目録 縄文遺物篇(骨角器)		2003
清涼寺【美術文化シリーズ】	佐々木剛三	1965	東京国立博物館図版目録 縄文遺物篇(土偶・土製品)		1996
関根正二 遺稿・追想【新装版】	関根正二	1991	東京国立博物館図版目録 朝鮮陶磁篇(青磁・粉青・白磁)		2007
せせらぎ日記	谷口吉郎	1980	東京国立博物館図版目録 琉球資料篇		2003
雪舟等楊	山口県立美術館 編	2006	東寺観音院蔵 五大虚空蔵菩薩像【美術研究作品資料】		2003
雪村研究	赤澤英二	2003	東寺観音院蔵 五大虚空蔵菩薩像【美術研究作品資料】	東京文化財研究所 編	2003
造形芸術における形の問題	ヒルデブランド	1993	陶磁の道	三上次男	2000
装飾と罪悪	ロース	1987	唐招提寺【美術文化シリーズ】	安藤更生	1963
装飾と犯罪	ロース	2005	唐招提寺古経遣【普及版・特装版】	堀池春峰他	1975
装飾と犯罪【新装普及版】	ロース	2011	冬青小林勇画集	小林 勇	1969
宗達研究二【山根有三著作集2】	山根有三	1997	東大寺二月堂修二会の研究	元興寺文化財研究所 編	1979
祖父岡倉天心	岡倉古志朗	1999	童馬山房歌帖	斎藤茂吉	1969
村莊雑事	会津八一	1974	東北古代彫刻史の研究	久野 健	1971
			東北民家史研究	草野和夫	1991

夕

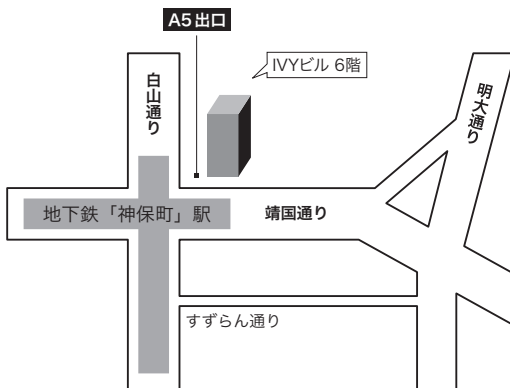
- 東洋漆芸史の研究 岡田 譲 1978
 東洋美術研究 谷口鉄雄 1994
 東洋美術論考 谷口鉄雄 1973
 遠くの顔 中川一政 1967
 土牛素描 奥村土牛 1987
 土牛挿画【普及版・特装版】 奥村土牛 1971
 都市遺産の保存研究 宮本雅明 2012
 都市空間の近世史研究 宮本雅明 2005
 塔婆建築の研究【足立康著作集3】 足立 康 1987
 富本憲吉模様選集【普及版・特装版】 富本憲吉 1957
 鳥たちに魅せられて 上村淳之 1997
 登呂遺跡【美術文化シリーズ】 杉原荘介 1957
- ナ
- 内閣勲業博覧会美術品出品目録 東京文化財研究所 編 1996
 中井家文書の研究【全10巻】 平井 聖 1976-1985
 中川一政書蹟 1967
 中川一政挿画【普及版・特装版】 1971
 中川一政装釘【普及版・特装版】 1976
 中村彝の周辺 鈴木木三 1977
 中谷宇吉郎画集 山下一郎 編 1979
 名古屋城【美術文化シリーズ】 城戸 久 1966
 夏島貝塚【美術文化シリーズ】 杉原荘介 1964
 奈良時代建築の研究 浅野 清 1969
 奈良美術成立史論 大橋一章 2009
 南京新唱 会津八一 1964
 南禅寺【美術文化シリーズ】 井上 章 1982
 南都遺蹟 安藤更正 1970
 南都七大寺の研究 大岡 實 1966
 南蛮屏風集成
 坂本 満・成澤勝嗣・泉 万里・日高 薫他 編著 2008
 日本絵画史研究 島田修二郎 1987
 日本絵画史論集 田中一松 1966
 日本絵画の風景表現 成瀬不二雄 1998
 日本金工談叢 香取秀真 1958
 日本原始古代の住居建築 宮本長二郎 1996
 日本建築史基礎資料集成7(仏堂4) 太田博太郎 監修 1975
 日本建築史基礎資料集成14(城郭1) 太田博太郎 監修 1978
 日本建築史基礎資料集成15(城郭2) 太田博太郎 監修 1982
 日本建築史基礎資料集成16(書院1) 太田博太郎 監修 1971
 日本建築史基礎資料集成17(書院2) 太田博太郎 監修 1974
 日本建築の意匠と技法 大岡 實 1971
 日本建築の特徴 太田博太郎博士還暦記念論文集刊行会 編 1976
 日本古印新考 会田富康 1981
 日本古代金銅仏の研究 薬師寺篇 松山鉄夫 1990
 日本古代中世住宅史論 藤田勝也 2002
 日本古代彫刻史概説 町田甲一 1974
 日本古代の都城と建築 澤村 仁 1995
 日本肖像画史 成瀬不二雄 2004
 日本上代史の一研究 池内 宏 1970
 日本浄土曼荼羅の研究 元興寺文化財研究所 編 1987
 日本水墨画論集 松下隆章 1983
 日本青銅器の研究 杉原荘介 1972
 日本中世絵画の新資料とその研究 赤沢英二 1995
 日本中世住宅の研究【新訂】 川上 貢 2002
 日本彫刻史基礎資料集成 平安時代重要作品篇【全5巻】 丸尾彰三郎 編 1973-1997
 日本彫刻史基礎資料集成 平安時代造像銘篇【全8巻】 丸尾彰三郎 編 1966-1971
- 日本彫刻史研究 水野敬三郎 1996
 日本彫刻史の視座 紺野敏文 2003
 日本彫刻史論集 西川新治 1991
 日本の青 前田青郎 1957
 日本の近代建築(稲垣栄三著作集5) 稲垣栄三 2009
 日本の建築 大岡 實 1967
 日本の建築と庭 西澤文隆 2006
 日本の伝統的都市空間 宮脇 檀 2003
 日本の陶磁 小山富士夫 1962
 続日本美術院史 竹田道太郎 1976
 日本美の源泉 高村光太郎 1972
 日本仏教民俗基礎資料集成【全7巻】 元興寺文化財研究所 編 1974-1980
 日本仏塔集成 濱島正士 2001
 人間風景(新装増補版) 松本竣介 1990
 仁和寺【美術文化シリーズ】 清水善三 1967
 ネパールの王宮建築 日本工業大学 編 1981
 ネパールの王宮と仏教僧院 日本工業大学 編 1987
 ネパールの仏教僧院 日本工業大学 編 1998
 涅槃図の図像学 赤澤英二 2012
- ハ
- ハイデッガーの建築論 ハイデッガー 2008
 バウハウス工房の新製品【バウハウス叢書7】 グロピウス 1991
 バウハウス叢書【全14巻】 1991-1995
 バウハウスの実験住宅【バウハウス叢書3】 マイヤー 1991
 バウハウスの舞台【バウハウス叢書4】 シュレンマー 1991
 パウラ・モーダーゾーン＝ベッカー 佐藤洋子 2003
 柏亭自伝【特装本】 石井柏亭 1971
 花に生きる人たちへ 山根翠堂 1967
 パラーディオ『建築四書』注解 桐敷真次郎 1986
 バリ都市計画の歴史 ラヴダン 2002
 春さき【木版画】 今村紫紅 1993
 汎アジアの仏教美術 宮治昭先生献呈論文集編集委員会 編 2007
 繁華街にみる都市の近代 東京 鶴田 亨 2001
 半世紀の素描 初田吾郎 1982
 比較建築論 相川 浩 2003
 美学綱要 ベネデット・クロウチエ 2008
 東山水墨画の研究(増補版) 渡辺 一 1985
 彦根城【美術文化シリーズ】 城戸 久 1966
 美術史における軌跡と波紋 辻佐保子先生献呈論文集刊行会 編 1996
 美術史論の断章 谷口鉄雄 1983
 ひたすら造形のことばで 岡鹿之助 1998
 日向薬師【美術文化シリーズ】 渋江二郎 1965
 美の解析 ウィリアム・ホガース 2007
 姫路城【美術文化シリーズ】 藤岡通夫 1965
 表現者・堀口捨己 藤岡洋保 2009
 兵庫北関入船納帳 林屋辰三郎 1981
 平等院鳳凰堂色紙形の研究 小松茂美 1973
 ピラネージと古代ローマの壮麗 マレー 1990
 広重「東海道五十三次」全55図 高見沢忠雄 1958
 フィレンツェの秋 裾分一 編 1995
 ふうじん帖 平田 寛 1996
 復原研究と復原設計【建築史研究の新視点3】 西 和夫 2001
 福澤諭吉百通の手紙 銘 相武 1984
 福山敏男著作集【全6巻】 1982-1984

品切書目

- | | | | | |
|----------------|--------------|------|--------------------|------------------|
| 富士(木版画) | 奥村土牛 | 1989 | 安田鞞彦色紙複製「林檎」 | 1984 |
| 富士山の絵画史 | 成瀬不二雄 | 2005 | 安田鞞彦小色紙複製「国上山」 | 1984 |
| 藤川勇造作品集 | 藤川勇造 | 1967 | 安田鞞彦画集 | 1965 |
| 藤原宮【美術文化シリーズ】 | 工藤圭章 | 1967 | 安田鞞彦自筆画帖・川端康成全集装画帖 | 1976 |
| 仏教荘厳の研究 | 安藤佳香 | 2003 | 安田鞞彦写生集 | 1979 |
| 仏教美術史の研究 | 清水善三 | 1997 | 続安田鞞彦写生集 | 1979 |
| 仏教美術史論考 | 高田 修 | 1969 | 安田鞞彦の書 | 1979 |
| 仏教美術文献目録 | 高田 修他 編 | 1973 | 山のスケッチ | 高村光太郎 1966 |
| ふるさと【限定版】 | 良寛 | 1972 | 山鳩 | 会津八一 1971 |
| ふるさと・くがみ | 良寛 | 1974 | 雪あかり日記【普及版・特装版】 | 谷口吉郎 1974 |
| ブルネレスキ伝 | マネッティ | 1989 | 鞞彦装画十六図 | 安田鞞彦 1992 |
| 平安宮内裏の研究 | 鈴木 亘 | 1990 | 様式 スタイル | シャピロ/ゴンブリッチ 1997 |
| 平安時代仏教建築史の研究 | 清水 擴 | 1992 | | |
| 平安彫刻史の研究 | 清水善三 | 1996 | | |
| 平家納経 | 小松茂美 | 2005 | | |
| 平城宮【美術文化シリーズ】 | 坪井清足 | 1977 | | |
| ペルシアの陶器 | 三上次男 | 1969 | | |
| 放庵画談 | 小杉放庵 | 1980 | | |
| 法界寺【美術文化シリーズ】 | 中野玄三 | 1974 | | |
| 法隆寺建築の研究 | 浅野 清 | 1983 | | |
| 法隆寺金堂の諸問題 | 竹島卓一 | 1975 | | |
| 法隆寺の建築 | 浅野 清 | 1984 | | |
| 法隆寺の彫刻 | 長谷川伝次郎・久野 健 | 1958 | | |
| 北斎「富嶽三十六景」全36図 | 高見沢忠雄 | 1962 | | |
| ぼくらの東洋史 | 三上次男 | 1992 | | |
| ボザール建築理論講義 | バルタール | 1992 | | |
| 北関山城 | 三上次男・田村晃一 | 1993 | | |
| 法界寺【美術文化シリーズ】 | 町田甲一 | 1964 | | |
| ボツィチェッリ全作品 | 高階秀爾・鈴木杜幾子 編 | 2005 | | |
| 本願寺【美術文化シリーズ】 | 濱田 隆 | 1967 | | |
-
- | | | | | |
|-------------------|--------------|-----------|--|--|
| マ | | | | |
| マルカタ王宮の研究 | 早稲田大学 | 1993 | | |
| 満鮮史研究〔近世篇〕 | 池内 宏 | 1972 | | |
| 三上次男著作集〔全6巻〕 | | 1987-1990 | | |
| 南桂寺全版画作品集 | | 1997 | | |
| 妙心寺【美術文化シリーズ】 | 井上 章 | 1973 | | |
| 無対象の世界〔バウハウス叢書11〕 | マレーヴィチ | 1992 | | |
| 村上華岳 | 河北倫明 | 1969 | | |
| 村上華岳画集 | 村上華岳 | 1962 | | |
| 村上華岳「反古集」 | 村上華岳 | 1968 | | |
| 村上華岳名品複製十図 | 村上華岳 | 1962 | | |
| 村田治郎著作集〔全3巻〕 | | 1986-1988 | | |
| 室生寺【美術文化シリーズ】 | 北川桃雄 | 1963 | | |
| 室生寺剎塔の研究 | 元興寺文化財研究所 | 1976 | | |
| 室町絵画の残像 | 山下裕二 | 2000 | | |
| 室町時代の狩野派 | 京都国立博物館 編 | 1999 | | |
| 明治期万国博覧会美術品出品目録 | 国立東京文化財研究所 編 | 1997 | | |
| 明治日本画史料 | 青木 茂 編 | 1991 | | |
| 木造組構法の近代化 | 源 愛日 | 2009 | | |
| 木彫七十年 | 高村光雲 | 1967 | | |
| 桃山絵画研究〔山根有三著作集6〕 | 山根有三 | 1997 | | |
-
- | | | | | |
|----------------|-------|------|--|--|
| ヤ | | | | |
| 薬師寺【美術文化シリーズ】 | 町田甲一 | 1963 | | |
| 安田鞞彦 | 竹田道太郎 | 1988 | | |
| 安田鞞彦色紙複製「曙富士」 | | 1984 | | |
| 安田鞞彦色紙複製「梅花早春」 | | 1984 | | |
| 安田鞞彦色紙複製「白梅」 | | 1984 | | |
-
- | | | | | |
|--------------------------|-------------|-----------|--|--|
| ラ | | | | |
| ラヴェンナのモザイク芸術 | 越 宏一 | 2016 | | |
| ラスキンとヴィオレ・ル・デュク | ベブスナー | 1990 | | |
| ラスキンとモリスの建築論的研究 | 白石博三 | 1993 | | |
| 蘭亭序論争注 | 谷口鉄雄・佐々木猛 | 1993 | | |
| 李禹煥全版画1970-1998【普及版・特装版】 | | 1998 | | |
| 利休居士像 千宗巨筆 | | 1992 | | |
| 理性の時代の建築 イギリス・イタリア篇 | カウフマン | 1993 | | |
| 理性の時代の建築 フランス篇 | カウフマン | 1993 | | |
| 琉球祭祀空間の研究 | 伊從勉 | 2005 | | |
| 良寛和尚像 | 安田鞞彦 | 1984 | | |
| 良寛の書 安田鞞彦の愛蔵品 | | 1985 | | |
| 良寛複製 自画像 | | 1988 | | |
| 良寛複製 消息 | | 1988 | | |
| 良寛墨蹟大観〔全6巻〕 | | 1992-1994 | | |
| 類聚雑要抄指図巻 | 川本重雄・小泉和子 編 | 1998 | | |
| ル・コルビュジェの宗教建築と「建築的景観」の生成 | 千代章一郎 | 2004 | | |
| ルドゥーからル・コルビュジェまで | カウフマン | 1992 | | |
| ルネサンスとバロック | ヴェルフリン | 1993 | | |
| ルネサンスの肖像画 | ヘネシー | 2002 | | |
| 喉禽集 | 上村松篁 | 1991 | | |
| レオナルド・ダ・ヴィンチ | 裾分一弘 | 1983 | | |
| レオナルド・ダ・ヴィンチの「絵画論」攷 | 裾分一弘 | 1977 | | |
| レオナルドに会う日〔新装普及版〕 | 裾分一弘 | 1984 | | |
| 歴史的環境保存論〔稲垣栄三著作集7〕 | 稲垣栄三 | 2009 | | |
| 歴史と文化の町並み事典 | 文化庁 編 | 2015 | | |
| レンブラント | 嘉門安雄 | 1968 | | |
| 老画家の一生【普及版・特装版】 | 津田清楓 | 1963 | | |
| ローマにおけるバロック芸術の成立 | リーグル | 2009 | | |
| 六波羅蜜寺【美術文化シリーズ】 | 毛利 久 | 1964 | | |
| 鹿鳴集歌解 | 吉野秀雄 | 1971 | | |
| ロダン | 菊池一雄 | 1968 | | |
| ロンドン物語 | ラスムッセン | 1987 | | |
-
- | | | | | |
|-------------------|--------|------|--|--|
| ワ | | | | |
| 若い読者のための世界史 | ゴンブリッチ | 2004 | | |
| 若き武者【額装・軸装】 | 佐多芳郎 | 1992 | | |
| 私が愛したイタリアの美術 | 井関正昭 | 2006 | | |
| わたしの良寛さま【普及版・特装版】 | 小島真雄 | 1997 | | |

ご注文について

- ご注文はなるべく、お近くの書店をお願いいたします。書店の店頭がない場合は、その書店にご注文ください。
- 直接小社へご注文の場合は、下記連絡先にお電話もしくはメールにてお問い合わせください。送料がご注文1回の配送につき671円（消費税10%込）かかります。お買い上げ金額が合計10,000円（税込）以上は送料サービスとさせていただきます。代引き宅配便もご利用いただけます。
- ご送金は
「ゆうちょ銀行振替払込口座番号 00190-2-6336」
または
「三井住友銀行銀座支店 当座 No. 6201844」
をご利用ください。
- 継続的に新刊情報をご希望の方は、営業部までお申し込みください。愛読者名簿に登録の後、随時ご案内を差し上げます。
- この目録の本体価格は令和4年（2022年）5月現在で表示いたしました。今後重版の際には本体価格の改訂を行うことがありますが、予めご諒承ください。また今後在庫品切となる書目もございます。併せてご諒承ください。



中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1丁目10番1号
IVYビル6階

TEL : 03-5577-4797

FAX : 03-5577-4798

e-Mail : chukobi@chukobi.co.jp

東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線
「神保町」駅 A5 出口 徒歩 0 分
JR「御茶ノ水」駅御茶ノ水橋口 徒歩 10 分
JR「水道橋」駅東口 徒歩 10 分